

HYOGO・KOBE 2022

ぼうさい こくたい

未来につなぐ災害の経験と教訓
～忘れない、伝える、活かす、備える～



ぼうさいこくたい
イメージキャラクター
「Bちゃん」



兵庫県
マスコットキャラクター
「はばたん」

同時開催
ALL HAT
ひょうご
防災
フェスタ
2022

令和4年 第7回防災推進国民大会 2022 in 兵庫

参加
無料

10/22 土

10:00～
18:00

屋外展示は17時まで

23 日

10:00～
15:30

実施報告書

「防災推進国民大会（通称「ぼうさいこくたい」）」は、産学官、NPO・市民団体や国民の皆様が日頃から行っている防災活動を全国的な規模で発表し、また、交流する日本最大級の防災イベントです。

7回目を迎えた本年度は、令和4年10月22日と23日の2日間、兵庫県神戸市にて、現地参加とオンラインツールでの視聴を併用したハイブリッド形式にて開催し、約12,000人の方々に現地でご参加いただいたほか、オンラインで約11,000回のご視聴をいただきました。

今大会は、延べ319の団体に282の催事を実施いただき、過去最多の出展規模となりました。このため、多くの団体に出展いただけるよう、取組をステージで発表いただく「イグナイトステージ」を新設したほか、ワークショップの1コマ当たりの時間を短縮する代わりにプログラム数を増やしたことや、複数の団体による共同出展を促したことなどを通じて、出展団体にも多くのご協力をいただきました。

今大会の会場となった「HAT神戸」は、防災や人道支援など様々な分野の専門機関・国際機関が集積し、互いに連携しながら国際防災拠点として活動している地域で、阪神・淡路大震災の復興まちづくりのシンボルでもあります。その中の一つ「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」は、震災後、実践的な防災研究や人材育成、被災地支援など、国内外の防災・減災活動の推進に貢献してきましたが、折しも令和4年は開設から20年の節目を迎える年でありました。同センターとも協力し、本年のぼうさいこくたいは、「ALL HATひょうご防災フェスタ2022」との同時開催や、ぼうさいこくたいを開催前から大いに盛り上げようと地元有志で企画した会議（現地企画・情報共有会議）を通じて生まれた共同企画など、これまで以上に地元の方々と一緒になって作り上げた大会となりました。

防災力を高めるためには、行政による「公助」、国民一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域、企業、学校、ボランティアなどが互いに助け合う「共助」、これらを適切に組み合わせることが重要で、さらに、災害時に命を守るために、官民の様々な主体が連携し、それぞれの力が「つながる」ことがとても大切です。阪神・淡路大震災では、沢山の尊い命が奪われましたが、一方で、全国から大勢のボランティアが被災地に駆けつけ、復興を支援するとともに、多くの方々が災害ボランティアに関心を持つきっかけとなり、「ボランティア元年」とも言われています。まさに人と人がつながり、助け合うことが、復興の大きな力となることを私たちに教えてくれた震災でもありました。

阪神・淡路大震災から既に28年が経ちましたが、震災の記憶を風化させることなく、経験者による語り部活動や、震災から学んだ教訓を防災教育などを通して次の世代に伝えていくなど、未来へ備えるための取組が重要です。今大会は「未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～」をテーマに、阪神・淡路大震災の経験や教訓の伝承の重要性を再認識し、私たち一人ひとりが日頃から防災に取り組むことの大切さを訴える機会にしたいと考えました。

今回の「防災推進国民大会2022」を通じて、神戸より災害の経験と教訓を発信することで、多様な主体が連携する大切さとともに、未来の命を守る教訓を伝え、多くの方々の防災意識向上に寄与できたのではないかと実感しています。

結びに、今大会の開催に当たり格別の御尽力、御協力をいただいた兵庫県、神戸市、人と防災未来センターをはじめ、関係する多くの皆様に深く感謝申し上げます。

●開催概要		●セッション詳細	
概要	5	谷防災担当大臣 挨拶	30
大会データ	6	セッション詳細	31
大会スケジュール	7		
大会運営①共催イベント	8	●ワークショップ詳細	46
大会運営②感染症対策など	9		
		●プレゼンブース詳細	54
●出展団体リスト	11		
		●屋外展示詳細	76
●プログラム	17		
		●ポスターセッション詳細	85
●会場詳細	24		
		●イグナイトステージ詳細	95

開催概要

開催概要

- 名称 防災推進国民大会2022（ぼうさいこくたい2022）
※正式な企画名称は「防災推進国民大会」になりますが、
より国民になじみやすく覚えやすくするために、平仮名で「ぼうさいこくたい2022」と呼称します。
- テーマ 未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～
- 開催趣旨 「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図る。
- 会 期 2022年10月22日（土） 10:00～18:00 ※屋外展示は17時まで
10月23日（日） 10:00～15:30
- 会 場 兵庫県神戸市のHAT神戸地区を中心とするエリア
人と防災未来センター、国際協力機構関西センター（JICA関西）、IHDセンタービル（兵庫県国際交流協会、国際健康開発センタービル）、なぎさ公園）
- 主 催 防災推進国民大会2022実行委員会
（内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議）
- 協 力 兵庫県、神戸市、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
- 協 賛 兵庫県国際交流協会
- 対象者 防災に関心のある方、学びたい方
- 入場料 無料
- ウェブサイト <https://bosai-kokutai.jp/>

来場者数・視聴数

	10/22 (土)	10/23 (日)	合計
現地来場者数	約6,500人	約5,500人	約12,000人
オンライン視聴数	約8,000回	約3,000回	約11,000回

出展数

タイプ	内容	出展数
① セッション	講演やパネルディスカッションを行うタイプ	41
② ワークショップ	来場者参加のワークショップ	31
③ プレゼンテーション	出展者がブースに常駐して来場者に説明をするタイプ	104
④ ポスターセッション	ポスターを掲出し、来場者に見ていただくことでご理解いただくタイプ	46
⑤ 屋外展示	車両展示や屋外テントでの出展（アトラクション出展など）	31
⑥ イグナイトステージ	出展者の取組をステージで発表するタイプ	20
⑦ その他（ALLHAT等）		9
合計		282

パターン	内容	出展数
1 パターン1	現地出展	203
2 パターン2	現地出展+オンライン	40
3 パターン3	オンライン	30
4 その他（ALLHAT等）		9
合計		282

団体数

出展タイプ	現地出展団体数		オンライン 出展団体数	出展団体数 合計
	単独出展団体数	共同出展団体数		
セッション	29	2	11	42
ワークショップ	23	12	3	38
プレゼンテーション	85	6	16	107
ポスターセッション	46	0	0	46
屋外展示	24	33	0	57
イグナイトステージ	20	0	0	20
その他（ALLHAT等）	9	0	0	9
合計				319

セッション登壇員数

両日合計248人
※オンライン登壇者含む

来場者アンケート回収数

回収数1,009件（用紙回答615件、オンライン回答394件）

現地調査日	2022年10月22日(土)～10月23日(日)
オンライン調査日	2022年10月22日(土)～10月27日(木)

団体内訳

タイプ	参加対象（向け）						団体種別												
	専門	企業	自治体	一般	学生	子供	省庁	都道府県	市区町村	独立行政法人	公益法人	一般社団法人	小中学校	大学 研究機関	企業	NPO NGO	学生団体	その他	
セッション	11	5	18	20	5	0	1	3	1	1	5	5	0	9	1	1	1	11	
オンラインセッション	3	2	7	9	0	0	1	1	0	0	1	3	0	3	0	0	0	4	
ワークショップ	0	1	12	28	12	12	2	0	1	0	5	5	0	5	5	6	4	10	
オンラインワークショップ	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
プレゼンテーション	8	14	48	71	10	13	5	6	6	7	8	12	3	11	11	10	3	20	
オンラインプレゼンテーション	2	1	6	13	2	4	0	1	1	0	0	3	0	1	2	2	1	6	
屋外展示	5	6	21	45	11	12	7	2	3	0	2	7	0	8	8	7	5	10	
ポスターセッション	8	14	22	32	9	3	0	1	2	0	1	5	0	7	19	4	1	5	
イグナイトステージ	1	4	9	9	1	2	0	0	0	0	0	1	0	1	15	1	1	3	
合計	38	47	146	230	50	46	16	14	14	8	22	41	3	45	61	33	16	71	
総計	557						344												

※複数回答あり

キーワード

タイプ	キーワード																					
	地震・ 火山	土砂 災害	風水害	南海 トラフ	科学・ 技術	災害 情報	自助・ 共助	地域 防災	避難・ 避難所	ポラン ティア	災害教訓 ・ 伝承	防災 行政	企業 防災	医療・ 福祉	都市 建築 住宅	災害 廃棄物	備蓄・ グッズ	教育	ゲーム	ペット	国際	その他
セッション	3	1	0	3	2	1	3	8	4	1	6	4	1	5	0	0	0	8	0	0	2	4
オンラインセッション	3	2	3	1	1	2	3	2	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	3
ワークショップ	4	1	5	3	1	0	7	9	4	4	5	2	1	1	0	0	2	10	4	0	1	7
オンラインワークショップ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
プレゼンテーション	10	0	4	7	6	6	19	29	10	5	11	14	4	6	3	0	4	17	3	0	4	12
オンラインプレゼンテーション	1	0	1	0	1	0	2	4	2	0	3	1	2	0	0	0	0	5	0	0	2	4
屋外展示	2	3	3	0	3	0	8	11	10	8	11	6	2	8	0	1	3	12	0	3	1	7
ポスターセッション	3	1	2	1	6	3	8	11	4	1	5	4	2	1	2	1	10	8	1	0	1	4
イグナイトステージ	2	1	0	3	2	2	9	5	3	0	2	1	2	1	1	0	4	2	1	1	0	0
合計	28	9	18	18	22	14	59	80	40	21	44	34	15	24	7	3	24	63	11	5	12	43
総計	594																					

※複数回答あり

	出展団体対応	大会周知・広報
4月25日（月）	出展者公募案内	
4月28日（木）	(現地企画情報共有会議①)	
5月10日（火）	出展者公募説明会	
5月11日（水）	出展公募開始	
5月19日（木）	(現地企画情報共有会議②)	
5月31日（火）	公募締切	
7月4日（月）	出展団体へ出展決定連絡	
7月8日（金）	出展者説明会①	
8月8日（月）		プレスリリース①
8月18日（木）	(現地企画情報共有会議③)	
8月30日（火）		プレスリリース②
9月1日（木）		スタンプラリーリリース①
9月20日（火）	下見会・出展者説明会②	
10月11日（火）		プレスリリース③
10月19日（水）		プレスリリース④
10月20日（木）	設営・出展準備	
10月21日（金）	設営・出展準備	
10月22日（土）	ぼうさいこくたい2022【1日目】	スタンプラリーリリース②
10月23日（日）	ぼうさいこくたい2022【2日目】	
10月26日（水）	出展者アンケート締切	

ALL HAT ひょうご防災フェスタ2022

- 主催（事務局）：人と防災未来センター
- イベント概要：

人と防災未来センターが例年実施しているHAT神戸の防災訓練イベント「ALL HAT」。7回目となる今年は「ぼうさいこくたい2022」の開催に合わせ、さらに 規模を拡充し、全国から訪れる皆さまに向けて、震災復興まちづくりのシンボルとして 整備されたHAT神戸から、震災の経験と教訓や最新の防災・減災の姿を発信します。

- 日時：令和4年10月22日(土)、23日(日)
- 開催場所：人と防災未来センター屋外敷地およびなぎさ公園内
- 特設ウェブサイト：<https://hitobou.com/allhat>

令和4年度災害廃棄物対策推進シンポジウム

※事前予約制

- 主催：環境省
- イベント概要：

災害の復旧・復興期に重要となる災害廃棄物対策に関するシンポジウムです。今年度は「災害廃棄物処理の経験の伝承」をテーマに、災害発生時における国、自治体、民間事業者等の役割や過去の災害廃棄物対策の事例紹介、パネルディスカッション等を実施します。

- 日時：令和4年10月23日(日)12:30~16:00
- 開催場所：兵庫県立美術館 ミュージアムホール
- ホームページ：<http://kouikishori.env.go.jp/>



あなたは、大切な人を救えますか？

- 主催：日本赤十字社 兵庫県支部
- イベント概要：

- ①兵庫県赤十字救急法競技大会(事前申込者対象)見学可能
- ②防災・減災体験ツアー(当日参加募集) 防災すごろく、ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん
- ③50人一斉心肺蘇生 -心肺蘇生とAEDの使い方-

- 日時：
- ①令和4年10月22日(土)10:00~16:00、②令和4年10月23日(日)10:30~13:30、
- ③令和4年10月23日(日)14:00~15:30
- 開催場所：国際健康開発センター9階国際会議室



防災×テクノロジー 官民連携プラットフォーム

※事前予約制

- 主催：内閣府
- イベント概要：

災害対応を行う地方公共団体等のニーズと民間企業が持つ先進技術のマッチング事例等を紹介するセミナーや、個別相談会等を実施します。

- 日時：令和4年10月21日(金)10:00~14:45
- 開催場所：（オンライン同時開催）兵庫県神戸市・国際協力機構関西センター（JICA関西）



防災×テクノロジー
官民連携プラットフォーム
詳細はこちら

①飛沫感染対策

- 適切なマスク（不織布マスクを推奨。以下同じ。）の正しい着用の周知・徹底
- イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保
- 大声なしエリア・大声ありエリアの明確な区分があり、それぞれにおける、イベント参加者間の適切な距離の確保
- 大声なしエリアにおける、大声を防止するための対策の実施

②エアロゾル感染対策

- 機械換気による常時換気又は窓開け換気
- 適切なマスクの正しい着用の周知・徹底
- イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保

③接触感染対策

- イベント参加者によるこまめな手洗・手指消毒の徹底や、主催者側によるイベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）の消毒の実施
- イベント開場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保

④飲食時の感染対策

- 感染経路に応じた感染対策と併せて、飲食時の感染対策（食事中以外のマスク着用、飲食に伴いマスクを外す際の会話自粛等）の徹底の周知

⑤イベント前の感染対策

- 発熱等の症状がある者のイベント参加の自粛の呼びかけ

⑥感染拡大対策

- イベントで感染者が発生した際の参加者への注意喚起

⑦出演者やスタッフの感染対策

- 出演者やスタッフによる、練習時・本番等における感染経路に応じた感染対策に加え、健康管理や必要に応じた検査等の実施
- 舞台と客席との適切な距離の確保など、出演者やスタッフから参加者に感染させないための対策の実施

神戸市ルール

イベント開催時のチェックリスト		別紙5
【令和4年9月版】		
開催概要	防災に関する活動を実施する多様な団体・機関が一同に会し、取組・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベント	
イベント名	第7回 防災推進国民大会2022in兵庫（ぼうさいこくたい2022）	
出演者・チーム等	約300団体	
開催日時	令和4年10月22日10時00分～18時00分 令和4年10月23日10時00分～15時30分	
開催会場	人と防災未来センター、国際協力機構関西センター（JICA関西）、IHDセンタービル（兵庫県国際交流協会、国際健康開発センタービル）、なごき公園	
会場所在地	HAT神戸；神戸市中央区臨海博覧場1丁目	
主催者	防災推進国民大会2022実行委員会 （内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議）	
主催者所在地	東京都千代田区永田町1-6-1	
主催者連絡先	（電話番号）03-3502-6984 （メールアドレス）bosai-kokutai2022@anker.jp ※主催事務局	
収容率（上限）	<input checked="" type="checkbox"/> ①収容定員あり 100% <input type="checkbox"/> ②収容定員なし <input type="checkbox"/> ③収容定員あり 50% <input type="checkbox"/> ④収容定員なし 100%のエリア：十分な人と人の間隔（1m） 「大声あり」、「大声なし」のエリアを明確に区分して開催 <input type="checkbox"/> ⑤収容定員あり <input type="checkbox"/> ⑥収容定員なし 大声なしのエリア：十分な人と人の間隔（最低1m） 大声ありのエリア：50% 大声なしのエリア：十分な人と人の間隔（最低1m）	
いずれかを 選択	<input type="checkbox"/> ①～④のいずれかを <input type="checkbox"/> ⑤～⑥のいずれかを	
収容定員	大声ありのエリア：— 人 大声なしのエリア：各部屋の席数	
参加人数	大声ありのエリア：— 人 大声なしのエリア：— 人	
その他 特記事項		
<small>（※）大声の定義を「観客等が、通常よりも大きな声で、反響・継続的に声を発すること」とし、これを積極的に抑制する又は必要に応じて十分に静かでないイベントは「大声あり」に該当することと整理する。1</small>		

感染防止策チェックリスト		【令和4年9月版】
基本的な感染防止	イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。 ※5,000人超かつ収容率50%超のイベント開催時は、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。	
	1. イベント参加者の感染対策 （1）感染経路に応じた感染対策	
	①飛沫感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ■適切なマスク（不織布マスクを推奨。以下同じ。）の正しい着用の周知・徹底 ■イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保 ■大声なしエリア・大声ありエリアの明確な区分があり、それぞれにおける、イベント参加者間の適切な距離の確保 ■大声なしエリアにおける、大声を防止するための対策の実施
②エアロゾル感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ■機械換気による常時換気又は窓開け換気 ■適切なマスクの正しい着用の周知・徹底（再掲） ■イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保（再掲） 	
③接触感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ■イベント参加者によるこまめな手洗・手指消毒の徹底や、主催者側によるイベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）の消毒の実施 ■イベント開場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保 	

感染防止策チェックリスト		【令和4年9月版】
基本的な感染防止	イベント開催時には、下記の項目（イベント開催時の必要な感染防止策）を満たすことが必要です。 ※5,000人超かつ収容率50%超のイベント開催時は、個別のイベントごとの具体的な対策を記載した「感染防止安全計画」の提出が必要です。	
	1. イベント参加者の感染対策 （1）感染経路に応じた感染対策	
	①飛沫感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ■適切なマスク（不織布マスクを推奨。以下同じ。）の正しい着用の周知・徹底 ■イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保 ■大声なしエリア・大声ありエリアの明確な区分があり、それぞれにおける、イベント参加者間の適切な距離の確保 ■大声なしエリアにおける、大声を防止するための対策の実施
②エアロゾル感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ■機械換気による常時換気又は窓開け換気 ■適切なマスクの正しい着用の周知・徹底（再掲） ■イベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保（再掲） 	
③接触感染対策	<ul style="list-style-type: none"> ■イベント参加者によるこまめな手洗・手指消毒の徹底や、主催者側によるイベント会場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）の消毒の実施 ■イベント開場（客席、入退場口やトイレ等の共用部）におけるイベント参加者間の適切な距離の確保 	

出展団体リスト

※出展団体に確認したものを掲載。

セッション

- パターン1：現地出展
- パターン2：現地出展+オンライン
- パターン3：オンライン

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
S-3	2	特定非営利活動法人 日本防災士会	災害教訓と地域防災
S-4	2	公益財団法人 日本消防協会	阪神淡路大震災の経験を活かす消防防災対策
S-5	2	公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	南海トラフ地震の本音の話をしましょう！
S-6	2	一般社団法人 日本損害保険協会	「次の大災害に備える！～ハードウェア・ソフトウェアそしてヒューマンウェアが日本を救う～」
S-7	2	ようこそ神戸！市民プロジェクトチーム(現地企画・情報共有会議から生まれたプログラム)	震災27年、神戸のリアル ～地域の目線から～
S-8	2	兵庫県気候変動適応センター(兵庫県・(公財)ひょうご環境創造協会)	生態系管理による防災・減災の取組
S-9	2	関西なまずの会(関西の報道機関有志による災害勉強会)	「災害報道サミット」～避難を伝える「最前線」の戸惑いと挑戦～
S-10	2	特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOD)	避難生活支援と「もれ・むら」のないコーディネーション
S-11	2	【現地共同企画】伝承セッション2022(現地企画・情報共有会議から生まれたプログラム)	「100年後の共感へ：バズの災害伝承をさぐる」
S-12	1	オンライン市役所防災対策課(当時)	平時における立場を越えた顔の見える関係づくり
S-13	2	特別支援学校の災害対策を考えるfacebookグループ	特別支援学校の現状と課題～みんなで一緒に助かるために～
S-14	2	一般社団法人 地域安全学会 実務者企画委員会	福祉と防災の最前線 一福祉・防災実務者の視野と視座一
S-15	2	一般社団法人 日本災害医学会	COVID-19パンデミックに対する本邦の災害医療対応
S-16	2	東北大学 災害科学国際研究所	災害レジリエンスの実現に向けてー共創・国際・実装の取組みー
S-17	2	兵庫県立大学地域ケア開発研究所	災害時の活動における支援者のこととからの健康
S-18	2	日本学術会議 土木工学・建築学委員会IRDR分科会	21世紀前半に発生が確実視される国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方
S-19	2	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)	「気候変動×防災」～サステイナブルなまちづくり、コミュニティを考える～
S-20	2	全国女性社長の共創防災会議	「D&I防災をリードする女性社長と企業経営」
S-21	2	兵庫県災害医療センター	阪神・淡路大震災時の対応と復興について ～伝承。行政・消防・災害医療の視点から～
S-22	2	一般社団法人ほっと岡山	ー1.17+3.11からの教訓ー 長期・広域避難者支援における災害マネジメントのあり方考える
S-23	2	(一社)EpiNurse	災害看護でまちづくり
S-24	2	東京大学生産技術研究所附属災害対策トレーニングセンター(DMTC)	災害対策の体系化と災害対策トレーニングプログラムの構築
S-25	2	関西大学	安全・安心イノベーション創出に向けた大阪うめだ地区の挑戦
S-26	2	災害復興法理論研究会	災害時における超法規的措置について考える
S-27	2	防災教育チャレンジプラン実行委員会	防災教育交流会
S-28	2	静岡大学学生防災ネットワーク(現地企画・情報共有会議から生まれたプログラム)	全国学生防災シンポジウムinぼうさいこくたい
S-29	2	兵庫県立大学 神戸学院大学	KOBE発 防災教育と実践へのチャレンジ 一若者の想い「過去・現在・未来」を知り・次の世代へ発信一
S-30	2	三陸振興協議会	「東日本大震災津波被災地・岩手における防災の学び」について
S-31	1	防災教育学会	防災教育を科学する
S-32	2	一般社団法人日本ドローンコンソーシアム	防災分野へのドローン利用の最前線
So-1	3	公益社団法人 日本医師会	過去の災害から得られた教訓～現在、そして将来への課題～
So-2	3	WAA ReSCue	WAA ReSCue2年め、そして未来へ
So-3	3	防災学術連携体・日本学術会議	自然災害を取り巻く環境の変化 ～防災科学の果たす役割
So-4	3	一般社団法人DroneAI技術研究機構	新災害予兆スタイル 一逃げるを諦めない、その先へー
So-5	3	一般財団法人危機管理教育&演習センター	「事前復興を取り入れたこれからの地域防災、地区防災」
So-6	3	内閣府男女共同参画局	集まれ!防災女性職員とその応援団 第2弾
So-7	3	日本災害伝承ミュージアム・セッション	災害伝承ミュージアム・セッション2022：日本の災害ミュージアムの現在地
So-8	3	一般社団法人日本カーシェアリング協会	モビリティ・レジリエンス～災害時のクルマ被災をどうするか？～
So-9	3	広島県	防災×○○！(楽しみながら防災を学ぶ工夫や仕掛け)
So-10	3	一般社団法人日本リモートセンシング学会	地球観測の最新動向と災害情報の可視化・高度化技術の紹介
So-11	3	特定非営利活動法人事業継続推進機構	「昨今の様々な状況を踏まえたこれからの事業継続」

ワークショップ

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
W-1	2	特定非営利活動法人U.grandmaJapan	こども食堂防災プロジェクト
W-2	1	兵庫県立舞子高等学校	「ぼうさいこくたい2022防災宣言」を作ろう！
W-3	1	人と防災未来センター 研究部「ことばこぼこフィールドひとぼう」研究班	「さわる、そこからかかえる」：災厄のミュージアムにおける震災遺物をういた対話型ワークショップ
W-4	1	写真洗浄ボランティア 西日本あらいぐま連合	写真洗浄体験
W-5	2	株式会社 サンテレビジョン 朝日放送グループホールディングス株式会社	「阪神淡路大震災ヴァーチャルツアー～震災取材カメラマンと震災の時0歳だった記者が考える未来の防災～」
W-6	1	一般社団法人おいしい防災塾	怖いなく防災を子供達に伝えたい。お菓子をを使った防災講座おいしい防災塾
W-7	1	特定非営利活動法人 地図で防災・まちづくりサポート	地域に根ざしたハザードマップの作成と様々な地図の見方の紹介
W-8	1	母と子の育児支援ネットワーク	災害時における授乳アセスメント(聞き取り)を体験しよう
W-9	1	神戸市消防局	災害教訓伝承と災害対応マニュアルの新形態 防災ゲーム「ダイレクトロード」による机上災害対応訓練
W-10	2	一般財団法人アジア防災センター	在日外国人が見た日本と外国の防災の違い ～違いを知ることから始める防災協力～
W-11	1	IT防災スタートアップ協議会(現地企画・情報共有会議から生まれたプログラム)	Bloom Works × 神戸学院大学学生有志の皆さん × 神戸女子大学学生有志の皆さん「ぼうさいミライ☆すぐろく」
W-12	2	食べる支援プロジェクト(たべぶる) 公益財団法人 味の素ファンデーション(TAF) 生活協同組合コープこうべ	「いざという時どうする？あなたの食と栄養」 ～自助・共助・公助 それぞれについて考えよう～
W-13	2	公益社団法人日本地震学会(共催：一般社団法人日本地質断層学会)	兵庫県南部地震とはどういう地震？、関西の内陸地震についてはどこまで分かった？、いまでも何が分からないのか？ 皆さんの疑問に徹底的に答えます
W-14	1	一般社団法人 日本気象予報士会 関西支部	お天気キャスターに挑戦 ～台風接近！迫りくる危険を伝えよう～
W-15	1	一般社団法人危機管理教育研究所	「話題のFMB(ファーストミッションボックス)を体験してみよう」
W-16	1	特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター	みんながつくりたくなる「災害時個別支援計画」のレシピ ～協働×包摂型の取り組み例を通じて～
W-17	1	株式会社明石スクールユニフォームカンパニー	災害発生、さあどうする！ ～時系列で考える災害対応～
W-18	2	名古屋大学 減災連携研究センター	げんさいカフェinぼうさいこくたい「みんながやる気になるための減災コミュニケーション」
W-19	1	東北大学災害科学国際研究所 地震津波リスク評価(東京海上日動) 寄附研究部門	みんなで考えよう！Pon♪Pon♪防災・減災スタンプラリー
W-20	2	災害関連死ゼロサミット	第6回災害関連死ゼロサミット みんなの力で災害関連死をゼロに
W-21	2	海ぼうずの会(「ふじのくにDIGセミナー」参加者の会)	これが最新！災害図上訓練DIG
W-22	2	BOUSAゼミなる実行委員会(事務局：特定非営利活動法人宇和島NPOセンター)	BOUSAゼミなる in ぼうさいこくたい2022
W-23	1	国総研(国土交通省 国土技術政策総合研究所) しぞ～か防災かた委員会 アールソリューション株式会社	「大人から子どもまで、防災を「カード」で学び、「カード」でつなごう。
W-24	1	大阪防災プロジェクト TEAM-3A	いつでも、どこでも、だれでも楽しく防災！
W-25	1	I17KOBEぼうさい委員会	身近にあるもので手軽に防災グッズを作ろう
W-26	2	日本赤十字社	自宅の危険箇所はどこだろう？～家庭内DIGを使って確認しよう～
W-27	1	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟	身近なもので楽しく防災ワークショップ
W-28	1	神戸学院大学 国土防災技術株式会社	オリジナルカード教材で考えよう！災害時の「ひなん」と「食の備え」 ～避難行動訓練EVAG、BOSAIカードX(クロス)を使って～
Wo-1	3	災害時に子どもを守る最低基準 (CPMS) 推進ネットワーク	これだけは知っておきたい 災害時の子どもの支援「28の基準」(人道的行動における子ども権利の保護の最低基準)
Wo-2	3	消防団を盛り上げようゼミ【オンライン市役所】	消防団を盛り上げようゼミ【オンライン市役所】 消防団活動の素朴なギモンと、機械点検ってなー？
Wo-3	3	阪神・淡路大震災からのダイバーシティの歩みを検証する実行委員会	防災にダイバーシティの視点を入れ込む～阪神・淡路大震災以降の女性や外国人らの参加促進の取組から

プレゼンテーション

- パターン1：現地出展
- パターン2：現地出展+オンライン
- パターン3：オンライン

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
P-1	1	一般社団法人 日本建設業連合会	建設会社の防災活動
P-2	1	一般社団法人全国建設業協会	つくる！なおす！まもる！地域建設業の取り組み
P-3	1	一般社団法人 日本照明工業会	みんなで考えましょう！「あかり」による防災とくみ
P-4	1	一般社団法人 ドローン減災士協会	ドローン減災士が切り拓く地域防災の未来
P-5	1	日本労働組合総連合会（連合）	連合災害ボランティアの軌跡～労働組合としてできること～
P-6	1	株式会社ゼンリン	まちを知ることからはじめよう～地図×防災～
P-7	1	防災 THE PRESS	防災 THE PRESS～インフルエンサーが発信する防災情報～
P-8	1	西日本出版社	WEBサイトと紙の本を連動させて、映像に含まれる災害教訓を後世に伝える取り組み
P-9	1	地震調査研究推進本部/文部科学省	地震調査研究推進本部の取組について
P-10	1	内閣官房国土強靱化推進室	国土強靱化の取組について
P-11	1	神戸地方気象台	キキクル（大雨警報・洪水警報の危険度分布）～身に迫る危険を一目で確認～
P-12	1	神戸市港湾局	神戸港の震災復旧からこれまで～新たな技術・知見を取り入れたこれからの防災
P-13	1	特定非営利活動法人兵庫県防災士会 兵庫県防災士ネットワーク	広げよう！防災士ネットワーク！～防災士の活動紹介と地域防災情報の発信～
P-14	1	広島市防災士ネットワーク 広島防災リーダーネットワーク会議	地域で活動する防災リーダー・団体と広島市防災士ネットワークの紹介 避難の呼びかけ体制づくりとひろしまタイムラインを活用した活動の紹介
P-15	1	兵庫県	ひょうごの防災
P-16	1	関西広域連合 広域防災局	関西の広域防災・減災の取組
P-17	2	岩手県	(1) 東日本大震災津波からの復興の歩みと全国からいただいた復興支援への感謝発信 (2) アバターロボット・360°カメラを活用した東日本大震災津波伝承館の遠隔見学体験
P-18	1	公益社団法人 日本技術士会 近畿本部	防災模型と防災クイズによる防災学習
P-19	1	一般社団法人 兵庫県薬剤師会	災害時における薬剤師の活動
P-20	1	公益社団法人兵庫県看護協会	災害支援ナースの紹介と看護職から見た住民向けの災害時に慌てない日頃の備えについて
P-21	1	日本木造住宅耐震補強事業者協同組合	住まいを耐震化で安全・安心に～在宅避難のススメ～
P-22	1	こくみん共済coop	たすけあいを未来につなぐ ～自然災害と向き合ってきた「こくみん共済coop」の取り組み～
P-23	1	なぎさ防災福祉コミュニティ	なぎさ地区におけるまちづくりと防災活動の振り返り
P-24	1	港島地区防災対策委員会	マンション群と高齢者の防災
P-25	1	SIP国家レジリエンス（防災・減災）の強化	通信途絶下での速やかな住民避難状況・被災状況の把握技術
P-26	1	国立研究開発法人情報通信研究機構	迅速な災害対応を支える、巡回型情報伝達・共有技術
P-27	1	国立研究開発法人防災科学技術研究所	守るために壊す-E-ディフェンスがリアルに見せる建物の破壊プロセス・E-ディフェンスが守る『モノ』（建物）と『ヒト』の行動空間（都市と室内空間）-
P-28	1	独立行政法人 中小企業基盤整備機構	BCPははじめの一歩！ジギョケイ（事業継続力強化計画）を作ろう！
P-29	1	独立行政法人都市再生機構	頻発する自然災害に備えて～東日本大震災からの復興支援や災害対応支援の取組みの紹介～
P-30	1	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト	防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト
P-31	1	よんなな防災会	よんなな防災会を通じて全国の素敵な人と繋がりたいませんか？
P-32	1	よんなな防災会女子部	よんなな女子部員おすすめ！全国のステキな防災冊子を集めました♪
P-33	1	「震災対策技術展」事務局/エグジビジョンテクノロジーズ（株）	最新の地震・自然災害対策の情報を発信。「震災対策技術展」/「防災グッズEXPO」のご紹介
P-34	1	特定非営利活動法人全国足救普及協会	足救採取会
P-35	1	特定非営利活動法人都市環境協議会	全国統一型避難誘導標識の普及・啓発について
P-36	1	一般社団法人 日本ムービングハウス協会	ムービングハウスを活用した災害対応
P-37	1	A防災協議会	防災チャットボット「SOCDA」展示ブース
P-38	1	北淡震災記念公園	野島断層からのメッセージ
P-39	1	独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター	地域とともに災害から文化財をまもる～文化財防災センターの取り組み～
P-40	2	清流の国ぎふ防災減災センター げんさい未来塾	地域防災の実践！5つのメッセージ/げんさい産業スピノフIN兵庫
P-41	1	Y Y 防災ネット	地域防災・学校防災・東日本大震災
P-42	1	あいち・なごや強靱化共創センター	産官学民連携による地域減災社会の共創
P-43	1	県立広島大学 防災・減災社会システムデザイン研究センター	平成30年西日本豪雨災害後の避難意識調査の時系列的分析
P-44	1	公立大学防災研究教育センター連携会議（兵庫県立大学）	公立大学防災研究教育センター連携会議及び加盟大学の紹介
P-45	1	福島大学地域未来デザインセンター	「東日本大震災からの復興の中での福島大学の取り組み」
P-46	1	公立大学法人岩手県立大学	地域と大学が取り組む 災害時避難の課題解決の取り組み
P-47	1	仙台市防災環境都市推進室	「防災環境都市・仙台」の実現に向けて
P-48	1	熊本県	熊本地震から6年、令和2年7月豪雨から2年。創造的復興に向けて取り組んでいる熊本の経験や教訓を発信します。
P-49	1	自治体研究会	つながる。人の輪。防災の輪
P-50	1	伏見市	民間事業者と協力した広域避難場所確保の取組
P-51	1	南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進める10県知事会議	東日本大震災の教訓を活かし、南海トラフ地震による超広域災害への備えを強力に進めよう
P-52	1	浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワーク はままつ na net	企業が手をつなぐことで広がる防災・災害支援を知ろう
P-53	1	JT × プラス・アーツ	「防災喫煙所 イツモモシモステーション」のご紹介
P-54	1	株式会社リブライ	若年層における地域防災力向上の取り組み
P-55	1	NPO法人高齢者住まいる研究会	福祉施設のBCPバーチャルシミュレーションゲーム 災害想定ゲーム【KIZUKI】・楽しんで学ぶカードゲーム【防災神経衰弱】
P-56	1	一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会	福祉BCPと福祉避難所
P-57	1	NPO法人日本防災環境	「福祉防災のこれから」
P-58	1	一般社団法人LFA Japan LFA食物アレルギーと共に生きる会 チーム神戸	地域で考える防災～食物アレルギー～
P-59	1	公益社団法人 日本非常食推進機構	SDG s に寄与する防災備蓄品の有効活用
P-60	1	教えて！「かくれ脱水」委員会	医師が解説。「災害時の熱中症・脱水症を回避するには？」
P-61	1	国際復興支援プラットフォーム（IRP）	「Build Back Better（よりよい復興）」に関する経験と教訓の発信
P-62	1	一般財団法人 自治体国際化協会（クリア C L A I R）	災害時の外国人支援～多言語表示、指差しで会話ができるツール、多言語版マイ・タイムライン検討ツール、外国人支援の取組を紹介！～
P-63	1	一般社団法人DRCT「災害復興協力チーム」	「災害復興協力チーム」 「生き残る為の備え」
P-64	1	全国共済農業協同組合連合会（JA共済）	ザブトン教授の防災教室
P-65	1	公益財団法人兵庫県国際交流協会	外国人と災害時のコミュニケーション体験～色んなツールで話してみよう！
P-66	1	公益財団法人 米日カウンシルジャパン TOMODACHI J&J 災害看護プログラム	災害看護ガールズ プレゼンツ！
P-67	1	特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク	「防災アニメをはじめ、災救マップやたすかんねんなどITを活用した防災・減災の取り組みを紹介」
P-68	1	ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会）	「災害ボランティア活動の紹介」
P-69	1	いきいきネットワーク防災の会	神社で防災
P-70	1	明石工業高等専門学校、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科	From Po-I「響け！エール！」プロジェクト - 災害支援、熊本にエール！を
P-71	1	神戸学院大学附属中学校	やってみたくる防災-神戸学院大学 防災女子の活動事例紹介-
P-72	1	神戸学院大学 防災女子	南海トラフ時代の私たち
P-73	1	関西国際大学防災士サークル（KUISs BOSAI）	未就学児向け防災教材「ボケモンぼうさいきょうしつ」
P-75	1	一般財団法人 ボケモン・ウィズ・ユ-財団	子どもたちが自ら考えて行動する力を身につける体験学習
P-76	1	(一社)72時間サバイバル教育協会	いのちを守る防災教育の実践
P-77	1	一般社団法人防災教育普及協会	日本全国で、子供たちに対する防災教育プログラム（ジュニア防災検定）の実践や、高校生、大学生への防災教育、社会人への防災・危機管理研修会の開催、防災士のフォローアップ研修、少年消防クラブ・消防団研修、防災関連出版物などの企画・監修業務など。

プレゼンテーション

- パターン1：現地出展
- パターン2：現地出展+オンライン
- パターン3：オンライン

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
P-79	1	NPO防災自助普及委員会	防災自助は子供の頃から始まる!
P-80	1	防災ジオラマ推進ネットワーク	段ボールジオラマ防災授業
P-81	1	わのわプロジェクト	『「福むらの火」って知ってますか?～こんな時代だからこそ!考えよう、人といのちの大切さ～』
P-82	1	宮城県多賀城高等学校	宮城県多賀城高等学校 防災減災教育の取組～未来の防災・減災・伝承の担い手とともに～
P-83	1	兵庫県教育委員会	震災・学校支援チーム (EARTH) の活動について
P-84	1	兵庫県立尼崎小田高等学校看護医療・健康類型	高校生と地域コミュニティづくりを考える
P-85	1	防災ママかきつばた	絵本×オンライン×地域×ママの防災活動紹介
P-86	1	ママコミュ!ドットコム×特定非営利活動法人レジリエンス教育研究所 ×大阪府立水都国際中学・高等学校防災部	子ども・若者への防災教育 災害に強い未来を共に創ろう
P-87	1	一般社団法人日本助産学会	赤ちゃんとお母さんをみんなで守ろう
P-88	1	災害と子育て研究会	災害時の子育て～平成30年7月豪雨災害と子育て研究会真備町より～
P-89	1	独立行政法人国際協力機構 (JICA)	JICAの国内外における防災・復興支援を通じた災害リスク削減の取り組み
Po-1	3	WPPグループ Japan Pet Press	災害とペット ペット防災の最前線から命を紐解く-Life with PET-
Po-2	3	三重県・三重大学 みえ防災・減災センター	みえ防災・減災センター及びみえ防災・減災アーカイブの紹介
Po-3	3	災害時の子どもの居場所 (CFS) 協議会	「災害時の子どもの居場所の作り方」～遊びと学びを通じた子どものこころのケアのために～
Po-4	3	宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課	宮城県震災復興パネル展「あなたの応援を力に。今までも。これからも。」
Po-5	3	薄磯まちづくり検討委員会、薄磯区会	地域住民組織 (区会) 主導による地区防災計画立案に向けた取り組み
Po-6	3	イオン株式会社	地域を守り、暮らしを守る
Po-7	3	よんなな防災会ナッジユニット 行動防災チーム	防災ナッジをつくってみよう～防災ナッジワークショップ～
Po-8	3	鹿児島市	火山防災トップシティ 鹿児島市 ～大規模噴火に備えた火山防災対策～
Po-9	3	一般社団法人 ひろしま防災減災支援協会	キッズ防災士の紹介
Po-10	3	ひろしま避難者の会 アスカ	避難者の次のステップへのサポートと関わり
Po-11	3	そらり	ママ気象キャスターが伝える、幼児からのお天気防災プログラム
Po-12	3	災害看護グローバルリーダー養成プログラム (DNGL)	国内外で活躍する「災害看護グローバルリーダー」の活動紹介
Po-13	3	NPO法人きかけ食堂	若者による食を通じた東北との関わり～きかけはすくそばに～
Po-14	3	U-Inspire JAPAN	情報・人・機会が集まる「防災ユースの広場」
Po-15	3	一般社団法人日本防災プラットフォーム (JBP)	産官学の連携で防災ビジネスのイノベーションを推進!
Po-16	3	一般社団法人いのちを守るatプロジェクトJAPAN	いのちを守る@防災劇場 (マジックパフォーマンスショー)

屋外展示

- パターン1：現地出展
- パターン2：現地出展+オンライン
- パターン3：オンライン

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
O-1	1	国土交通省 近畿地方整備局	防災に取り組む国土交通省
		国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所	
		国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所	
		国土交通省 近畿地方整備局 近畿技術事務所	
		震災伝承ネットワーク協議会 (国土交通省東北地方整備局)	
O-3	1	全国災害ボランティア支援機構	「移動式災害ボランティアセンター号」「福祉避難所向け 自動排泄処理装置」の展示
O-4	1	株式会社NTTドコモ 関西支社 神戸支店	災害時にも大切な人とつながるために
O-5	1	一般社団法人日本災害医学会	屋外展示: 移動式災害医療トレーラー Medical-ConneX 展示
O-6	1	トヨタ自動車株式会社	「やむをえない車中泊避難への備え」と「障がい者の命をつなぐモバイルトイレ」
O-7	1	一般社団法人 日本避難所支援機構	やるなら安全な車中泊避難を
O-9	1	兵庫県災害医療企画実行委員会(現地企画・情報共有会議から生まれたプログラム)	【共同プロジェクト】 災害時の医療対応を学ぼう (発災直後から避難まで)
O-10	1	災害派遣トイレネットワーク「みんな元気になるトイレ」 兵庫県南あわじ市	災害時に深刻化するトイレ問題解決に向けて!
O-11	1	兵庫県立淡路景観園芸学校	学生による防災体験&展示会
		北陸大学	
		名古屋学芸大学	
		兵庫県立大学学生災害復興支援団体LAN	
		Seagull Rescue (シーガルレスキュー)	
		特定非営利活動法人ワカモノチカラプロジェクト	
		神戸大学学生震災救援隊	
		よんなな防災会学生部	
TKK3大学連携プロジェクト			
神戸国際大学防災救命クラブ (DPLS)			
防災リテラシー研究所			
O-12	1	兵庫県香美町	消防団防災学習・災害活動車の紹介
O-13	1	遠く離れても一緒に活動し隊! ～イクシとゆかいな仲間たち～	遠距離でもこんなに繋がれる。一緒に学べる、支え合える。こんな共助の形もあっていいよね。
O-14	1	一般社団法人epoおかやま笑顔プロジェクト	逃げ遅れゼロプロジェクト!!要配慮者の避難支援を!!
O-15	1	日産自動車株式会社	電気自動車等を活用した停電対策 ～フェーズフリーな防災を考える～
		神戸市危機管理室・神戸地区トヨタ販売店・AI防災協議会 兵庫三菱自動車販売株式会社	
O-16	1	兵庫県	学ぼう!六甲山の治山事業、進めよう!!住まいの耐震化
O-17	1	兵庫県助産師会 災害対策委員会	妊産婦と小さなお子さんを持つ方へ 「備えよう!我が家の防災」
O-18	1	近畿災害対策まちづくり支援機構	専門の知恵を集めて、被災のみらいを支える
O-19	1	さんだ防災リーダーの会	地震に備える事前準備
O-20	1	一般社団法人 日本トイレ協会 災害・仮設トイレ研究会	災害用トイレ (携帯・簡易トイレ・仮設トイレ) の実物展示、及び 過去災害時のトイレ状況案内。
O-21	1	神戸心絆	忘れない これからも1.17 3.11
O-22	1	まちキャラパーク実行委員会	「まちキャラパーク In ぼうさいこくたい KOBE 2022」
O-23	1	(認定) 特定非営利活動法人 日本レスキュー協会	「被災地で活動する災害救助犬/ペットの災害対策」
O-24	1	アトリエ太陽の子 ボランティア部	1.17を忘れない。命の本懐プロジェクト
O-25	1	西日本電信電話株式会社 兵庫支店	NTT西日本の災害に対する取組み (災害用伝言ダイヤル171の体験)
O-26	1	株式会社アジタ	「ぼうさいのアジタ」～総合建設会社によるハード/ソフトぼうさいへの取り組み
O-27	1	防災企業連合 関西そなえ隊	「防災・減災に関わる企業・団体の課題解決策や研修会・勉強会の事例紹介について」
O-28	1	一般社団法人 兵庫県損害保険代理業協会	小学生による「ぼうさい探検隊」マップ作成
O-29	1	防災専門図書館 (公益社団法人全国市有物件災害共済会)	ディープな防災・災害情報を求めるなら、防災専門図書館へ!
O-30	1	関西学院大学インテリジェントブロックチェーン+イノベーションリサーチセンター 特定非営利活動法人兵庫県防災士会 一般社団法人地域再生・防災ドローン活用推進協会 (RUSEA)兵庫三田支部	先進IoT技術を用いた災害対応
O-31	1	一般財団法人日本気象協会	3分間の豪雨・暴風疑似体験学習アトラクション「HERASEON-RJ」
O-32	1	東日本大震災・原子力災害伝承館	地域と時間の両軸から震災と向き合い、教訓を伝える。
		日本ジオパークネットワーク	
		国立歴史民俗博物館	
		大橋町震災伝承プラットフォーム	
		一般社団法人おらが大橋夢広場	
O-33	1	NPO法人ペット防災サポート協会	人もペットも災害対応 (ペットと一緒に避難 準備は大丈夫?)

ポスターセッション

- パターン1：現地出展
- パターン2：現地出展+オンライン
- パターン3：オンライン

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
PS-1	1	縁活	縁活「ひまわり架け橋プロジェクト」
PS-2	1	一般社団法人 危機管理・労働災害防止機構	まさか 被災するなんて ー自分は大丈夫なのかー
PS-3	1	僕らのヒトシズク	明日への支度プロジェクトー写真とコトバの減災復興展
PS-4	1	名古屋市長	「伊勢湾台風カルタ」で“未来につなぐ災害の経験と教訓”
PS-5	1	一般社団法人アスミー	被災地の公務員が全力でまちのために働けるように、公務員の家と家族を支える互助の仕組み
PS-6	1	一般財団法人 世界防災フォーラム	World BOSAI Forum2023 のご紹介
PS-7	1	内閣府・防災推進協議会	第37回防災ポスターコンクール入賞作品
PS-8	1	神戸復興塾3.11支援集會	被災地から被災地へ復興経験をつなげる ー神戸復興塾3.11支援集會の活動ー
PS-9	1	兵庫県震災復興研究センター	災害復興と復興災害
PS-10	1	神戸大学地域連携推進本部ボランティア支援部門	災害・復興ボランティアと大学の未来ー全国で神戸大学生が共に築いてきたもの
PS-11	1	兵庫県立佐用高等学校 家政科	地域と共に学ぶ～「活用合同防災訓練～KIZUNA大作戦～」を企画運営して～
PS-12	1	5 x 5 MetaNurse Kobe	5 x 5 メタナースプロジェクト
PS-13	1	日本赤十字看護大学附属災害看護研究所	【災害看護の展望と災害看護研究所への期待】
PS-14	1	神戸大学大学院海事科学研究科 津波マリンハザード研究講座	神戸大学大学院海事科学研究科におけるマリンハザード研究
PS-15	1	兵庫県眼科医会	眼科災害医療 ～ これまで・これから～
PS-16	1	一般社団法人 防災住宅研究所	「阪神・淡路大震災の教訓を今にー災害から命を守る家づくりとはー」
PS-17	1	全国被災地語り部シンポジウム実行委員会	全国被災地語り部シンポジウムと語り部の取組み
PS-18	1	公益社団法人日本地球惑星科学連合	日本地球惑星科学連合の防災に関する活動
PS-19	1	大阪公立大学 都市科学・防災研究センター	コミュニティ防災人材育成システムーMUSUBOUー
PS-20	1	株式会社明電舎、株式会社レジリエンスラボ	レジリエンスの高い持続力のある社会を目指して
PS-21	1	株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)	大規模災害下の通信途絶発生時のローカル通信技術
PS-22	1	NPO法人 日本防災用品技術研究協会	老いも若きも みんないっしょに避難。介助運搬車（手押し車）
PS-23	1	高知県	「メイド・イン高知」の防災関連登録製品のご紹介
PS-24	1	ニッシュウ機器株式会社	地震火災の脅威に備える
PS-25	1	バナソニック株式会社 エレクトリックワークス社	イーブロックを軸とした「循環型で持続可能な電源インフラ」構築のご提案
PS-26	1	KGホールディングス株式会社	身近にある水から飲料水を確保し、命を守る
PS-27	1	株式会社矢野商店	ドローンマッピングの災害時利活用について
PS-28	1	ビット・パーク株式会社	これからの避難所に是非用意して頂きたい「ココBOX II」 & 「福祉バイオトイレカー」
PS-29	1	株式会社 C-SOS	自助期間を生き残るための簡易トイレセット「BENKING/便王」 高密度発泡スチロール製組立式簡易トイレ
PS-30	1	エビスタ コーポレーション/株式会社プリント	ノンアルコール・アトピー肌用化粧品から生まれたウェットティッシュ（化粧品類）！
PS-31	1	株式会社 フジヤマ	航空レーザ計測の可視化技術を活用した土砂災害や落石に関する調査・設計
PS-32	1	株式会社Laspy	日本初防災備蓄提供サービス「あんしんストック」のご紹介
PS-33	1	Pix4D株式会社	フォトグラメトリによる災害の見える化
PS-34	1	一般社団法人 防災備蓄収納プランナー協会	家庭も事業所も「防災備蓄が当たり前の日本」を目指して各種講座のご紹介
PS-35	1	FDK株式会社	いざという時にそなえて 電池の上手な備蓄
PS-36	1	神戸クロスロード研究会	防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう！
PS-37	1	なるとにし てとてとて	おとなも子ども なかよくなるとーぼうさい
PS-38	1	一般社団法人社会応援ネットワーク	わくわく防災のスヌメ
PS-39	1	神戸市教育委員会	神戸市における防災教育の紹介
PS-40	1	バナソニックライティングデバイス株式会社	防災対策用 タングステン耐熱創手袋
PS-41	1	株式会社ブルーウッド	「感震ブレーカー“光る”おもり君」 実用新案登録第3234813号
PS-42	1	有限会社西谷	いつもの野菜不足は、もしもの時はもっと足らなくなるがテーマ。野菜の非常食だけ「いつもともしもやさいぼうさい」
PS-43	1	ホリカフーズ株式会社	災害食を通じて人々を支える
PS-44	1	竹内工業株式会社	身近にある救助用品
PS-45	1	大丸興株式会社	飲み水だけでは不十分、生活用水も確保しませんか？
PS-46	1	関西大学社会安全研究所	関西大学社会安全研究所の国際・社会人コースの先進性

イグナイトステージ

- パターン1：現地出展
- パターン2：現地出展+オンライン
- パターン3：オンライン

出展番号	パターン	主催団体名	タイトル
IG-1	1	国立国会図書館	国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」の取組みについて
IG-2	1	ハウス食品グループ本社（株）	災害時でも、みんなが「ホッと」出来る食事をご提案！
IG-3	1	株式会社MT-NET	災害多発・多様化時代を迎え撃つ、個人・団体・そして自治体の新しい「備え」の体験
IG-4	1	KOBE防災コミュニケーションズ 縄文式健康法チーム	初出展！みんなで実践！！ころろいのちを守る縄文式健康法！！（手話付き）
IG-5	1	クラーク株式会社	ペットも家族！ペットと一緒に避難できるちびねこテント、安全に猫を保護できる猫保護器
IG-6	1	神戸学院大学 クローズアップ社会研究会	防災大学生が選挙を斬る！
IG-7	1	名古屋大学 減災連携研究センター	みんなのまわりはだいじょうぶ？ ～子どもから大人へ広げる防災～
IG-8	1	エリーパワー株式会社	BCP対策について
IG-9	1	RainTech株式会社	「私の地域の雨量計」による自助防災支援サービス開発の取り組み紹介 ～地域の正しい降雨量把握による一人ひとりの危険度見える化で避難行動支援～
IG-10	1	ヴィガラクス株式会社	災害時の孤立化に挑み続ける自主防災組織の取り組み、民間企業と模索したかつてないチャレンジ
IG-11	1	株式会社パソナ	人と人をつなぐ防災ヘルプサービス ～災害時における共助避難の新たな可能性～
IG-12	1	株式会社防災ログ	防災ビジネス創造と育成の研究会（RC77）、World BOSAI Forumのご紹介
IG-13	1	株式会社KEIKAコーポレーション	靴メーカーが考えた約1分で組み立てられる段ボールベッド【ひらいてボン】 2人部屋
IG-14	1	エアーストレッチャー株式会社	「エアーストレッチャー～様々な災害に対応した自吸式万能担架～のご紹介」
IG-15	1	シンロイ株式会社	自身の安否や、支援物資の要望を「見せる」「伝える」防災グッズ
IG-16	1	株式会社PKウエーブ	災害ファーストアイド ～災害時の怪我に備える救急包帯の使い方～
IG-17	1	株式会社スギタ	防災避難着 早期発見全身反射ボンチョ
IG-18	1	株式会社ワン・ステップ	「使用しないときはコンパクトに収納でき、使うときは空気を入れるだけですぐに使える。」 特性を活かしたエアース式の防災商品
IG-19	1	東西商事株式会社	停電時の自家発電自動切替えシステム(ATS)とLPガス発電機とIoT端末・クラウド連携による遠隔監視システムの紹介
IG-20	1	防波システム研究所	津波防災を効果的に多重化する複数の対策

その他

	主催団体名
株式会社INFORICH	
TEAM防災ジャパン	
ろっこう紙芝居サークル	
みなとのもり公園運営会議	
神戸市消防局	
兵庫県立舞子高等学校	
人と防災未来センターディザスター・マネージャーズ	
NHK神戸放送局	
一般財団法人 ポケモン・ウィズ・ユア財団	

プログラム

10月22日(土)

	10:30 ~ 12:00	12:30 ~ 14:00	14:30 ~ 16:00	16:30 ~ 18:00	
セッション	人と防災未来センター 東館1F こころのシアター	S-1 オープニングセッション	S-2 ハイレベル セッション	S-3 災害教訓と地域防災	S-4 阪神淡路大震災の経験を 活かす消防防災対策
	人と防災未来センター 西館1F ガイダンスルーム1	オープニング中継映像	S-7 <small>現地企画</small> 震災27年、神戸のリアル ～地域の目線から～	S-8 生態系管理による 防災・減災の取組	S-9 「災害報道サミット」 ～避難を伝える「最前線」の戸惑いと挑戦～
	JICA関西 2F オリエンテーション室	S-32 防災分野への ドローン利用の最前線	S-12 平時における立場を越えた 顔の見える関係づくり(仮称)	S-13 特別支援学校の現状と課題 ～みんなで一緒に助かるために～	S-14 福祉と防災の最前線 ～福祉・防災実務者の視野と視座～
	JICA関西 2F ブリーフィング室	オープニング中継映像	S-17 災害時の活動における支援 者のところからたの健康	S-18 21世紀前半に発生が確実視される 国難級災害を乗り越えるための レジリエンス確保のあり方	S-19 「気候変動×防災」～サステイナブルな まちづくり、コミュニティを考える～
	JICA関西 3F セミナー室31・32		S-22 ー1.17+3.11からの教訓ー 長期・広域避難者支援における 災害マネジメントのあり方考える	S-23 災害看護でまちづくり	S-24 災害対策の体系化と災害対策 トレーニングプログラムの構築
	IHDセンタービル 3F 会議室1	オープニング中継映像	S-27 防災教育交流会	S-28 <small>現地企画</small> 全国学生防災シンポジウム inぼうさいこくたい	S-29 KOBE発 防災教育と実践へのチャレンジ ー若者の想い“過去・現在・未来”を知り次 の世代へ発信ー
	オンライン		So-1 過去の災害から得られた教訓 ～現在、そして将来への課題～ So-6 集まれ!防災女性職員とそ の応援団 第2弾 So-11 「昨今の様々な状況を踏まえ たこれからの事業継続」	So-2 WAA ReSCue2年め、 そして未来へ So-7 災害伝承ミュージアムセッション2022 日本の災害ミュージアムの現在地	So-3 自然災害を取り巻く環境の変化 ～防災科学の果たす役割 So-8 モビリティ・レジリエンス ～災害時のクルマ被災をどうするか?～

10月22日(土)

	12:30 ~ 13:30	14:00 ~ 15:00	15:30 ~ 16:30	17:00 ~ 18:00	
ワークショップ	人と防災未来センター 西館1F ガイダンスルーム2	W-1 こども食堂防災プロジェクト	W-2 「ぼうさいこくたい2022 防災宣言」を作ろう!	W-3 「さわる、そっからかんがえる」 : 災厄のミュージアムにおける震災遺 物を用いた対話型ワークショップ	W-4 写真洗浄体験
	JICA関西 3F セミナー室33・34	W-8 災害時における授乳アッセメ ント(聞き取り)を体験しよう	W-9 災害教訓伝承と災害対応マニュアルの新形態 防災ゲーム「ダイレクトロード」 による机上災害対応訓練	W-10 在日外国人が見た日本と外国の防災の違い ～違いを知ることから始める防災協力～	W-11 <small>現地企画</small> Bloom Works×神戸学院大学学生有志 の皆さん×神戸女子大学学生有志の皆さん 「ぼうさいミライ☆すくろく」
	JICA関西 4F セミナー室41	W-15 「話題のFMB(ファーストミッシ ョンボックス)を体験してみよう」	W-16 みんながづくりたくなる 「災害時個別支援計画」のレシピ ～協働×包摂型の取り組み例を通じて～	W-17 災害発生、さあどうする!? ～時系列で考える災害対応～	W-18 げんさいカフェ inぼうさいこくたい 「みんながやる気になるための 減災コミュニケーション」
	IHDセンタービル 2F 交流ギャラリー南	W-22 BOUSAIゼミな～る in ぼうさいこくたい2022	W-23 「大人から子どもまで、防災を「カ ード」で学び、「カード」でつながろう。	W-24 いつでも、どこでも、だれでも 楽しく防災!	W-25 身近にあるもので手軽に 防災グッズを作ろう
	オンライン		Wo-1 これだけは知っておきたい 災害時の子どもの支援「28の基準」 (人権行動における子ども権利の保護の最低基準)	Wo-2 消防団を盛り上げゼミ 【オンライン市役所】 消防団活動の素朴なギモンと、機械点検ってなに?	Wo-3 防災にダイバーシティの視点を入れ込む ～阪神・淡路大震災以降の女性や 外国人らの参加促進の取組から～

イグナイトステージ

10月22日(土)

12:30 ～ 12:45	12:55 ～ 13:10	13:20 ～ 13:35	13:45 ～ 14:00	14:10 ～ 14:25	14:35 ～ 14:50	15:00 ～ 15:15	15:25 ～ 15:40	15:50 ～ 16:05	16:15 ～ 16:30	16:40 ～ 16:55	17:05 ～ 17:20
IG-1	IG-2	IG-3	IG-4	IG-5	IG-6	IG-7	IG-8	IG-9	IG-10	IG-11	IG-12

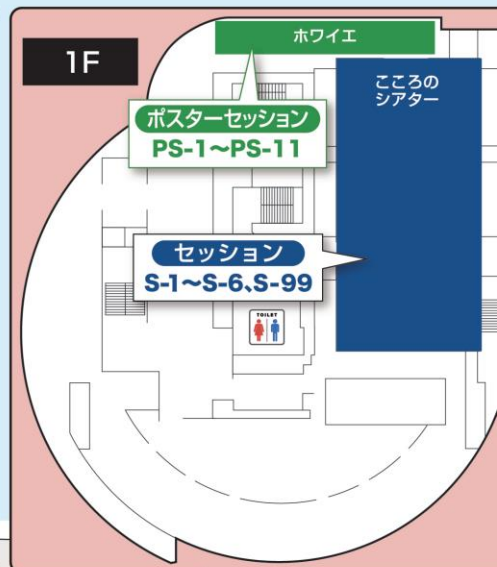
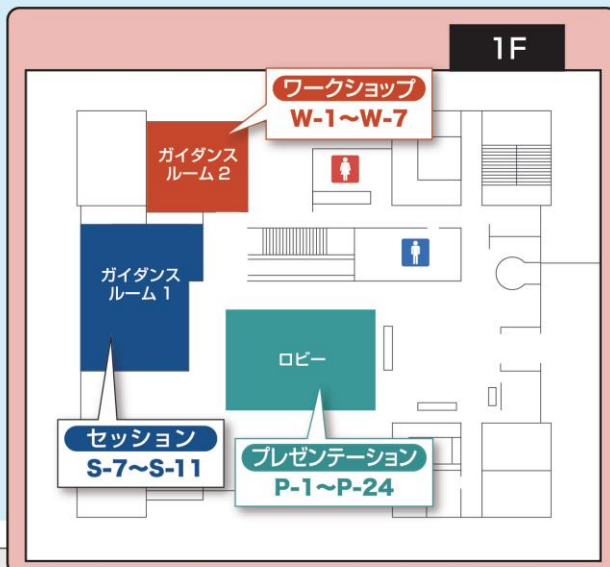
10月23日(日)		10:30 ~ 12:00	12:30 ~ 14:00	14:30 ~ 15:30
セッション	人と防災未来センター 東館1F こころのシアター	S-5 南海トラフ地震の 本音の話をしましょう!	S-6 「次の大災害に備える! ~ハードウェア・ソフトウェアそして ヒューマンウェアが日本を救う~」	S-99 クロージングセッション
	人と防災未来センター 西館1F ガイダンスルーム1	S-10 避難生活支援と「もれ・むら」 のないコーディネーション	S-11 <small>現地企画</small> 「100年後の共感へ バズる災害伝承をさぐる」	クロージング中継映像
	JICA関西 2F オリエンテーション室	S-15 COVID-19パンデミックに 対する本邦の災害医療対応	S-16 災害レジリエンスの実現に向けて ~共創・国際・実装の取組み~	
	JICA関西 2F ブリーフィング室	S-20 「D&I防災をリードする女性 社長と企業経営」	S-21 阪神・淡路大震災時の 対応と復興について ~伝承、行政・消防・災害医療の視点から~	クロージング中継映像
	JICA関西 3F セミナー室31・32	S-25 安全・安心イノベーション創出に 向けた大阪うめだ地区の挑戦	S-26 災害時における超法規的 措置について考える	
	IHDセンタービル 3F 会議室1	S-30 「東日本大震災津波被災地・岩手 における防災の学び」について	S-31 防災教育を科学する	クロージング中継映像
	オンライン	So-4 新災害予兆スタイル ~逃げるを諦めない、その先へ~ So-9 防災×○○!(楽しみながら 防災を学ぶ工夫や仕掛け)	So-5 「事前復興を取り入れたこれか らの地域防災、地区防災」 So-10 地球観測の最新動向と 災害情報の可視化 ・高度化技術の紹介	

10月23日(日)		10:30 ~ 11:30	12:00 ~ 13:00	13:30 ~ 14:30
ワークショップ	人と防災未来センター 西館1F ガイダンスルーム2	W-5 「阪神淡路大震災ヴァーチャ ルツアー ~震災取材カメラ マンと震災の時0歳だった記 者が考える未来の防災~」	W-6 怖くない防災を伝えたい。 お菓子を使った防災講座お いしい防災塾	W-7 地域に根ざしたハザード マップの作成と 様々な地図の見方の紹介
	JICA関西 3F セミナー室33・34	W-12 「いざという時どうなる? あなたの食と栄養」 ~自助・共助・公助 それぞれについて考えよう~	W-13 兵庫東部地震とはどうい地震?、関西の内陸地 震についてはどこまで分かった?、いまでも何が分 からないのか?皆さんの疑問に徹底的に答えます	W-14 お天気キャスターに挑戦 ~台風接近!迫りくる 危険を伝えよう~
	JICA関西 4F セミナー室41	W-19 みんなで考えよう! Pon♪Pon♪ 防災・減災スタンブラリー	W-20 第6回災害関連死ゼロサミット みんなの力で 災害関連死をゼロに	W-21 これが最新! 災害図上訓練 DIG
	IHDセンタービル 2F 交流ギャラリー南	W-26 自宅の危険箇所はどこだろう? ~家庭内DIGを使って 確認しよう~	W-27 身近なもので楽しく防災 ワークショップ	W-28 オリジナルカード教材で考えよう! 災害時の「ひなん」と「食の備え」 ~選別訓練EVA.G.BOSAIカードX(クロス)を使って~

イグナイトステージ

10月23日(日)

10:30 ~ 10:45	10:55 ~ 11:10	11:20 ~ 11:35	11:45 ~ 12:00	12:10 ~ 12:25	12:40 ~ 12:55	13:05 ~ 13:20	13:30 ~ 13:45
IG-13	IG-14	IG-15	IG-16	IG-17	IG-18	IG-19	IG-20

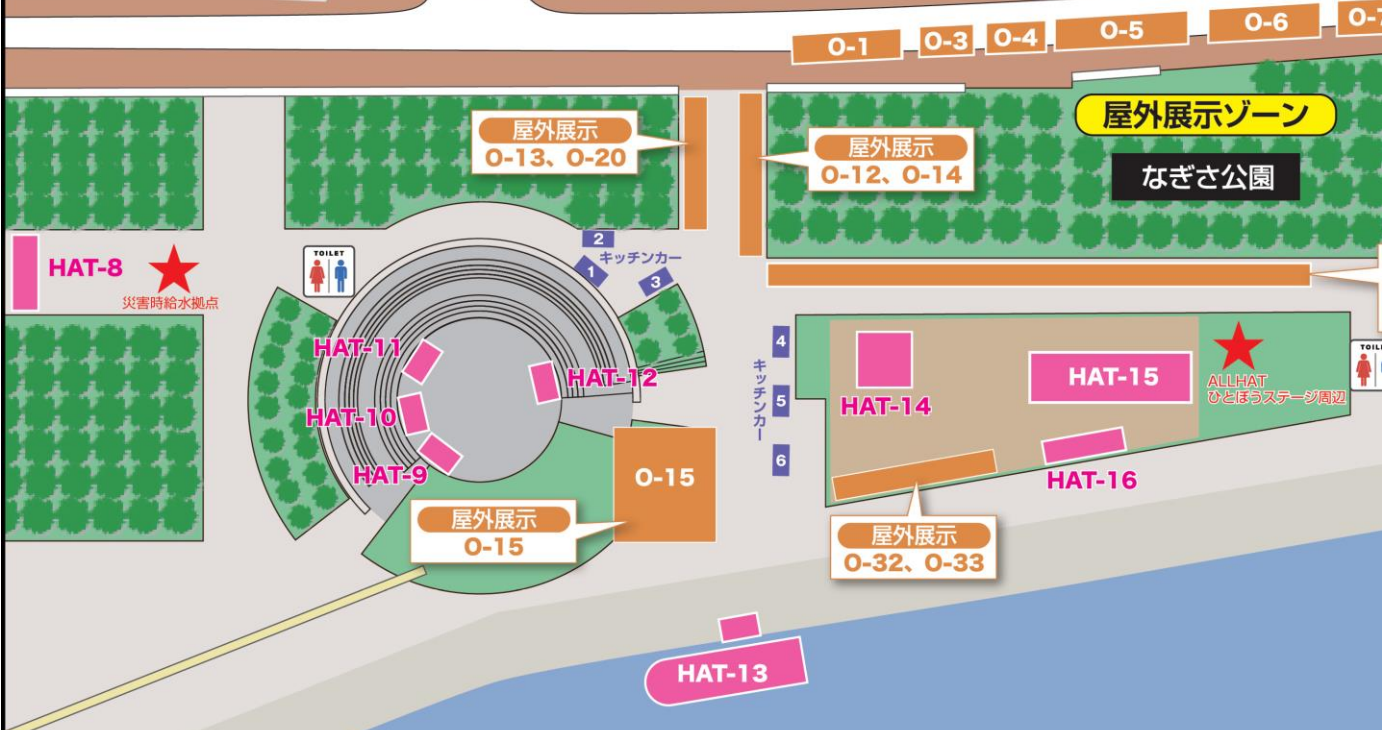


**スマホ充電スポット
デジタルサイネージ**

会場内3か所(⚡マーク)に「ChargeSPOT」を設置しました。
※実施報告書20P詳細

**ポケモンぼうさいきょうしつ
スタンプラリー
チェックポイント**

会場内5か所(★マーク)にチェックポイントを設置しました。
※実施報告書20P詳細






■総合インフォメーション
 以下のご案内拠点として
 総合インフォメーションを設置しました。

- ・会場案内
- ・パンフレット配布
- ・アンケート回答者へ限定グッズ配布

(ほうさいこくたい2022オリジナル耐震バット)

■ビジョンカー
 大会期間中、メイン会場となる
 「こころのシアター」における
 セッションのリアル配信などを
 実施しました。



イメージ

大会スタンプラリー

「ぼうさいこくたい2022オリジナルスタンプラリー」として、下記2本のデジタルスタンプラリーを実施しました。

（1）「27年前の阪神・淡路を動画でみてあるく」



【実施期間】2022年9月1日（木）～2023年1月17日（火）

神戸の観光地、震災時に特に被害が激しかった神戸市内40カ所にチェックポイントを設定。1995年の阪神・淡路大震災直後に撮影された映像を見て設問に答えることで、災害の教訓を学べるスタンプラリーとなりました。スタンプを7カ所以上獲得し、応募した方の中から抽選で30名に特典をプレゼントしました。（特典内容「KOBE観光スマートパスポート プレミアム2day」）

※「激震の記録1995 取材映像アーカイブ」より

（2）「ポケモンぼうさいきょうしつ 災害が起きたらどうする？」



【実施期間】2022年10月22日（土）10:00～18:00
2022年10月23日（日）10:00～15:30

大会2日間・会場内計5カ所にチェックポイントを設定し、小さなお子様でも楽しめるように、万が一の災害時に身を守るために必要なヒントをポケモンと一緒に学べる内容で実施しました。

会場内の全てのスタンプを獲得した方全員へ特典をプレゼントしました。（特典内容「ポケモンオリジナル壁紙」）

※デザイン提供：
一般財団法人ポケモン・ウィズ・ユア財団

スマホ充電スポット・デジタルサイネージ

株式会社INFORICHの協力を得て、会場内（各建物）に無償で利用できるスマホ充電スポットを配置するとともに、同社端末を会場での出展案内及び「ぼうさいこくたい2022オリジナルスタンプラリー」の告知等に活用しました。



キッチンカー（なぎさ公園）

なぎさ公園内にキッチンカーを各日6台ずつ設置し、ご来場者様・出展者様にお楽しみいただきました。

	10月22日（土）	10月23日（日）
1	Funk's kichencar（カレー）	Lucky Chubby（ポーク玉子おにぎり）
2	ミバエもバエル（ソーセージ、トルティーヤ、フロート）	宝塚ダイナースカフェここ（神戸鉄板焼きそば）
3	たむらまる（串カツ、ソフトドリンク）	WRAP UP! ?（ラップサンド、チーズドッグ、タコライス、ミネストローネ、等）
4	Mr.Shrimp（ガーリックシュリンプ）	ROUTE908（キーマカレー、鶏の唐揚げ、シャカシャカポテト、ソーセージ、等）
5	ソライロカフェ（ホットドッグ、ソフトドリンク）	社長のからあげ（唐揚げ、唐揚げ丼）
6	ボンジョルネ（ビーフシチュー、キッシュ、カヌレ、ソフトドリンク）	la terza casa Calma（特製丼、ロールキャベツ、唐揚げ弁当、等）

出展団体-現地企画・情報共有会議

防災の取組では身近な地域のつながりが大切です。

しかし、国主催の防災推進国民大会は一般の方には少しハードルが高く、防災を「自分ごと」と捉えていただくためには、まずは地域の皆様と連携し、ともに取り組み、大会を盛り上げていくことが必要だと考えました。

そこで、今回初の試みとなる、地元のみなさまを中心に様々な防災関連団体が集う「現地企画・情報共有会議」を開催しました。情報共有会議の中から生まれた新たなつながりから共同企画が生まれ、新しい風となって大会に参加することとなりました。



現地企画・情報共有会議から生まれたプログラム

- 【 S-7 】 震災27年、神戸のリアル～地域の目線から～
- 【 S-11 】 100年後の共感へ バズる災害伝承をさぐろう
- 【 S-28 】 全国学生防災シンポジウムinぼうさいこくたい
- 【 W-11 】 ぼうさいミライ☆すごろく
- 【 O-9 】 災害時の医療対応を学ぼう（発災直後から避難所まで）

TEAM防災ジャパン-交流カフェ

TEAM防災ジャパンでは、ぼうさいこくたいの開催に合わせて、防災交流カフェをオープンしました。自治体、福祉、ジェンダー、メディア、災害ボランティア、IT活用など防災の第一線で活躍するTEAM防災ジャパンのメンバーがホスト役となり、出展者からプログラムの見所をお聞きしたり、セッションやワークショップ、展示の実況を中継したり、登壇後の本音を引き出しました。ぼうさいこくたいの裏番組として、多くの方とぼうさいこくたいを楽しみ、つながりを創出する機会となり盛り上がりました。

日時：10月22日（土）9:30-18:00

10月23日（日）9:30-17:30

場所：人と防災未来センター東館4階

ポケモンぼうさいきょうしつ

未就学児向けの防災教材「ポケモンぼうさいきょうしつ」を使って、災害時に身を守る行動を学ぶ授業を実施しました。ポケモンが登場する映像やクイズを通して、楽しみながら学ぶことが出来ました。授業の最後にはピカチュウがあそびに来てくれ、参加者と記念撮影をしました。

日時：10月22日（土）、10月23日（日）

①10:30～「じしん」

②12:30～「かさい」

③14:30～「おおあめ・たいふう」

④16:30～「じしん」 ※④は22日のみ開催

場所：IHDセンタービル3階 304セミナールーム

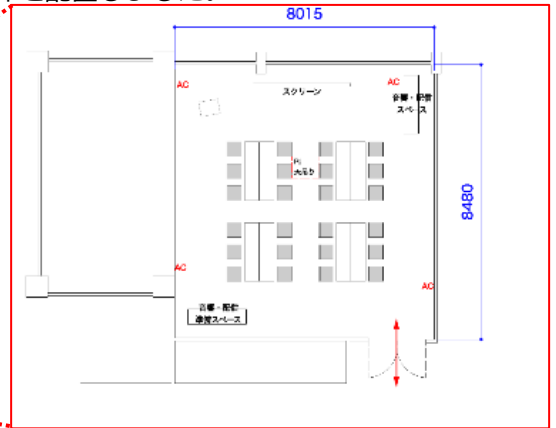


会場詳細

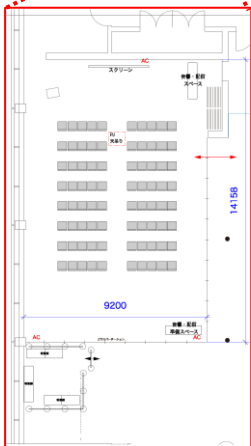
人と防災未来センター

会場ジャンルを「一般、コミュニティ」として、
 親和性が高い出展団体を配置しました。

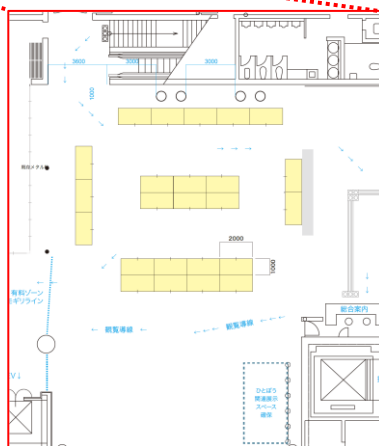
西館



■西館1Fガイドンスルーム2 ワークショップ 約40席

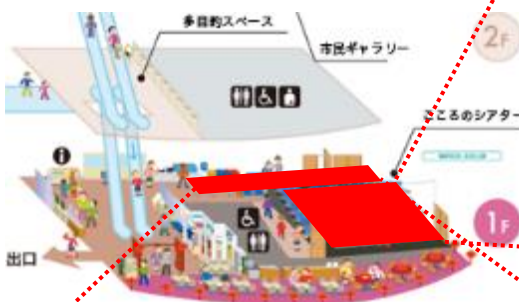


■西館1Fガイドンスルーム1 セッション シアター80席

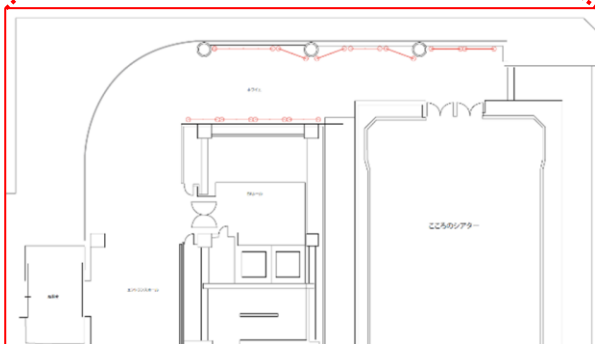


■西館1階ロビー プレゼンテーション 24ブース

東館



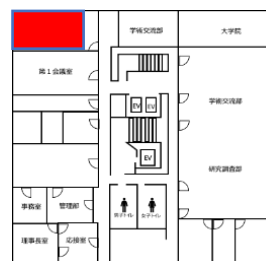
■東館1Fこころのシアター セッション シアター140席



■東館1階ロビー ポスターセッション 11パネル

【出展者休憩&昼食・宅急便荷受け場所】

東館6階 第2会議室



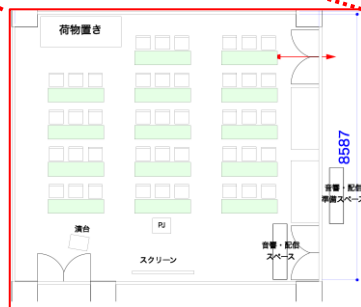
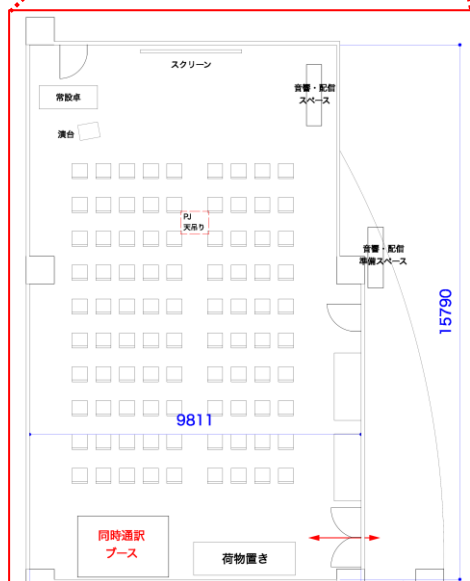
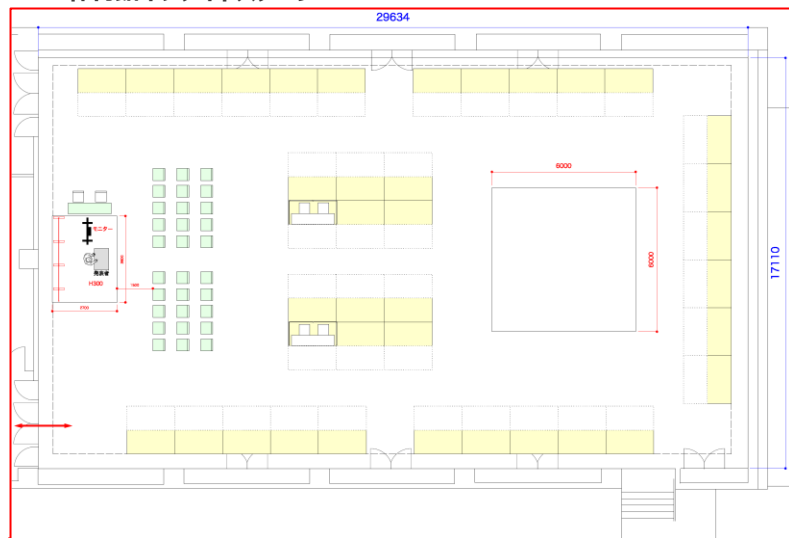
※西館出展者は東館を共有でご利用。

JICA関西

会場ジャンルを「**企業・行政・専門**」として、
 親和性が高い出展団体を配置しました。

2F

- 2F体育館プレゼンテーション 40ブース
- 2F体育館イグナイトステージ



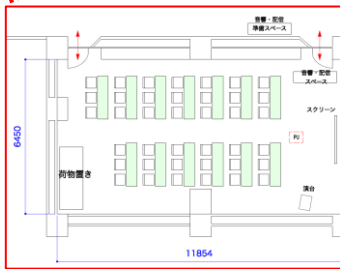
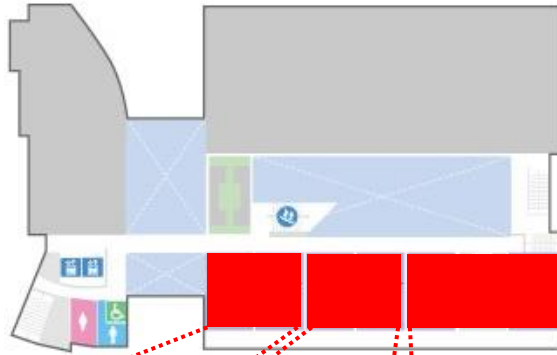
- 2Fオリエンテーション室1・2
 セッションスクール42席

- 2Fフリーフィング室
 セッションシアター108席

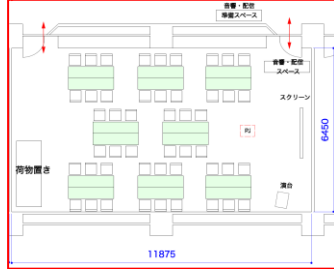
JICA関西

会場ジャンルを「企業・行政・専門」として、
 親和性が高い出展団体を配置しました。

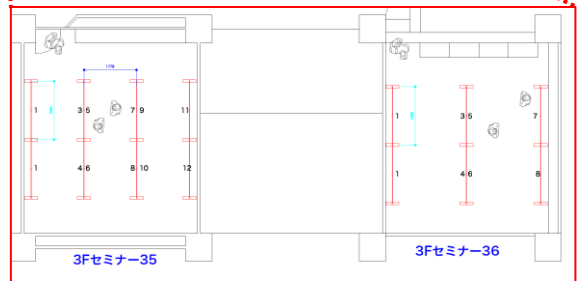
3F



■ 3Fセミナー室31・32
 セッションスクール42席



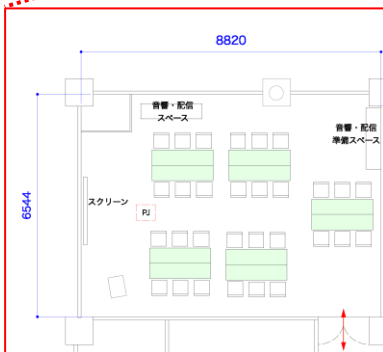
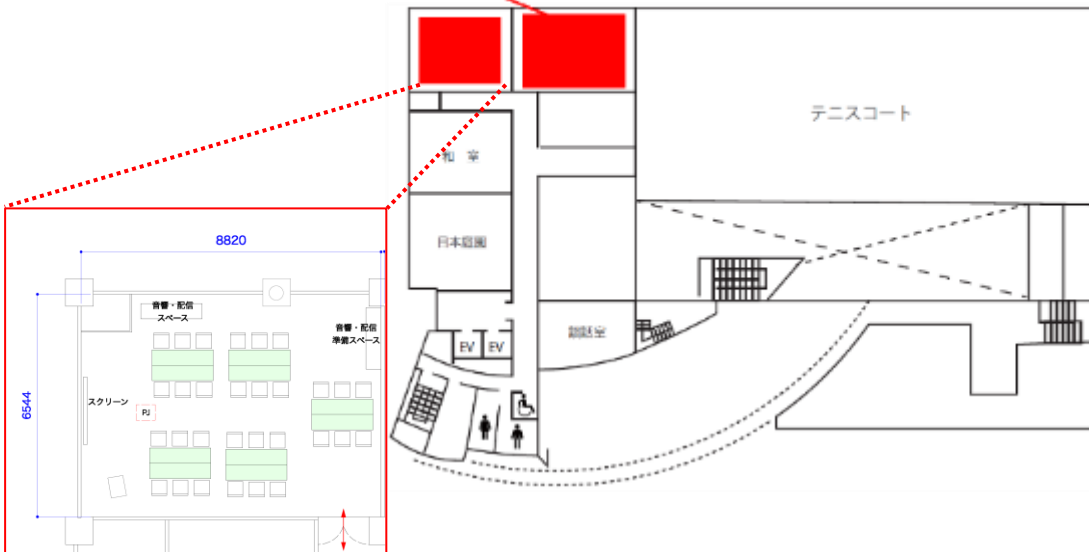
■ 3Fセミナー室33・34
 ワークショップ約42席



■ 3Fセミナー室35・36 ポスターセッション 20パネル

4F

【出展者休憩&昼食・宅急便荷受け場所】
 4階 セミナー室42

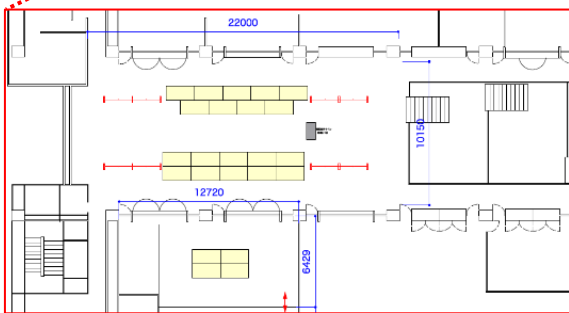


■ 4Fセミナー室41 ワークショップ
 約30席

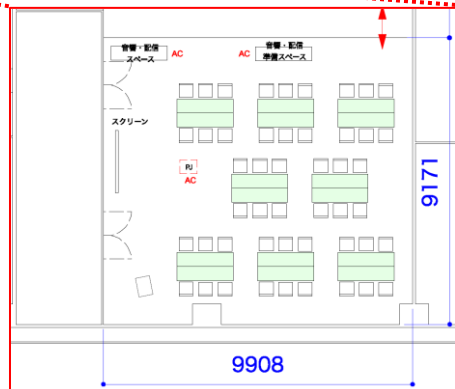
IHDセンタービル

2F

会場ジャンルを「教育・若者・ファミリーゾーン」として、親和性が高い出展団体を配置しました。

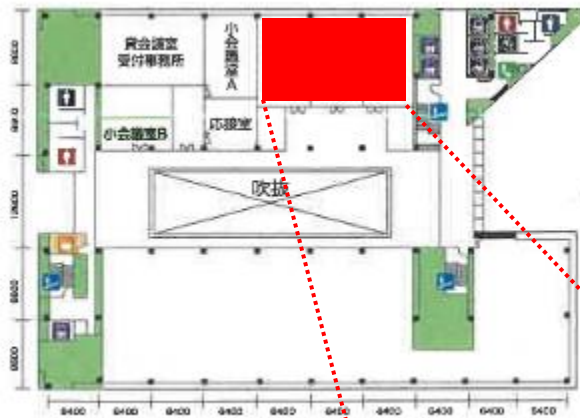


- 2F交流ギャラリー前ロビー プレゼンテーション 19ブース
- 2F交流ギャラリー北 プレゼンテーション 4ブース
- 2F交流ギャラリー前ロビー ポスターセッション 15パネル



- 2F交流ギャラリー南 ワークショップ 約48席

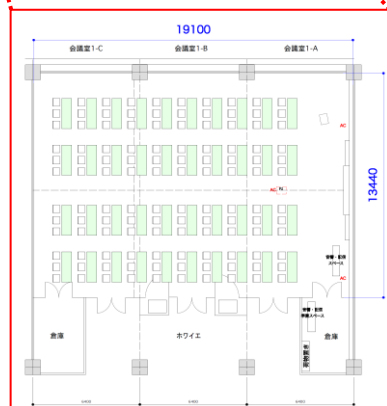
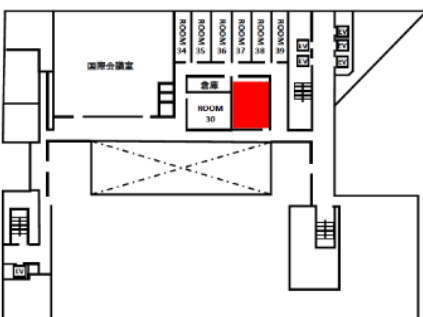
3F



9F

【出展者休憩&昼食・宅急便荷受け場所】

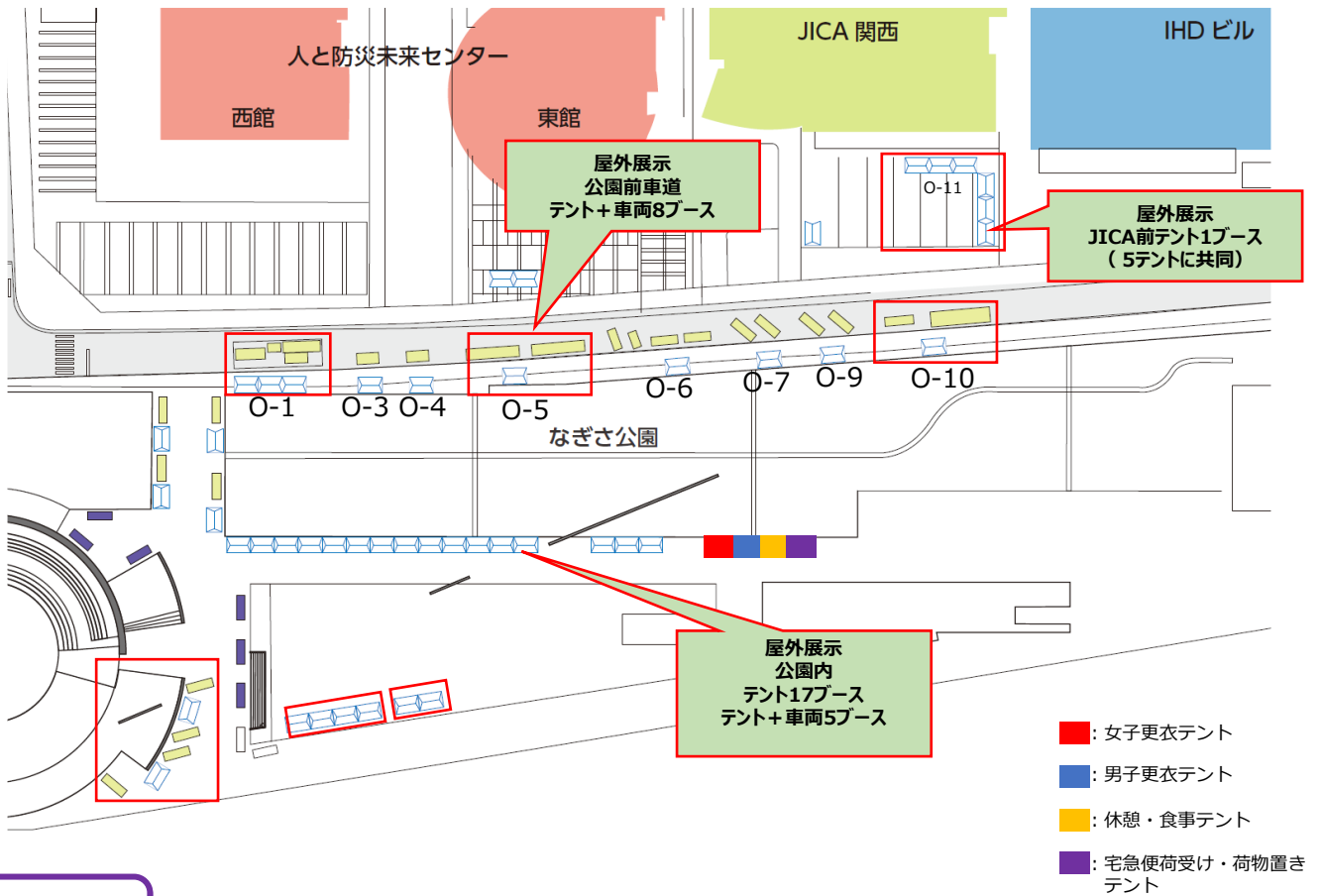
9階 ROOM 29



- 3F会議室1セッション スクール120席

なぎさ公園

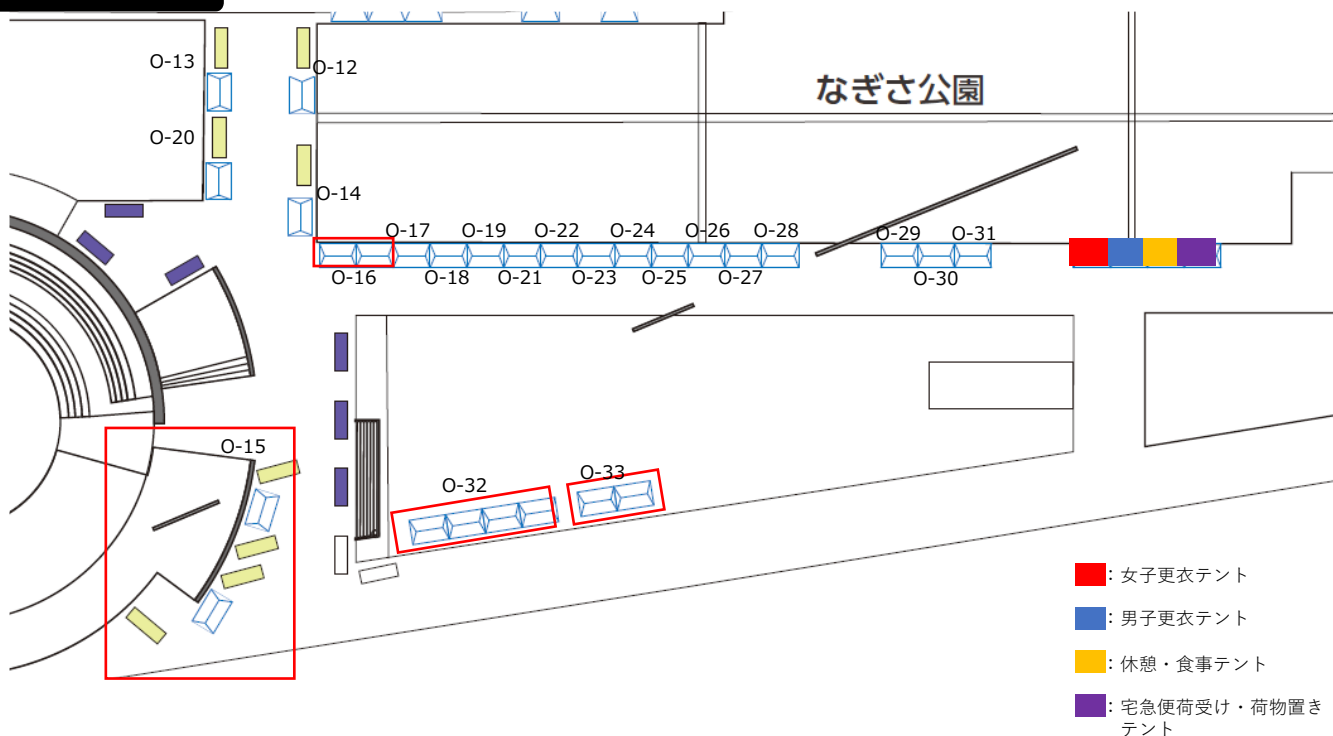
会場ジャンルを「屋外展示」として、
 親和性が高い出展団体を配置しました。



屋外展示

なぎさ公園 (公園内)

会場



セッション詳細

※出展団体に確認したものを掲載。



防災担当大臣の谷公一です。

「防災推進国民大会2022」の開会にあたり、主催者を代表してご挨拶申し上げます。

気候変動が進む中、今年も3月の福島県沖を震源とする震度6強の地震や7月・8月の大雨、9月の台風14号、15号による河川氾濫、土砂災害など各地で災害が相次ぎました。

お亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

さて、今年の「ぼうさいこくたい」は、阪神・淡路大震災からの復興を遂げた、ここ、兵庫県神戸市で開催することといたしました。

あの甚大なる被害を受けた神戸・阪神、淡路地域などは、住民の皆さまはもちろんのこと、関係者の長きにわたるご尽力により、力強い復興を遂げております。

私自身、27年前の冬、ここ神戸で阪神・淡路大震災に遭遇し、復旧・復興事業に兵庫県職員として従事しました。

大震災は、大災害への備えをほとんどしていなかった当時の国、地方自治体などに大きな衝撃を与えました。その苦い反省から、私たちは懸命に、必死に、復旧・復興に取り組んでまいりました。

27年前の大震災を大きな契機として、私たちの防災減災は、過去から謙虚に学び、教訓とし、施策として活かすように努めてきました。

阪神・淡路大震災では、住宅・建築物の倒壊等により多くの方が亡くなりました。これを契機に建物の耐震化などが進みました。

また、この震災では、全国から大勢のボランティアが被災地に駆けつけました。それを機に多くの方がボランティアに関心を持つようになった「ボランティア元年」とも言われます。今や災害ボランティアは被災地に欠かせない存在です。

東日本大震災では、ハード対策では災害は防ぎきれず、命を守るためには、何よりも素早く避難することが大切だということが、広く認識されました。

さて、今年の「ぼうさいこくたい」のテーマは、「未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～」です。

次世代に災害の経験と教訓を語り継ぐことで、防災意識の向上や、防災の担い手の育成につなげていこうというものです。

災害の多い我が国で、その被害を最小限に抑えるためには、我々一人ひとりの努力が必要です。国民一人ひとりが、正しい知識を身につけ、実践していただくことが重要になってまいります。

今回の大会には、行政、企業、各種団体、学术界など防災に関わる延べ320ほどの団体が参加し、それぞれの取組や経験などを発表いただきます。たくさんの方々にご参加いただき、防災を通じた新しい出会いや、新たなつながりが生まれることを期待しております。

そして、防災の輪が全国各地に広がって、我が国の防災力が一層強化されることを願っております。

結びに、ご出席の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

於：10/22（土）人と防災未来センター東館 こころのシアター
「オープニング」

S-1

東館 1F こころのシアター
10/22 (土) 10:30~12:00

オープニングセッション

10:31~11:02

① オープニングセレモニー

■司会 ABCアナウンサー 小縣 祐介

・イントロダクションVTR

「ぼうさいこくたい2022

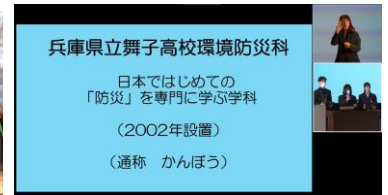
阪神・淡路大震災の経験を後世に」

・「復興を呼ぶ獅子の舞」

神戸中華同文学校 舞獅隊

・「つなぐCanBous」

兵庫県立舞子高等学校生徒による発表



11:02~11:16

② 主催者挨拶及び開催地挨拶

■登壇者紹介

■主催者挨拶

谷 公一
内閣府特命担当大臣 (防災)



清家 篤
防災推進協議会会長・防災推進国民会議議長
日本赤十字社社長



11:16~11:25

■開催地挨拶

齋藤 元彦 兵庫県知事



久元 喜造 神戸市長



11:27~12:06

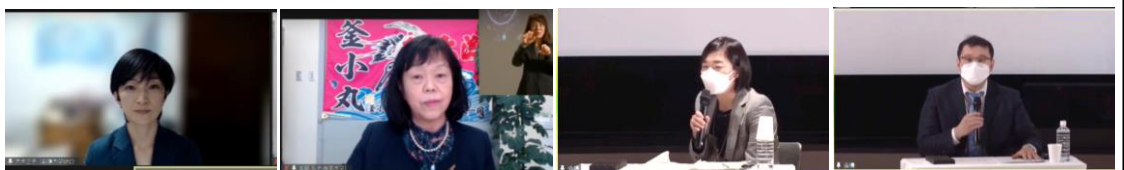
③ オープニングディスカッション

テーマ：「未来につなぐ教訓と防災教育」

本年のぼうさいこくたいのテーマは、「未来につなぐ災害の経験と教訓」です。阪神・淡路大震災など過去の
大災害の教訓をどう伝えていくか。また、防災教育を行っていく際には、地域と連携した形で行っていくこと
や、幼児期から高校生までシームレスに行うことが重要となるが、今後実際にどのように取り組んでいくか。
こうした点について、防災教育を実践している有識者の皆様に御議論いただきました。

■登壇者

大木 聖子 慶應義塾大学准教授
加藤 孔子 若手大学教育学研究科〔教職大学院〕特命教授 / いのちをつなぐ未来館名誉館長
鈴木 あかね 兵庫県立舞子高等学校環境防災科長
木村 玲欧 兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授



S-2
東館1F こころのシアター
10/22 (土) 12:30~14:00

ハイレベルセッション 「大災害とわたし〜トップリーダーがつなぐ災害の経験と教訓」

企画趣旨

日本でも、世界でも、毎年のように大きな自然災害が発生し、たくさんの方が被害を受けています。しかし、一人ひとりにとっては、めったに自分に降りかかるとはならないため、災害のニュースを見聞きしても、それはテレビやインターネットの向こうで起きている「他人事」に過ぎないと受け止められていないでしょうか。

日本中を揺るがしたあの東日本大震災から10年以上が経過し、今回の開催地神戸が被災した阪神・淡路大震災からも四半世紀以上が経ちました。大震災の記憶は遠くなり、震災直後のような危機感も薄れ、災害への備えを怠りがちな人も増えているのではないのでしょうか。

一方で、私たちは、関東大震災から100年という節目を間もなく迎えます。南海トラフ地震をはじめ、迫り来る巨大地震への備えを進めなければなりません。また、気候変動の影響による気象災害の頻発化や激甚化に備えていくことは世界共通の大きな課題です。

ぼうさいこくたい2022のテーマ「未来につなぐ災害の経験と教訓〜忘れない、伝える、活かす、備える〜」には、被災地の悔しい思いを、災害を経験していない人たちとどうやって共有していけば備えが進むかについて、ともに考えたいという思いが込められています。

このセッションでは、開催地兵庫と国内外の各界を代表するトップリーダーの方々から、おひとりおひとりの災害にまつわる「自分事」の体験とともに、それぞれのお立場からの防災の取組で何を意識してきたかをお話しいただきました。聞いていただけるみなさんがそれぞれ「自分事」として防災を深く考え、周囲にも「自分事」として広めていく知恵を共有する機会としたいと考えました。セッションを通じて、災害多発国日本に住む私たちが、改めて災害への備えの大切さを見つめ直していただくことで、災害の経験と教訓を未来につなぐ一助になることを目指しました。

基調講演：「復興思想の変容と東日本大震災」

・五百旗頭 真 (公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構・理事長



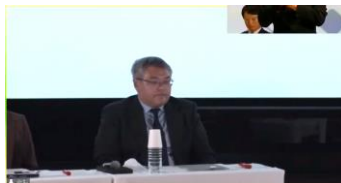
パネルディスカッション

パネリスト

- ・上村 昇 内閣府大臣官房審議官 (防災担当)
- ・齋藤 元彦 兵庫県知事
- ・阪本 真由美 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
- ・中川 寿子 生活協同組合コープこうべ 常務理事
- ・久元 喜造 神戸市長
- ・水鳥 真美 国連事務総長特別代表 (防災担当) 兼 国連防災機関長

モデレーター

- ・中川 和之 株式会社時事通信社解説委員



人と防災未来センター

S-3

東館 1F こころのシアター
10/22 (土) 14:30~16:00

災害教訓と地域防災

主催団体：特定非営利活動法人 日本防災士会

セッションはこれまでの大規模災害の教訓を踏まえて、自助・共助の仕組みの推進を図り、地域の人々の命を守ることを目指して、室崎益輝神戸大学名誉教授、上村靖司長岡技術科学大学教授等を中心としたシンポジウムを開催しました。また、ブース展示により、防災士の活動を紹介するとともに、自助・共助の推進を啓発しました。

■登壇者

原 正之	認定特定非営利活動法人 日本防災士機構
室崎 益輝	特定非営利活動法人 日本防災士会 理事長
上村 靖司	長岡技術科学大学 教授
田淵 和夫	日本防災士会 大阪府支部長
大澤 サユリ	日本防災士会 副理事長
山中 麗子	日本防災士会 常務理事



S-4

東館 1F こころのシアター
10/22 (土) 16:30~18:00

阪神淡路大震災の経験を活かす消防防災対策

主催団体：公益財団法人 日本消防協会

関東大震災以来の大都市直撃地震災害である阪神・淡路大震災において、都市生活様式の変化を背景とした防火防災上の諸課題が顕在化し、この震災は、その後の緊急消防援助隊の創設や地域の防災体制強化への契機となりました。そして、今、日本海溝型地震や南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模地震の発生に備えた、日頃からの取組や非常時の対応が大きな課題となっています。この大会が、阪神・淡路大震災の経験、教訓を伝え学び、一人ひとりの平時からの防災活動推進の一層の充実に資することをめざしました。

■登壇者

室崎 益輝	兵庫県立大学名誉教授
田辺 康彦	総務省消防庁国民保護・防災部長
遠藤 英二	兵庫県防災兼危機管理部長、関西広域連合広域防災局長
鍵本 敦	神戸市消防局長
秋本 敏文	公益財団法人日本消防協会会長



S-5

東館 1F こころのシアター
10/23 (日) 10:30~12:00

南海トラフ地震の本音の話をしましょう！

主催団体：公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

南海トラフ地震など迫り来る巨大災害をテーマに講演や議論を行った。

- 1 報告 (各15分程度) 福和 伸夫 名古屋大学名誉教授 金田 義行 国立大学法人香川大学特任教授 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長 渡辺 研司 名古屋工業大学大学院教授
- 2 パネルディスカッション (45分程度) コーディネーター：河田 恵昭 人と防災未来センター長 パネリスト：報告者3名

■登壇者

福和 伸夫	名古屋大学 名誉教授
金田 義行	香川大学特任教授 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長
渡辺 研司	地域強化研究センター長 学長特別補佐
河田 恵昭	名古屋工業大学大学院社会学専攻 教授 人と防災未来センター長



S-6

東館 1F こころのシアター
10/23 (日) 12:30~14:00

「次の大災害に備える！～ハードウェア・ソフトウェアそしてヒューマンウェアが日本を救う～」

主催団体：一般社団法人 日本損害保険協会

○コーディネーター・室崎 益輝 氏 (減災環境デザイン室顧問/兵庫県立大学特任教授) ○パネリスト・武田 真一 氏 (宮城教育大学特任教授/3.11メモリアルネットワーク代表) ・大牟田 智佐子 氏 (毎日放送 報道情報局 部次長) ・伊豆原 孝 (日本損害保険協会 常務理事)

■登壇者

室崎 益輝	減災環境デザイン室顧問 兵庫県立大学特任教授
武田 真一	宮城教育大学 特任教授 3.11メモリアルネットワーク代表
大牟田 智佐子	毎日放送 報道情報局 兵庫県立大学客員研究員
伊豆原 孝	日本損害保険協会 常務理事
藤岡 勇貴	サンテレビ ニュースキャスター



人と防災未来センター

S-7

西館1F ガイドンスルーム1
10/22 (土) 12:30~14:00

震災27年、神戸のリアル～地域が目線から～

主催団体：ようこそ神戸！市民プロジェクトチーム

・震災27年の今、心に及ぼす影響（復興の多様性） ・高齢化が進む公営住宅の現状（管理者・支援者等の声） ・復興まちづくりや支援活動の経緯と現状 ・地域活動や自主防災計画等の新たな取り組み ・震災を知らない世代の取り組み、伝承・防災啓発の多様な災害文化 想定パネリスト：澤田雅浩氏（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科）、神戸市営住宅管理センター職員、NPO法人石巻復興支援ネットワーク職員 他

■登壇者

澤田 雅浩	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授
兼子 佳恵	一般社団法人りとりと代表理事
山下 雅光	倉敷市真備支え合いセンター副センター長
岡野 照美	岡山県倉敷市真備町岡田地区まちづくり推進協議会
森 章浩	合同会社フォレストランド代表
西村 真由美	宮崎・地域づくりコーディネーター
金澤 章子	ケアポート神戸
長井 晴子	神戸市営住宅東部管理センター
石田 裕之	歌手・防災士



S-8

西館1F ガイドンスルーム1
10/22 (土) 14:30~16:00

生態系管理による防災・減災の取組

主催団体：兵庫県気候変動適応センター

（兵庫県・（公財）ひょうご環境創造協会）

生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）のアプローチとして、兵庫の豊かな生態系が有する防災・減災の機能を発揮させることで自然災害リスクを軽減させ、持続可能な地域社会づくりにつながることを認識し、様々な主体の連携による防災力の向上への取組について考える機会としました。県内でEco-DRRに取組むパネリスト4名からの実例紹介により、自然を基盤とした解決策を意識した兵庫県独自の防災・減災の展開も目指しました。

■登壇者

三橋 弘宗	兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員
上西 琴子	兵庫県環境部 次長
山瀬 敬太郎	兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター 森林活用部 主席研究員兼部長
藤木 大介	兵庫県森林動物研究センター 主任研究員
佐川 志朗	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 教授



S-9

西館1F ガイドンスルーム1
10/22 (土) 16:30~18:00

「災害報道サミット」～避難を伝える“最前線”の戸惑いと挑戦～

主催団体：関西なまずの会（関西の報道機関有志による災害勉強会）

災害の種類や、発表される地域、季節や社会状況によって内容が変化する「避難」という言葉。そうした状況に直面するたび、メディアで呼びかけるアナウンサーらは少なからず戸惑いを感じているはずです。そんな「伝え手の悩み」を研究者らと広く共有し、次なる災害で活かせる効果的な呼びかけ方を考えました。セッションには一般の視聴者にも参加していただき、これからの「リスクコミュニケーションのあり方」を一緒に考えました。

■登壇者

福本 晋悟	毎日放送
横尾 泰輔	NHK
生田 明子	信越放送
山田 理	岩手朝日テレビ
矢島 学	日本テレビ
磯打 千雅子	香川大学創造工学部



人と防災未来センター

S-10
西館1F ガイドンスルーム1
10/23 (日) 10:30~12:00

避難生活支援と「もれ・むら」のないコーディネーション

主催団体：特定非営利活動法人
全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD)

日本のどこで災害が起きても支援の「もれ・むら」をなくし、必要な支援を効果的に届けるため、現在、多様な主体間における連携・協働による避難生活支援の仕組みの構築が進められている。さらに、このシンポジウムにより、我々が目指すべき「被災者支援コーディネーション」とは何かを明らかにすることで、災害中間支援組織によるコーディネーションや都道府県域NW構築など具体的な取り組みを進めた。

■登壇者

辛嶋 友香里	ピースボート災害支援センター／現地コーディネーター
今井 遊子	社会福祉法人 全国社会福祉協議会 政策企画部副部長、 災害福祉支援活動推進室長
村上 威夫	内閣府 政策統括官(防災担当) 付 参事官(普及啓発・連携担当)
岸田 育也	兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランタリープラザ 交流支援部長
栗田 暢之	認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 代表理事
明城 徹也	認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 事務局長



S-11
西館1F ガイドンスルーム1
10/23 (日) 12:30~14:00

「100年後の共感へ バズる災害伝承をさぐろう」

主催団体：【現地共同企画】伝承セッション2022

自然災害の語り継ぎについて、地域と世代の異なるパネリストたちと、素朴で身近な問いを探り出し、共に考える時間を作りました。各パネリストの活動報告の後に「問い」を設定し、その問いの進め方についてもその場で工夫しつつ、答えを探りました。

■登壇者

堀田 ちひろ	「あすパ・ユース震災語り部隊」メンバー
湯川 友太	「あすパ・ユース震災語り部隊」メンバー
永沼 悠斗	「3.11メモリアルネットワーク」理事
米山 正幸	北淡震災記念公園 総支配人
高井 千珠	震災遺族・上智大学グリーンケア研究所認定臨床聴士
武村 雅之	名古屋大学減災連携研究センター特任教授
高原 耕平	人と防災未来センター主任研究員
藤原 祐弥	1.17 希望の架け橋
松本 乃映	1.17 希望の架け橋
長谷川 侑翔	1.17 希望の架け橋
藤室 玲治	被災地に学ぶ会 代表 あすパ・ユース語り部隊 副代表



JICA関西

S-12
2F オリエンテーション室
10/22 (土) 12:30~14:00

平時における立場を越えた顔の見える関係づくり

主催団体：オンライン市役所防災対策課 (2022年10月22日当時)

毎週約100名が参加し、2023年3月末現在106回開催している人気コンテンツ「オンライン市役所防災対策課公開MTG (2023年3月末現在は「全国防災関係人口ミートアップ」としてアップデートした、全国の公務員はもとより、自治会や自主防災会、災害ボランティア、企業、学生、有識者等のフラットで双方向の学びの場)」の「ぼうさいこくたいバージョン」を開催。毎週、立場や地域を越えてオンライン上に集う全国の防災関係人口が、「ぼうさいこくたい」では、リアルに集って「平時から立場を越えた関係づくり」の大切さを深掘りし、地域への実装に活かします。



JICA関西

S-13

2F オリエンテーション室
10/22 (土) 14:30~16:00

特別支援学校の現状と課題～みんなで一緒に助かるために～
主催団体：特別支援学校の災害対策を考えるfacebookグループ

様々な立場で支援学校の災害対策に関わる方の中から、①保護者(湯井@大阪府立支援学校PTA協議会OB会)、②教職員(山本@大阪府立和泉支援学校)(下井@大阪府立富田林支援学校)、③行政(木場@大阪府教育庁)、④防災研究(小村@常葉大)を招致し、⑤学識者(青田@兵庫県立大学)の司会進行の下、支援学校の現状を知り、課題を共有した上で、真の共生社会における災害時の支援学校のあり方について議論しました。



S-14

2F オリエンテーション室
10/22 (土) 16:30~18:00

福祉と防災の最前線 -福祉・防災実務者の視野と視座-
主催団体：一般社団法人 地域安全学会 実務者企画委員会

福祉・防災を巡る行政の取組については、国、都道府県、市町村それぞれで違った視点で、違った役割を担っており、相互理解、連携がなければ実効性のある施策実施には繋がりません。そこで本セッションでは、個別避難計画を例にして、福祉部局と防災部局、国と自治体という異なった視座に立つ実務者と、研究者を交えた議論を通じて、それぞれの視野を共有しながら、異なる領域・階層で取り組む実務者同士の連携について考えました。

■登壇者

近藤 真吾	岡山市危機管理室 主事
岩垣津 信太郎	岐阜県危機管理部防災課 主任
小松 剛	伊那市総務部危機管理課 係長
岡田 恵実	豊橋市防災危機管理課 主事
小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授
古橋 勝也	京都府危機管理監付 参事



S-15

2F オリエンテーション室
10/23 (日) 10:30~12:00

COVID-19パンデミックに対する本邦の災害医療対応
主催団体：一般社団法人 日本災害医学会

COVID-19パンデミックに対し、本邦の災害医療は搬送調整や個人防護具・病床確保、全国各地のクラスター発生施設対応や入院待機ステーションの設置運営等による医療提供体制の構築を進めてきた。本セッションでは、これまでの活動を振り返りながら、なぜパンデミックで災害医療支援が有効なのか、そして未曾有の危機に対して求められるAll-Hazard型の新しい災害医療のあり方は何かの核心に迫った。

■登壇者

阿南 英明	神奈川県 医療危機対策統括官
中西 香織	札幌市保健所 地域医事担当部長
近藤 久禎	国立病院機構本部 DMAT事務局 次長



S-16

2F オリエンテーション室
10/23 (日) 12:30~14:00

災害レジリエンスの実現に向けて - 共創・国際・実装の取組み -
主催団体：東北大学 災害科学国際研究所

当研究所の新たな取組の紹介として、第1に当研究所が2022年度から立ち上げた災害レジリエンス共創センターについて紹介した。第2に、災害医療と国際連携について、WHO神戸センターと連携して発表した。第3に、南海トラフ地震の事前情報発表時の対応計画作成支援の研究成果を発表した。想定登壇者は、WHO神戸センターの茅野先生、当研究所の江川教授、越村教授、丸谷教授、福島准教授、佐藤翔輔准教授。

■登壇者

丸谷 浩明	東北大学災害科学国際研究所 副所長
江川 新一	災害レジリエンス共創センター センター長
越村 俊一	災害レジリエンス共創センター 副センター長
茅野 龍馬	世界保健機関 (WHO) 健康開発総合研究センター 医官
福島 洋	東北大学災害科学国際研究所 准教授
中鉢 奈津子	東北大学災害科学国際研究所 特任准教授



JICA関西

S-17
2F プリーフィング室
10/22 (土) 12:30~14:00

災害時の活動における支援者のこころとからだの健康 主催団体：兵庫県立大学地域ケア開発研究所

災害時に被災地で活動する支援者に生じる心と体の健康への影響について講演し、支援者となる自治体職員や一般ボランティアの方々に自身をケアしながら災害支援に従事するためのポイントをお伝えしました。災害医療・災害メンタルヘルスの研究者、災害支援の活動者（NPO等スタッフ）、自治体防災担当者、WHO技官等、研究者と実践家および行政等異なる立場の登壇者によるパネルディスカッションを行いました。

■登壇者

増野 園恵	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長
茅野 龍馬	WHO健康開発総合研究センター 医官
森岡 慎一郎	国立国際医療研究センター病院国際感染症センター 医師
今中 美紀	明石市総務局職員室給与・厚生担当 保健師
武用 百子	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻看護実践開発科学講座（精神保健看護学）教授
佐藤 桃子	国連広報センター 広報官



S-18
2F プリーフィング室
10/22 (土) 14:30~16:00

21世紀前半に発生が確実視される 国難級災害を乗り越えるためのレジリエンス確保のあり方 主催団体：日本学術会議 土木工学・建築学委員会IRDR分科会

南海トラフ地震、首都直下地震など21世紀前半に発生が確実視される超巨大災害が切迫している。また、全国的に甚大な水害の発生の危険性が高まっており、経済・社会活動が集中する首都圏では深刻である。こうした国難級リスクを乗り越えるため、残された時間の中で何を準備して、発災後はどのように対応すべきかであろうか。学術、行政、民間、メディアの見地から、国難災害を乗り越える俯瞰的な戦略と実行可能な具体的方策について討議した。

■登壇者

田村 圭子	新潟大学危機管理本部危機管理室教授,日本学術会議連携会員
河田 恵昭	関西大学社会安全学部特別任命教授 (チェアプロフェッサー)・社会安全研究センター長 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長
水野 茂	株式会社ミズノマリン代表取締役
大牟田 智佐子	毎日放送報道情報局報道業務部部次長
多田 明世	元大阪府茨木市危機管理課長、よんなな防災会女子部 管理者
川崎 昭如	東京大学未来ビジョン研究センター教授,日本学術会議連携会員
林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長,日本学術会議連携会員



S-19
2F プリーフィング室
10/22 (土) 16:30~18:00

「気候変動×防災」 ～サステイナブルなまちづくり、コミュニティを考える～ 主催団体：アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (APN)

「気候変動×防災」～サステイナブルなまちづくり、コミュニティを考える～をテーマにパネルディスカッションを開催しました。
特色① APNのネットワークを活かした国際的なセッションとし、日英同時通訳付で国内外の人々に発信しました。
特色② 兵庫県立大学大学院の知見を活かして、阪神淡路大震災を始めとする様々な災害の経験を伝えるとともに、近年増加する水害に対してコミュニティがどのように備えるのかを議論しました。

■登壇者

馬場 美智子	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
AYYOUB SHARIFI	広島大学大学院人間社会科学部研究科兼先進理工系科学研究科教授
塚田 源一郎	環境省地球環境局総務課気候変動適応室長
富坂 隆史	APNセンター長
天羽 美紀	APNセンター総務課長



JICA関西

S-20
2F プリーフィング室
10/23 (日) 10:30~12:00

「D&I防災をリードする女性社長と企業経営」

主催団体：全国女性社長の共創防災会議

全国の女性社長たちの地域での取り組み、防災関連の新規事業、地域を超えた防災連携の発表を踏まえ、ジェンダー平等に基づくD&I防災の提言を行いました。パネリストは協力団体の企業社長で会議を推進する女性社長6名と小山真紀先生、モデレーターはSDI研究所理事の田原真人。対象は企業経営者、学術関係者、行政のほか取り組みに関心を持たれる方とし、共創防災のネットワークに参画希望する仲間を広く求めました。

■登壇者

鈴木 世津	ヒューネクスト株式会社 CEO
田原 真人	一般社団法人SD&I研究所 理事
奥川 季花	株式会社ソマノベース 代表取締役
長谷部 愛	株式会社日本木材 取締役
今井 麻衣子	今井運送株式会社 代表取締役
西口 香織	明友産業株式会社代表取締役常務
境 順子	株式会社マスコール 代表取締役
光畑 由佳	モーハウス代表/お茶の水女子大学大学院後期課程
小山 真紀	岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授



S-21
2F プリーフィング室
10/23 (日) 12:30~14:00

阪神・淡路大震災時の対応と復興について

～伝承。行政・消防・災害医療の視点から～

主催団体：兵庫県災害医療センター

・阪神・淡路大震災の際の対応や復興、次世代に伝えたいことをテーマに、行政・消防・災害医療の第1線を走り続けたリーダーが鼎談しました。

・パネリストは、井戸 敏三（ひょうご震災記念21世紀研究機構特別顧問・前兵庫県知事）鍵本 敦（神戸市消防局長・兵庫県下消防長会会長）中山 伸一（兵庫県災害医療センター顧問）

■登壇者

鍵本 敦	神戸市消防局長
井戸 敏三	前兵庫県知事
中山 伸一	兵庫県災害医療センター顧問
鶴飼 卓	兵庫県災害医療センター前顧問
高井 美紀	株式会社毎日放送 総合編成局アナウンスセンター エキスパート



S-22
3F セミナー室31・32
10/22 (土) 12:30~14:00

-1.17+3.11からの教訓- 長期・広域避難者支援における

災害マネジメントのあり方を考える

主催団体：一般社団法人ほっと岡山

今後の大規模災害時に発生する広域避難者問題について、阪神・淡路大震災及び東日本大震災の教訓を踏まえ、長期・広域避難者支援における「災害ケースマネジメント」のあり方、及び残存する課題として、法整備や制度に求められる点を共に考える機会を設けた。

■登壇者

栗田 暢之	愛知県被災者支援センター長
澤上 幸子	NPO法人えひめ311事務局長
真壁 さおり	社会福祉士、ファシリテーター
牧 秀一	
服部 育代	一般社団法人ほっと岡山 代表理事
青田 良介	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授



S-23
3F セミナー室31・32
10/22 (土) 14:30~16:00

災害看護でまちづくり

主催団体：(一社) EpiNurse

災害がおきると地域の中にいる看護師はその専門性を活かしながら多様な立場で生活再建を支援し、その後のあんしんな暮らしと復興に取り組んできました。このセッションでは、阪神・淡路大震災、東日本大震災、西日本豪雨などにおいて、支援活動に携わってきた看護師、訪問看護師、研究者とその協力者（情報支援）、行政関係者らが、災害看護の視点からのまちづくりの重要性・意義について実際の活動内容を踏まえて議論しました。

■登壇者

増野 園恵	兵庫県立大学地域ケア開発研究所 所長
西口 久代	兵庫県看護協会 専務理事
芳賀 礼子	気仙沼・南三陸地区住民の健康を支える会 代表
片岡 奈津子	NPO法人そーる 代表
岡本 正	銀座パートナーズ法律事務所 弁護士
	岩手大学地域防災研究センター 客員教授
	人と防災未来センター 特別研究調査員
神原 咲子	神戸市看護大学 教授 (一社) EpiNurse 代表



JICA関西

S-24

3F セミナー室31・32
10/22 (土) 16:30~18:00

災害対策の体系化と災害対策トレーニングプログラムの構築

主催団体：東京大学生産技術研究所附属災害対策トレーニングセンター(DMTC)

行政、民間企業・団体、地域住民まで相互に補完・連携した災害対策を実現するために、そもそも災害対策はどのように体系化できるのか、それをどのようにトレーニングすると有効なのかをご紹介します。具体的には、災害対策に関する8つの研究・教育分野、47種類の災害対策業務、災害対策業務を支援するBOSSシステムによるDX化を紹介しました。そしてこれらを踏まえた、災害対策トレーニングプログラムについて説明しました。

■登壇者

沼田 宗純 東京大学生産技術研究所附属災害対策
トレーニングセンター(DMTC) 副センター長
谷 敏行 神戸市危機管理室 担当係長



S-25

3F セミナー室31・32
10/23 (日) 10:30~12:00

安全・安心イノベーション創出に向けた大阪うめだ地区の挑戦

主催団体：関西大学

関西大学の防災研究に関わる研究者、ニュービジネスやビジネスモデルなどの経営学の研究者と、大阪・梅田を拠点に活動する企業様とパネルディスカッションを行いました。参加対象者は、大都市災害に対し対応を迫られている企業、自治体、非営利団体など。【登壇者：関西大学 社会安全学部教授 奥村与志弘、商学部教授 西岡健一、学生他。企業様：阪急阪神不動産株式会社様、UHA味覚糖株式会社様】

■登壇者

奥村 与志弘 関西大学 社会安全学部教授
西岡健一 商学部教授
学生他
阪急阪神不動産株式会社
UHA味覚糖株式会社



S-26

3F セミナー室31・32
10/23 (日) 12:30~14:00

災害時における超法規的措置について考える

主催団体：災害復興法理論研究会

災害復興法理論研究会のメンバーによる報告をもとに会場の来客者とともにディスカッションを行いました。報告テーマ・ディスカッションの内容は以下のものです。

災害時における超法規的措置（東日本大震災の事例紹介）
非常時・緊急時における特有の法原理・法原則
自然災害と国家緊急権・緊急事態条項

■登壇者

佐々木 晶二 (一般財団法人) 土地総合研究所 専務理事
岡本 正 銀座パートナーズ法律事務所 弁護士
人と防災未来センター特別研究調査員
岡田 博史 関西学院大学法学部教授



S-32

2F オリエンテーション室
10/22 (土) 10:30~12:00

防災分野へのドローン利用の最前線

主催団体：一般社団法人日本ドローンコンソーシアム

防災・災害状況把握へのドローン利用の最新状況を紹介すると共に、災害時のドローン利用・導入の実利用事例を紹介しました。また、当該セッションでは、防災・災害状況把握に最前線で取り組む研究者・事業者が登壇し、事例を紹介させて頂きました。特に、各所轄において、ドローンの新たな実践的な導入取組みを紹介させて頂きました。

■登壇者

原 孝史 倉敷市副市長
伊勢 正 防災科学技術研究所
西川 啓一 iシステムリサーチ株式会社
須田 信也 株式会社WorldLink& Company
酒井 直樹 一般社団法人ドローンコンソーシアム理事、防災部会長
伊東 明彦 一般社団法人ドローンコンソーシアム (JDC) 理事・事務局長



IHDセンタービル

S-27
3F 会議室1
10/22 (土) 12:30~14:00

防災教育交流会

主催団体：防災教育チャレンジプラン実行委員会

目的：本大会のテーマである「未来につなぐ災害の経験と教訓～忘れない、伝える、活かす、備える～」のテーマを踏まえ、基調報告および意見交換会を行うことにより、今後の防災教育の普及推進に向けた検討課題の共有化を図る。対象：防災教育の取組初心者及び、本事業の参加主体である学校、NPO、学生団体、個人等
 出展内容：防災教育各分野の代表者による基調報告と意見交換会

■登壇者

諏訪 清二	兵庫県立大学 特任教授 防災教育学会 会長
木村 玲欧	兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授
石井 布紀子	NPO法人さくらネット代表理事
杓子尾 駿	日本損害保険協会 業務企画部 防災・安全グループ 係長
池田 真幸	防災科学技術研究所 特別技術員
佐藤 翔輔	東北大学災害科学国際研究所 准教授
舩木 伸江	神戸学院大学現代社会学部 社会防災学科 教授
佐藤 健	東北大学災害科学国際研究所 防災教育実践学分野 教授

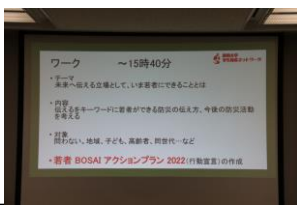


S-28
3F 会議室1
10/22 (土) 14:30~16:00

全国学生防災シンポジウムinぼうさいこくたい

主催団体：静岡大学学生防災ネットワーク

当団体が2020年から2年間継続して行ってきた「全国学生防災シンポジウム」を本大会で行う新たな取り組みです。全国の防災に関する活動を行っている若者（高校生・大学生等）が集まり、パネリストからの事例を踏まえ、防災に関して議論し合いました。当シンポジウムでは学生が防災に関する議題を話し合うことで、学生の今後の防災活動の活発化を図るとともに学生内や学生と大人とのネットワークを作り、災害時に活かすことができました。



S-29
3F 会議室1
10/22 (土) 16:30~18:00

KOBE発 防災教育と実践へのチャレンジ

—若者の想い“過去・現在・未来”を知り・次の世代へ発信—

主催団体：兵庫県立大学・神戸学院大学

兵庫・神戸で防災を学んだ若者が、今はどのように暮らし、防災に関わっているのか。また、これからの社会を担う若者が“これから学びたいこと”など、地域防災活動の事例紹介を交え、卒業生と現役学生や生徒によるパネルディスカッションを行い、ひょうごの防災教育の歩みと防災教育の意義について議論しました。そして、市民ひとりひとりが「防災」を学ぶ大切さや、これからの「防災」について一緒に考えました。

■登壇者

森永 速男	兵庫県立大学院減災復興政策研究科減災復興政策専攻 特任教授
前林 清和	神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授・学部長、博士（文学）
三浦 広志	特定非営利活動法人野馬土 代表理事
難波 滋	兵庫県立尼崎小田高等学校 教諭
栂田 和宏	防災音楽ユニット：Bloom Works



S-30
3F 会議室1
10/23 (日) 10:30~12:00

「東日本大震災津波被災地・岩手における防災の学び」について

主催団体：三陸復興協議会

住民を主体とした地域の防災力の向上、岩手県内における東日本大震災津波の教訓伝承の取組を軸に据え、災害に強い地域づくりに向けた取組を考えるとともに、これまでの復興の歩みや復興支援への感謝の想いを伝え、復興の先を見据えた「防災を学習する場」としての新しい岩手の姿を発信しました。

■登壇者

杉安 和也	公立大学法人岩手県立大学総合政策学部 講師
阪本 真由美	公立大学法人兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授
山野目 真	三陸鉄道株式会社運行本部旅客営業部旅客営業課長
菊池 のどか	震災語り部ガイド
津軽石 昭彦	関東学院大学法学部地域創生学科 教授



IHDセンタービル

S-31
3F 会議室1
10/23 (日) 12:30~14:00

防災教育を科学する
主催団体：防災教育学会

・阪神・淡路大震災の発生した地元で、震災以来続けられてきた「新たな防災教育」「兵庫の防災教育」の事例を紹介し、その意味を考えました。
・東日本大震災の被災地で行われている、被災体験をもとにした「復興教育」の事例を紹介し、その意味を考えました。
・災害体験の有無と防災教育の個性・普遍性を議論しました。

パネリスト：船木伸江（副会長・阪神大震災の事例）、東日本大震災の復興教育の事例、諏訪清二（会長）

■登壇者

諏訪 清二	防災教育学会	会長
船木 伸江	防災教育学会	副会長
北野 裕信	防災教育学会	
佐藤 敏郎	防災教育学会	



オンライン

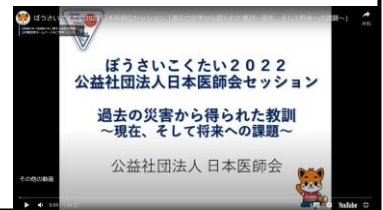
So-1
オンライン
10/22 (土) 12:30~14:00

過去の災害から得られた教訓～現在、そして将来への課題～
主催団体：公益社団法人 日本医師会

本セッションでは、過去の災害時から得られた教訓を改めて考えた。我が国の災害医療体制は、阪神・淡路大震災をはじめとした、過去の災害で得られた課題を乗り越えるため、新たな仕組み作りを行い強化されてきた。今改めて、過去の被災経験や災害対応で得られた知見を基に、現在の災害医療体制における課題や、今後の備えとして何ができるのかを考えた。

■登壇者

藤田 宏史	一般社団法人 兵庫県医師会	常任理事
山口 芳裕	杏林大学医学部主任教授・高度救命救急センター長	
柳川 忠廣	公益社団法人 日本歯科医師会	副会長
村上 美也子	公益社団法人 富山県医師会	副会長
石井 美恵子	国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 災害医療分野 教授	
	日本災害医学会	理事
松本 吉郎	公益社団法人 日本医師会	会長
茂松 茂人	公益社団法人 日本医師会	副会長
細川 秀一	公益社団法人 日本医師会	常任理事



So-2
オンライン
10/22 (土) 14:30~16:00

WAA ReSCue2年め、そして未来へ
主催団体：WAA ReSCue

連携する自治体や支援したい人材を拡大、繋がれるセッションとして、WAA ReSCueがこれまで取り組んできた人材養成研修や防災ワークショップの様子をメンバーから報告。当日はワークショップ先からのレポートや交流した地域住民の感想などをライブ配信で各地からリアルに報告。フェーズフリーに地域と関わる重要性、支援できる人材になる意義を参加者に伝えた。
パネリスト：WAA ReSCueメンバー



So-3
オンライン
10/22 (土) 16:30~18:00

自然災害を取り巻く環境の変化～防災科学の果たす役割
主催団体：防災学術連携体・日本学術会議

近年、自然災害と感染症との複合災害、線状降水帯の頻発化、盛土崩落による土石流、火山噴火と津波・軽石の漂流など、新たなハザード（危機）と災害が出現しています。私たちは、出現した多様なハザードへの備えという重大な課題に直面しています。ここでは、自然災害を取り巻く環境が変化する中で、防災科学が果たすべき役割に焦点を当てて、広く意見交換をしました。パネリストは、各分野の専門家8名に登壇頂きました。

■登壇者

永野 正行	日本学術会議連携会員、防災学術連携体幹事、東京理科大学理工学部建築学科・教授
山本 佳世子	日本学術会議連携会員、防災学術連携体幹事、電気通信大学教授
米田 雅子	日本学術会議会員・防災減災学術連携委員長、防災学術連携体代表幹事、東京工業大学特任教授
安田 珠幾	気象庁総務部参事官、日本気象学会会員
小杉 賢一郎	京都大学大学院農学研究科教授、砂防学会研究開発部会長
長谷川 兼一	秋田県立大学教授
後藤 高広	農研機構農村工学研究部門災害対策調整室長
矢守 克也	京都大学防災研究所教授、日本災害復興学会会長、地区防災計画学会副会長



オンライン

So-4
オンライン
10/23 (日) 10:30~12:00

新災害予兆スタイル ー逃げるを諦めない、その先へー

主催団体：一般社団法人DroneAI技術研究機構

- 1 人が助かるためには、事前の情報が必要で、そのために最新の技術による災害予兆科学の実践が必要
- 2 今までの災害予兆による事前アンケートに基づき検証をする
- 3 災害弱者やフィジカルチャレンジの方を含めた避難を考える
- 4 最新技術のご紹介
- 5 上記の複合的な活用技術

■登壇者

田口 政行	一般社団法人DroneAI技術研究機構 研究者
澤田 まきこ	司会/モデル
藤重 裕	一般社団法人DroneAI技術研究機構 理事長/研究者(学者)



So-5
オンライン
10/23 (日) 12:30~14:00

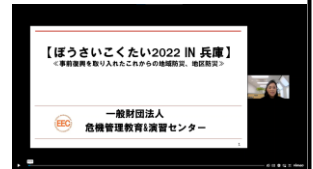
「事前復興を取り入れたこれからの地域防災、地区防災」

主催団体：一般財団法人危機管理教育&演習センター

「事前復興」をテーマに、国の事前復興に関するガイドラインや全国でのモデル事業の事例、高知県の事前復興を市町村に展開する取り組み、宿毛市の高台庁舎移転の取り組み、鶴来島での島民中心で事前復興を取り入れた地区防災計画の作成の取り組み等を紹介させていただきました。登壇者 国土交通省、高知県、宿毛市役所、鶴来島区長、一般財団法人危機管理教育&演習センター

■登壇者

塙 洋介	国土交通省 都市局都市安全課 課長補佐
大野 修史	高知県南海トラフ地震対策課 チーフ(対策推進担当)
近澤 伸一	高知県宿毛市役所 危機管理課 係長
田中 美千枝	高知県宿毛市鶴来島 区長
細坪 信二	一般財団法人危機管理教育&演習センター 理事長



So-6
オンライン
10/22 (土) 12:30~14:00

集まれ!防災女性職員とその応援団 第2弾

主催団体：内閣府男女共同参画局

全国で防災女性職員のネットワークを作っている自治体や、地域で防災活動に取り組む女性団体等の活動を紹介し、各地で防災に携わる女性同士のつながりをさらに広げることを目的としてセッションを開催した。

So-7
オンライン
10/22 (土) 14:30~16:00

災害伝承ミュージアム・セッション2022 日本の災害ミュージアムの現在地

主催団体：日本災害伝承ミュージアム・セッション

全国の災害伝承ミュージアムおよび、「語り部活動」「震災遺構」等を含み、ミュージアム的な場が担う災害伝承活動全般に関する包括情報を紹介。またこれらに関し選抜したミュージアムを運営する施設・団体から活動・取り組みの現状等をレポートいただきました。また最新の情報を披露しあうことで、登壇者および本テーマに関心のある参加者において互いの見識を深める場としました。

■登壇者

吉岡 一浩	南三陸311メモリアル (宮城県南三陸町)
北浦 知幸	おらが大槌夢広場 (岩手県大槌町)
中川 政治	3.11メモリアルネットワーク (宮城県石巻市)
高村 昇	東日本大震災・原子力災害伝承館 (福島県双葉郡双葉町) / 館長
杉本 伸一	日本ジオパークネットワーク・雲仙岳災害記念館 (長崎県雲仙市) / 館長
山住 勝利	ふたば学舎 (神戸市長田区)
池本 啓二	北淡震災記念公園 野島断層保存館 (兵庫県淡路市)
森川 徹	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター (神戸市中央区)
澤田 雅浩	兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授
山地 久美子	災害語り部ネットワーク・神戸大学特命准教授
平林 英二	人と防災未来センター 企画ディレクター



オンライン

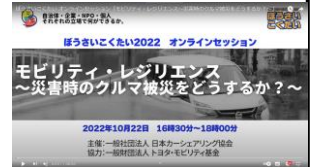
So-8
オンライン
10/22 (土) 16:30~18:00

**モビリティ・レジリエンス
～災害時のクルマ被災をどうするか？～**
主催団体：一般社団法人日本カーシェアリング協会

災害時にクルマが被災することは皆承知しているが、そのことによる被災者への影響があまり認知されておらず対策もなされていない。災害時のクルマ被災に焦点を当て、今後どのような体制や連携が必要かを探った。

■登壇者

吉澤 武彦 一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事
諸留 逸 トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 共生社会推進室
モビリティフォーオールG 主幹
宮本 明子 一般財団法人トヨタ・モビリティ基金 プログラム企画G
プログラム・マネージャー
岩永 幸三 佐賀県 県民環境部副部長
伊藤 和茂 ルート産業株式会社 代表取締役
所澤 新一郎 一般社団法人共同通信社 気象・災害取材チーム長



So-9
オンライン
10/23 (日) 10:30~12:00

防災×○○！（楽しみながら防災を学ぶ工夫や仕掛け）
主催団体：広島県

防災という分野は、近年、注目されることが増えているものの、依然、多くの一般の方にとっては興味が薄い分野で、広く普及促進していくには、様々な工夫が必要です。本セッションでは、純粋な防災指導でなく、エンタメ的要素を加えた取組（防災×○○）の紹介やゲームの実践を通じて、楽しみながら防災を学んで頂く工夫や仕掛け、より効果的な取組を議論しました。【パネリスト】広島県、広島大学 海堀特任教授、匹田准教授 他

■登壇者

海堀 正博 広島大学防災・減災研究センター長・特任教授
匹田 篤 広島大学総合科学部准教授（兼）広島大学防災・減災研究センター
沖村 俊介 広島県危機管理監みんなで減災推進課 主査
山田 更加 広島県危機管理監みんなで減災推進課 主任
西佐古 信夫 広島県自主防災アドバイザー
中嶋 りの NHK広島放送局 職員

So-10
オンライン
10/23 (日) 12:30~14:00

地球観測の最新動向と災害情報の可視化・高度化技術の紹介
主催団体：一般社団法人日本リモートセンシング学会

地域防災力向上の重要性を踏まえ、一定規模の地域に対して的確な災害情報を得るための方法や有効な活用事例についてご紹介しました。日々刻々と変化していく地域情報をリアルタイムに把握し地域防災を検討する際の材料として扱うことは困難です。そこで衛星データから罹災域とその現況を把握するところから一歩話を進め、衛星データから作成される地表面の情報を避難に応用してゆく最新技術や実務事例を紹介しました。

■登壇者

横木 裕宗 茨城大学大学院理工学研究科 教授
呉 修一 富山県立大学工学部 准教授
伊東 明彦 日本リモートセンシング学会 理事・事務局長
石内 鉄平 宮城大学事業構想学群 准教授



So-11
オンライン
10/22 (土) 12:30~14:00

「昨今の様々な状況を踏まえたこれからの事業継続」
主催団体：特定非営利活動法人事業継続推進機構

昨今の様々な状況を踏まえたこれからの事業継続をテーマに、災害、新型コロナ、サイバー攻撃、ウクライナの影響等の事例、専門家からの意見、企業の事業継続の取り組み等を紹介させて頂き、後半は、オンラインで全国の事業継続の専門家、企業の方々と交えたパネルディスカッションを実施しました。

登壇者

事業継続に取り組む企業、事業継続推進機構の役員、東北大学教授、一般財団法人危機管理教育&演習センター理事長

■登壇者

丸谷 浩明 東北大学災害科学国際研究所教授
細坪 信二 一般財団法人危機管理教育&演習センター 理事長
里見 和人 AIG損害保険株式会社 中小企業強靱化プロジェクト リーダー
山口 玉緒 株式会社エンタープライズ山要 代表取締役
BCAO役員



S-99
東館 1F こころのシアター
10/23 (日) 14:30~16:00

クロージングセッション

14:31~14:36

①クロージングセレモニー

■司会 ABCアナウンサー 横山 太一

- 神戸市歌「しあわせ運べるように」神戸市立桂木小学校



14:36~15:03

●「現地企画・情報共有会議」活動報告

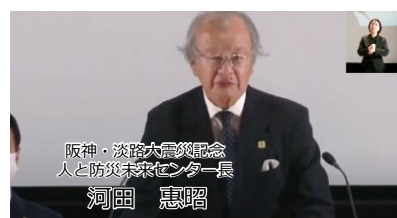
後藤 隆昭 (阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター副センター長)
阪本 真由美 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授)



15:03~16:00

②主催者等挨拶

秋本 敏文	防災推進国民会議副議長 日本消防協会会長
河田 恵昭	阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長
佐々木 修	防災推進協議会運営委員会委員長 日本損害保険協会業務企画部長
黒岩 祐治	神奈川県知事 (収録動画)
星野 剛士	内閣府副大臣



ワークショップ詳細

※出展団体に確認したものを掲載。

W-1 ガイダンスルーム2 10/22 (土) 12:30~13:30

主催：特定非営利活動法人U.grandmaJapan

こども食堂防災プロジェクト

平成30年7月豪雨で経験した支援活動や平時の子ども食堂の役割から有事の際にどんな役割ができるかまたキッチンカーを利用した居場所ので防災の取り組みを行ってきている事例。今後の南海トラフを見据えた全国の子ども食堂の連携など防災の備え、有事の際の行動、子ども食堂だから出来ることなどを事例紹介しました。



W-2 ガイダンスルーム2 10/22 (土) 14:00~15:00

主催：兵庫県立舞子高等学校

「ぼうさいこくたい2022防災宣言」を作ろう！

兵庫県中高生防災ジュニアリーダーが、阪神・淡路大震災から25年の年に提唱した『ジュニアリーダー防災宣言』をもとに、震災30年を目前とした今、震災を経験していない若者世代が、その教訓を次世代へと引き継ぎ続けることについて考えました。防災学習や地域活動に対する新たな具体策を提案し、「ぼうさいこくたい2022防災宣言」を参加者とともに作成しました。



W-3 ガイダンスルーム2 10/22 (土) 15:30~16:30

主催：人と防災未来センター研究部

「ことばぼこぼこフィールドひとぼう」研究班

「さわる、そっからかんがえる」

：災厄のミュージアムにおける震災遺物を用いた対話型ワークショップ

阪神・淡路大震災時に避難所で用いられていた震災遺物をWS会場に設置し、参加者に自由に触れていただきました。その感想の言語化と参加者同士の共有・議論を通じて、過去と将来の災害への想像力を養っていただけます。WSの進行は人と防災未来センターの研究員が行いました。震災遺物の使用については関係者から許諾を得ています。また、北淡震災記念公園・野島断層保存館より、硬化処理を施した「さわれる断層」をお借りし、会場に設置しました。



W-4 ガイダンスルーム2 10/22 (土) 17:00~18:00

主催：写真洗浄ボランティア 西日本あらいぐま連合

写真洗浄体験

こちらのワークショップでは自然災害で被災された方の大切な思い出を守る活動「写真洗浄」の「仕上げ作業」を体験していただきました。今回洗浄していただいた写真は熊本県（あらいぐま夫人吉）よりお預かりしました。たくさんの方にお越しいただき満員御礼で終了いたしました。ありがとうございました。



W-5 ガイダンスルーム2 10/23 (日) 10:30~11:30

主催：株式会社 サンテレビジョン

朝日放送グループホールディングス株式会社

「阪神淡路大震災ヴァーチャルツアー

～震災取材カメラマンと震災の時0歳だった記者が考える未来の防災～

ホームページ「阪神淡路大震災取材映像アーカイブ」の地図上のポイントを会場のナビゲーターが紹介。地震直後の映像を視聴し、またはグーグルストリートビューで現在の街の姿と比較するなどして当時の状況を解説するZoomを利用したウェビナー形式のワークショップ。
<https://www.youtube.com/watch?v=iFlyAMswJhw> (前回2021年2月20日開催)



人と防災未来センター 西館1F

W-6 ガイダンスルーム2 10/23 (日) 12:00~13:00

主催：一般社団法人おいしい防災塾

怖くない防災を子供達に伝えたい。

お菓子を使った防災講座おいしい防災塾

防災講話と防災お菓子ポシェットを作り。対象：親子15組(子供15人限定)

時間：60分間 参加費：無料 講座資料の安心えほん、作成した防災お菓子ポシェットはお持ち帰り頂きました。

当日受付11:30~ 先着15組(人)講座12:00スタート50分間小学生は保護者同伴、中学生以上は1人で参加可



W-7 ガイダンスルーム2 10/23 (日) 13:30~14:30

主催：特定非営利活動法人 地図で防災・まちづくりサポート

地域に根ざしたハザードマップの作成と 様々な地図の見方の紹介

愛知県で行われている「みずから守るプログラム」で実施した町内・学区レベルの手作りハザードマップの紹介を行いました。住民と一緒に町内を周り、危険箇所や避難経路を確認して地図上にプロットし、写真なども含め編集してハザードマップとして完成させる工程を説明しました。また古地図も含めた様々な種類の地図の見方を紹介し、自分の住んでいる地域の災害リスクを参加者と一緒に確認していくプログラムを実施しました。



JICA関西 3F

W-8 セミナー室33・34 10/22 (土) 12:30~13:30

主催：母と子の育児支援ネットワーク

災害時における授乳アセスメント(聞き取り)を体験しよう

内閣府男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点~男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン~」(2020年)の中の「授乳アセスメントシート」を参加者がグループワークで体験的に使いました。避難所等で授乳中の母子に接する可能性のある人がこのシートを使うことで、母乳を飲ませている女性が安心して継続でき、乳児用ミルクが必要な人には安全に使うための支援ができるようになることを目指しました。



W-9 セミナー室33・34 10/22 (土) 14:00~15:00

主催：神戸市消防局

災害教訓伝承と災害対応マニュアルの

新形態 防災ゲーム「ダイレクトロード」による机上災害対応訓練

どなたでも自由に活用いただけるコンテンツとして神戸市HPに無償公開している災害協力シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」を実施しました。



W-10 セミナー室33・34 10/22 (土) 15:30~16:30

主催：一般財団法人アジア防災センター

在日外国人が見た日本と外国の防災の違い

~違いを知ることから始める防災協力~

事前に外国人留学生や労働者など母国を離れて日本で生活している人たちが感じる日本の防災の現状や自国の防災に対する取り組みとの違いをオンラインアンケートで集計し、結果を見ながら防災まちづくり、ハザードマップ、防災訓練、災害情報、避難所生活等各段階における相違点を明らかにします。そして、今後行政や地域コミュニティに提案したい外国人防災活動について意見交換しました。



W-11 セミナー室33・34 10/22 (土) 17:00~18:00

主催：IT防災スタートアップ協議会

Bloom Works×神戸学院大学学生有志の皆さん

×神戸女子大学学生有志の皆さん「ぼうさいミライ☆すごろく」

防災に活用できる未来のIT技術を、スタートアップ企業各社に協力を呼びかけてゲーム化。子どもや一般の方も楽しめる・参加したくなるワークショップを目指しました。被災地で考案された防災すごろくをベースに「災害シナリオ」を作成し、災害発生時に活用可能なIT技術をデモンストレーションしました。防災音楽ユニット「Bloom Works」と、大学生防災啓発団体「神戸学院大学大学生有志の皆さん」がナビゲートしました。



W-12 セミナー室33・34 10/23 (日) 10:30~11:30

主催：食べる支援プロジェクト(たべぶろ)

公益財団法人 味の素ファンデーション (TAF)

生活協同組合コープこうべ

「いざという時どうする？あなたの食と栄養」

～自助・共助・公助 それぞれについて考えよう～

【1.総論・問題提起】食べる支援プロジェクト(たべぶろ)より

- ①データや写真による「災害時の食と栄養」の実態の説明
- ②何故、災害時の食と栄養の問題は長年後回しにされてきたのか？の問題構造の解説
- ③2021年に発刊した、災害支援NPOのノウハウと栄養士の専門知識をまとめて体系化した「発災時の災害時の食と栄養 支援の手引き」の紹介
- ④食べる支援プロジェクト(たべぶろ)の紹介
- ⑤今回のプログラムのご紹介(含むパネル展示)

【2.共助・公助・連携】公益財団法人 味の素ファンデーション (TAF) より

行政、企業、NPOとの連携で、被災経験があるアクターが自分達の経験を活かした食と栄養の仕組みづくりに挑戦する以下2事例を紹介

- ①アナログ 主体者 NPO ～ 佐賀県武雄市における、要配慮者への手作りの防災支援
- ②デジタル 主体者 行政・企業 ～ 宮城県仙台市における、仙台BOSAI-TECHで産まれた 自治体-企業・団体間における支援物資要請環境改善に向けたソリューション開発

【3.自助】生活協同組合コープこうべ より

災害時の食の問題とローリングストックを学ぶ『BOSAIキッチン』

- ①コロナ禍における防災知識を学ぶ
- ②食糧備蓄率の向上(備蓄に対する視点の転換・普段のストックを災害時に活用する想像力の育成)
- ③災害時の食の問題(栄養・アレルギー)

の解決を目的としたプログラム。

「お家にあるもので」「栄養があり」「いつもおいしい」BOSAIメニューを発信



W-13 セミナー室33・34 10/23 (日) 12:00~13:00

主催：公益社団法人日本地震学会 (共催：一般社団法人日本活断層学会)

**兵庫県南部地震とはどういう地震？、関西の内陸地震についてはどこまで分かった？、
いまでも何が分からないのか？ 皆さんの疑問に徹底的に答えます**

1995年の兵庫県南部地震の正体は、どこまで解明されているのか。南海トラフ地震の前に内陸地震が起きるとされているが、現状はどう考えられているのか。大阪北部の地震や京都府南部の地震活動など、活断層に囲まれた近畿地方の内陸地震の正体は、何が分かっていないのか。学会の研究者が疑問に徹底的に答えました。参加者には、事前にプレゼン動画を見ていただき、事前質問を受け付け、当日は回答する形式で行いました。



W-14 セミナー室33・34 10/23 (日) 13:30~14:30

主催：一般社団法人 日本気象予報士会 関西支部

お天気キャスターに挑戦 ～台風接近！迫りくる危険を伝えよう～

【親子対象(小学3~6年生)】大きな被害をもたらす台風。その災害について学び、人に「伝える」体験を通して、防災への理解を深める。簡単な実験も行いました。

- ①台風ってどんなもの？ ②台風の災害 ③どこがあぶないの？ ④台風情報を伝える原稿を作ろう ⑤お天気キャスターになって台風の危険を伝えよう！



JICA関西 4F

W-15 セミナー室41 10/22 (土) 12:30~13:30

主催：一般社団法人危機管理教育研究所

「話題のFMB（ファーストミッションボックス）を体験してみよう」



このファーストミッションボックス（FMB）ワークショップではFMBを使用した疑似訓練を行いました。実物を触り体験することでFMBの効果を直に感じていただきました。その場でFMB考案者の講師二人にも相談頂きました。

W-16 セミナー室41 10/22 (土) 14:00~15:00

主催：特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター

**みんながつくりたくなる「災害時個別支援計画」のレシピ
～協働×包摂型の取り組み例を通じて～**



事業パートナーである公益財団法人北海道精神保健推進協会 B型事業所 こころカ・プロダクションの橋本所長・丸子支援員とともに登壇し、26名（防災団体・企業・大学・行政等）のご参加を得ることができました。話題提供の後の質疑応答では、各位の実践に裏打ちされた問題意識の高さと、それゆえの悩み深さが伺えました。全国各地で思いを同じくする皆さんと共に、できることを着実に形にしていければと改めて思いました。

W-17 セミナー室41 10/22 (土) 15:30~16:30

主催：株式会社明石スクールユニフォームカンパニー

災害発生、さあどうする！？～時系列で考える災害対応～



【内容】 5人程度のグループに分かれ、災害発生の条件を設定し、どのような災害対応ができるかを時系列で考えます。一人ひとりが日頃から災害に備え、学校で安全な環境を整えられるように、災害時に起こりうること、それに対してどのような備えができるかについて話し合いを行なった。【講師】 諏訪 清二 先生（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科・客員教授）【対象】 一般の方や学生

W-18 セミナー室41 10/22 (土) 17:00~18:00

主催：名古屋大学 減災連携研究センター

**げんさいカフェinぼうさいこくたい
「みんながやる気になるための減災コミュニケーション」**

世界でただ一つ、防災・減災だけをテーマに専門家と市民とが対話を通して情報共有するサイエンス・カフェ。名古屋大学減災館では、すでに10年以上、130回の開催経験があります。ゲストと参加者との距離が近く、同じ高さでのコミュニケーションが可能なイベントです。今回は減災コミュニケーション研究の最前線がテーマ。会場に来ていただいた会場に来ていただいた 34名+オンラインの参加者約100名の方は、どんだん質問してゲストとの対話を楽しみました。



W-19 セミナー室41 10/23 (日) 10:30~11:30

主催：東北大学災害科学国際研究所

**地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門
みんなで考えよう！Pon♪Pon♪ 防災・減災スタンプラリー**

防災・減災スタンプラリーは、子供から大人まで楽しく学べる「生きた防災教育」です。津波が来た時に危ない場所はどこな所？いま、大津波が来たたらどれくらい被害が出るの？といった疑問に、直感的に理解できる答えを世界最先端の研究現場からお届けしました。教育現場や自治体で防災に携わる方から家族の安全を願う皆様まで、幅広い方々に御参加頂き、一緒に防災・減災について考える場となることを目的としています。



JICA関西 4F

W-20 セミナー室41 10/23 (日) 12:00~13:00

主催：災害関連死ゼロサミット

第6回災害関連死ゼロサミット みんなの力で災害関連死をゼロに



- 共創の仕組みをみんなで考える会にしました。
- 分科会に分かれて行動アイデア会議。「避難所」「福祉避難所」「おうち避難」
- 登壇者：有識者、NPO団体、防災士会

W-21 セミナー室41 10/23 (日) 13:30~14:30

主催：海ぼうずの会（「ふじのくにDIGセミナー」参加者の会）

これが最新！ 災害図上訓練DIG



避難経路確認と思われがちなDIGですが、実は避難論議の先に、本当のDIG・本当の地域防災論議があります。このワークショップでは、南海トラフ地震対策を念頭に置いた地震防災・津波防災DIGのポイントを、DIG考案者の小村隆史(常葉大学)本人が直接伝えました。「残された時間」を意識しつつ「避難しなくて済む防災まちづくり」を目指し、どう実現するか。DIG経験者だけでなく多くの方の参加して頂きました。

IHDセンタービル 2F

W-22 交流ギャラリー南 10/22 (土) 12:30~13:30

主催：BOUSAIゼミな～る実行委員会

（事務局：特定非営利活動法人宇和島NPOセンター）

BOUSAIゼミな～るinぼうさいこくたい2022

「大規模災害」という事象でつながった多地域の高校生が、次のXデーに向け作っておかないといけない地域社会を目指して「地域とは」「命とは」「つながりとは」について話し合った。2020年11月から継続開催してきた「BOSAIゼミな～る」を防災国体2022で開催。リアル会場とオンライン会場とで、高校生と大人たちが「避難所運営」「事前復興」「避難訓練」等を語り合い、防災と地域社会について考えた。



W-23 交流ギャラリー南 10/22 (土) 14:00~15:00

主催：国総研（国土交通省 国土技術政策総合研究所）

しぞ～か防災かるた委員会

アールシーソリューション株式会社

大人から子どもまで、防災を「カード」で学び、「カード」でつながろう

「カード」で防災を学び、「カード」でつながる防災に取り組みます。【カード】を通じて、大人から子どもまでみんなで防災を考えましょう。本ワークショップは、「カード」を通じて防災に取り組んでいる3者の共同出展で、60分でよりたくさんの「防災」に触れられる、1粒で3度おいしいワークショップです。

防災カードゲーム「このつぎなにおきるかな？」

「このつぎなにおきるかな？」は、地震や津波、水害、土砂災害が発生したときに起こる危険な状況をストーリー仕立てで表現した防災カードゲームで、国土交通省が製作しました。ワークショップでは、「このつぎなにおきるかな？」の体験を通じてゲームの分かりやすさやその効果を認識していただき、防災教育現場における活用方法を皆さんと考えました。

しぞ～か防災かるた

「しぞ～か防災かるた」は、静岡市を中心とする静岡県の文化、歴史、風土の特徴と防災心得を楽しく学ぶ、かるたです。ワークショップでは、作成経緯と活動内容を紹介し、実際に体験してもらって「しぞ～か防災かるた」のノウハウを伝授しました。また、「地域の良さ」と「その地域の防災の心得」を一緒に学べる新しいタイプの「防災かるた」を全国的に展開し、「防災かるた」の交流会が開催できました。

サバイバルカード

「サバイバルカード」は、「ゆれくる遊撃隊のレッツ防災術（JAの子ども雑誌「ちゃぐりん」で連載中）」のキャラクターを活かした防災カードで、携帯して外出中の災害遭遇時に子どもと家族をつなげます。ワークショップでは、サバイバルカードに名前や住所、避難場所等の情報を記入してもらい、その場で顔写真を撮り、カードに貼り付けてお渡しました。お孫さんと一緒に年配の方も考慮した、目に優しいデザインとなっています。



W-24 交流ギャラリー南 10/22 (土) 15:30~16:30

主催：大阪防災プロジェクト

TEAM-3A

いつでも・どこでも・だれでも楽しく防災！

●大阪防災プロジェクト

- ①防災教育ツールの展示：防災ゲーム等、弊団体独自の教育ツールを展示し、来場者に体験してもらいました。
- ②活動紹介：チラシや動画を使用し、弊団体が取り組む活動を紹介しました。

以上により来場者の防災意識を高めました。

●TEAM-3A

- ①高校生が作成した2種類のボードゲーム「にげろ！あにまるず」（避難編）と「かいけつ！あにまるず」（避難生活編）の体験会。
- ②オリジナル防災教材「いろいろぼうさい教室」と「カードゲーム版HUG」の展示。



W-25 交流ギャラリー南 10/22 (土) 17:00~18:00

主催：117KOBEぼうさい委員会

身近にあるもので手軽に防災グッズを作ろう

主に小中学生向けに新聞紙を使ったスリッパ作りやビニール袋を使ったレインコート作り、防災クイズ、AEDを使用した救急救命処置のデモンストレーションなどのワークショップで気軽に参加できるプログラムを用意して防災の意識を高めるものとなりました。



W-26 交流ギャラリー南 10/23 (日) 10:30~11:30

主催：日本赤十字社

自宅の危険箇所はどこだろう？～家庭内DIGを使って確認しよう～

皆さんは、地震が起きたときの自宅の安全対策はお済みですか？日本赤十字社では、「ぼうさいこくたい2022特別プログラム」として、けがを防止し安全な避難に繋げるため、部屋の安全対策を考えるワークショップを開催しました。

* スマートフォンでの参加は、お手元に紙と鉛筆をご用意ください。



W-27 交流ギャラリー南 10/23 (日) 12:00~13:00

主催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

身近なもので楽しく防災ワークショップ

ボーイスカウトは、イオンモールとの共催により全国60会場以上で「防災啓発イベント」を展開しています。今回のワークショップでは、防災キャラバンでも行っている、ビニール袋や新聞紙など身近にあるものを使った防災ワークショップを展開することで、参加する子どもたちやその家族が楽しく防災を身近に感じてもらうことを目指しました。ワークショップの運営は、神戸市内にいるボーイスカウトの青少年が行いました。



IHDセンタービル 2F

W-28 交流ギャラリー南 10/23 (日) 13:30~14:30

主催：神戸学院大学

国土防災技術株式会社

**オリジナルカード教材で考えよう！災害時の「ひなん」と「食の備え」
～避難行動訓練EVAG、BOSAIカードX（クロス）を使って～**



●**神戸学院大学**

神戸学院大学では、現代社会学部 社会防災学科において、教員や学生が多くの防災教育教材を開発してきました。今回は、総合大学の強みを活かし文理融合で作成した防災教材「BOSAIカードX（クロス）」を用いて、家庭・地域・学校など様々な場面で活用いただける“災害時の食を考える”教材の活用法レクチャー＆体験会を開催しました。

●**国土防災技術株式会社**

地域にいる様々な人物になりきって、豪雨災害時の避難行動を疑似体験するEVAGミニワークショップを行いました。避難時のお困りごとからご近所さんの助け合いなど、共助の気づきを参加のみなさまと楽しく共有しました。現行の「避難情報に関するガイドライン」に沿った避難のあり方に対応した、改訂版EVAGで考えていただきました。

オンライン

Wo-1 オンライン 10/22 (土) 14:00~15:00

主催：災害時に子どもを守る最低基準（CPMS）推進ネットワーク

**これだけは知っておきたい 災害時の子どもの支援「28の基準」
（人道行動における子ども権利の保護の最低基準）**



災害などの緊急支援の現場で、子どもたちが危険にさらされることなく安心・安全に過ごせるために、支援者はどのような点に気を付ける必要があるのでしょうか。2021年に発行された「人道行動における子どもの保護の最低基準（第2版）」をもとに、子どもを適切に守るために支援関係者が知っておくべき28の基準をレクチャーとグループワークを通して学びました。

Wo-2 オンライン 10/22 (土) 15:30~16:30

主催：消防団を盛り上げようゼミ【オンライン市役所】

**消防団を盛り上げようゼミ【オンライン市役所】
消防団活動の素朴なギモンと、機械点検ってなーに？**

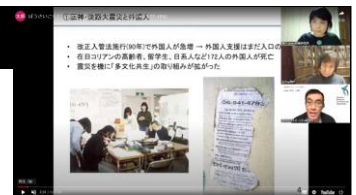


消防団を盛り上げよう課【オンライン市役所】の活動内容をポジティブメッセージとして紹介する事で、消防団員確保の問題に向き合う機会を作り一般来場者に対しては、消防団に興味を持つきっかけを作り、併せてゲーム推進課【オンライン市役所】との共同出展の趣旨としては、防災担当事務の傍ら避難所カードゲームを発案、汎用的に使えるよう教材化する意向であったため、今回のぼうさいこくたいをお披露目の機会としました。

Wo-3 オンライン 10/22 (土) 17:00~18:00

**主催：阪神・淡路大震災からのダイバーシティの歩みを
検証する実行委員会**

**防災にダイバーシティの視点を入れ込む
～阪神・淡路大震災以降の女性や外国人らの参加促進の取組から～**



自治体や地域の防災計画や実践の場に、ダイバーシティの視点を入れ込むワークショップです。前半は女性や外国人、マイノリティへの支援活動が、阪神・淡路からどのように進んできたか、実践者の報告を基に考えました。後半は、浸透・定着に向けた課題を抽出し、啓発教材等の手法を吟味する中で、同志のつながりを促しました。

プレゼンブース詳細

※出展団体に確認したものを掲載。

P-1

主催：一般社団法人 日本建設業連合会

建設会社の防災活動

・当会の紹介 ・大規模災害等への対応 ・冊子・パンフレット等の配布 ・震災時初動対応ハンドブック・建設業ハンドブック 2021 ・Ace (当会広報誌) ・建設関連の防災に関する冊子 等



P-2

主催：一般社団法人全国建設業協会

つくる！なおす！まもる！地域建設業の取り組み

一般社団法人全国建設業協会は建設事業者が47都道府県ごとに組織する建設業協会が結集して構成している全国的組織です。平成27年10月1日付で災害対策基本法に基づく『指定公共機関』に指定されております。指定公共機関としては、全国的に構築されたネットワークを活用することにより、各関係機関（国、地方公共団体、各都道府県建設業協会など）との連絡調整に特化して活動しております。昨年の熱海での土砂災害や福島県沖の地震など近年も多発する自然災害において、会員である各都道府県建設業協会と連携を図り、被災地域の会員企業の活動状況を把握し、関係各所に情報提供を行いました。昨年の「防災推進国民大会2021」ではオンライン出展し、災害時における地域建設業の活動についての写真等を掲載し、PR活動を行いました。



P-3

主催：一般社団法人 日本照明工業会

みんなで考えましょう！「あかり」による防災とりくみ

活動として災害や非常時に対応する誘導灯や非常用照明器具の評定業務や、独自に住宅や屋外の非常用照明器具自主評定を行っています。前々回、前回に引き続き今回も、この自主評定業務の一環として、街や地域の災害に対応した非常用照明器具の役割を紹介しました。弊会会員企業が開発し製品化し認証された照明器具製品の展示、地域や街の災害に対応した「あかり」を紹介したパンフレットを配布しました。



P-4

主催：一般社団法人 ドローン減災士協会

ドローン減災士が切り拓く地域防災の未来

ドローン減災士が切り拓く地域防災の未来と題したブースを設置し、ドローンを活用して地域防災に取り組むドローン減災士の具体的な活動やドローンが実施できる具体的な災害対応についてパンフレットや映像を用いて、近未来の地域防災のあり方を提案しました。なお防災用ドローン実機を展示しました。



P-5

主催：日本労働組合総連合会（連合）

連合災害ボランティアの軌跡～労働組合としてできること～

連合が災害発生後に取り組んできた災害ボランティアの展示や、防災・減災に向けた取り組みを紹介しました。
 ○過去の災害ボランティアの様子（東日本大震災・熊本地震・近年の豪雨災害など）写真パネルの展示、DVD上映など
 ○減災に向けた取り組み 防災・減災に関する政策制度実現に向けた取り組みに関する資料配布
 ○震災を風化させない取り組みとして実施している「防災セミナー」に関連する資料配布



P-6

主催：株式会社ゼンリン

まちを知ることからはじめよう～地図×防災～

災害に対して、事前に発生を想定した意識を持つこと・準備をすることが大切だと考えています。地域の防災意識の向上のため、自治体や自治会様と一緒に取り組んできた事例をもとに防災活動に役立つ情報を発信しました。また、身を守るためにはまずは安全な場所に避難することが大切です。地域の活動・防災教育・ご家庭での避難準備に取り組んでいただけるような地図を使った活動を紹介しました。



P-7

主催：防災 THE PRESS

防災 THE PRESS ～インフルエンサーが発信する防災情報～

防災THE PRESSの活動の周知をリーフレットやチラシを配布して行うと同時に取り組みに共感して頂いている連携先との繋がりの強化や今後の取材先などを探す交流の場にしました。また、ぼうさいこくたいの様子をリアルタイムで公式アカウントでの発信や大学生インフルエンサーを活用して取材し、イベントの様子を発信、後日公式キュレーションサイトにて記事の発信をしました。



P-8

主催：西日本出版社

WEBサイトと紙の本を連動させて、映像に含まれる災害教訓を後世に伝える取り組み

2000の取材映像で震災を伝えるWEBサイト「激震の記録1995 阪神淡路大震災アーカイブ」と、書籍『スマホで見る阪神淡路大震災』のQRコード読み取りの、両方を体験できるブース。実物の書籍はA5判だが、それをA3サイズに拡大し、ラミネート加工した抜粋版を複数展示。パラパラめくりながら、思い思いのQRコードを読み取り、スマホから27年前の震災を体感しました。



P-9

主催：地震調査研究推進本部／文部科学省

地震調査研究推進本部の取組について

地震調査研究推進本部の取組や公開している成果などを、ポスターなどで分かりやすく紹介しました。



P-10

主催：内閣官房国土強靱化推進室

国土強靱化の取組について

我が国は、これまで様々な大規模自然災害を経験し、その度に甚大な被害を受け、長期間にわたり復旧・復興を図る事後対策を余儀なくされてきました。国土強靱化は、災害に対する事前の備えとして、予断を持たずに最悪の事態を念頭に置き、人命を最大限に守り、また経済社会が致命的な被害を受けず、被害を最小化して迅速に回復する、強さとしなやかさを備えた安全・安心な国土・地域・経済社会を構築することを目指しました。



人と防災未来センター 西館1F (ロビー)

P-11

主催：神戸地方気象台

キキクル（大雨警報・洪水警報の危険度分布）
 ～身に迫る危険を一目で確認～

大雨や台風などの災害から自分自身や大切な人を守るためには、防災情報を得ることがとても重要です。土砂災害などの危険度（分布図）をスマートフォンやパソコンでリアルタイムに知ることができる「キキクル」を紹介すると共に、「キキクル」の利用方法や操作方法などを分かりやすく説明しました。



P-12

主催：神戸市港湾局

神戸港の震災復旧からこれまで
 ～新たな技術・知見を取り入れたこれからの防災

●阪神淡路大震災からの復興 ●新たな技術・知見を取り入れた防災の取組み・防潮鉄扉の遠隔操作・監視⇒人口減少・高齢化社会へ対応した防災活動省力化・ドローン（無人航空機・無人潜水機）を活用した防災体制の構築、港湾施設・海岸保全施設の維持管理効率化への活用・防潮堤等のねばり強い構造への補強、平成30年台風を受けた再度災害防止事業⇒新たな知見に基づく津波・高潮対策



P-13

主催：特定非営利活動法人兵庫県防災士会
兵庫県防災士ネットワーク

広げよう！防災士ネットワーク！
 ～防災士の活動紹介と地域防災情報の発信～

特定非営利活動法人兵庫県防災士会&兵庫県防災士ネットワーク
 特定非営利活動法人兵庫県防災士会および兵庫県防災士ネットワークが取り組む
 兵庫県防災士の活動紹介と兵庫県CGハザードマップの使い方や防災に役立つアプリの紹介など、
 地域や家庭で役立つ防災情報を発信しました。



P-14

主催：広島市防災士ネットワーク

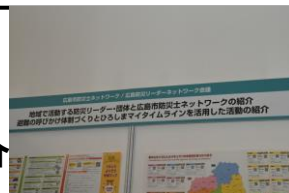
地域で活動する防災リーダー・団体と広島市防災士ネットワークの紹介

●広島市防災士ネットワーク
 広島市内の各地で活動する防災リーダーで結成されており、それぞれが地域で行っている活動や、当会も協力している広島市が作成支援を行っている「わがまち防災マップ」の紹介、防災関係団体との協力などの紹介。

主催：広島防災リーダーネットワーク会議

避難の呼びかけ体制づくりとひろしまマイタイムラインを活用した活動の紹介

●一般社団法人ひろしま防災減災支援協会
 当会が本年度より認定を行っている「キッズ防災士」の認定や活動の紹介を行った。



人と防災未来センター 西館1F (ロビー)

P-15

主催：兵庫県

ひょうごの防災

震災を風化させない―「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」をコンセプトに、阪神・淡路大震災の経験と教訓の継承及び県民の防災意識の向上の推進のために取り組んでいる本県の施策や、自然災害による被災者の生活・住宅再建を支援するための兵庫県住宅再建共済制度等の内容を紹介したパンフレットやチラシ、啓発物品の配布を行いました。



P-16

主催：関西広域連合 広域防災局

関西の広域防災・減災の取組

広域ブロック（関東九都府市・中国・四国など）や民間事業者との連携、過去の災害（東日本大震災や熊本地震、大阪北部地震など）や新型コロナウイルス感染症への対応、実施している事業（関西広域応援訓練やライフライン事業者との災害復旧訓練、帰宅困難者発生時の対応など）の紹介を、パネル展示や来場者への口頭説明で行いました。また、取組内容を紹介したパンフレットやチラシ、啓発物品の配布を行いました。



P-17

主催：岩手県

(1) 東日本大震災津波からの復興の歩みと

全国からいただいた復興支援への感謝発信

(2) アバターロボット・360°カメラを活用した東日本大震災津波伝承館の遠隔見学体験

(1) 復興の歩みについてパネル展示や動画により紹介するほか、復興支援に対する感謝を発信するバナーボードの掲出や、東日本大震災津波伝承館 いわてTUNAMIメモリアルの紹介も含めながら、震災の記憶と教訓の伝承を行いました。(2) 伝承館に遠隔見学可能な360°カメラ及びカメラ移動用ロボットを配置し、ブース来場者にその場にいるような臨場感で伝承館の見学等をしていただきました。



P-18

主催：公益社団法人 日本技術士会 近畿本部

防災模型と防災クイズによる防災学習

1. 地盤の液状化や斜面崩壊などの防災学習用の実験模型による自然災害の説明、防災学習のプレゼンテーション
2. 子ども向け防災クイズの実施
3. 過去の大規模自然災害発生時の日本技術士会の被災者支援活動の紹介
4. 日本技術士会作成の防災カードの配布



P-19

主催：一般社団法人 兵庫県薬剤師会

災害時における薬剤師の活動

これまでの災害時における被災地での活動の記録をお示ししました。薬剤師が被災地でどのような活動を行ってきたのか、何ができるのかを知っていただくことで、万が一、自身が被災者となったときに何が必要なのか、どういった準備が役に立つのかも知っていただくことができると考えております。災害弱者とならないためのちょっとした情報提供を行った。



P-20

主催：公益社団法人兵庫県看護協会

**災害支援ナースの紹介と看護職から見た
住民向けの災害時に慌てない日頃の備えについて**

災害時に備えておきたい個人避難用物品（お薬手帳・常備薬・個人救急品）、自宅で避難生活をする際の看護の工夫等、応急処置に活用できる工夫 災害支援ナースの活動写真の掲示 ※兵庫県看護協会としては、プロジェクトNo4 医療関係機関連携 に賛同し、屋外展示しました。



P-21

主催：日本木造住宅耐震補強事業者協同組合

住まいを耐震化で安全・安心に～在宅避難のススメ～

木造住宅の耐震診断について、診断の流れ・調査のポイント・診断結果の見方などを解説。耐震補強については、具体的な補強の方法や考え方、費用などを事例をもとに紹介。過去の耐震診断結果を取りまとめたデータ集やアンケート結果などもご覧いただきました。また、1981年～2000年の間に建築された81-00木造住宅の耐震化の必要性もご案内しました。



P-22

主催：こくみん共済 coop

**たすけあいを未来につなぐ
～自然災害と向き合ってきた「こくみん共済coop」の取り組み～**

阪神・淡路大震災のパネル展示と地盤診断サービス、自然災害に対する活動の紹介



P-23

主催：なぎさ防災福祉コミュニティ

なぎさ地区におけるまちづくりと防災活動の振り返り

なぎさ地区の誕生（阪神淡路大震災の復興住宅として）より現在までの町づくり、防災活動の歴史を写真パネルを製作し展示しました。

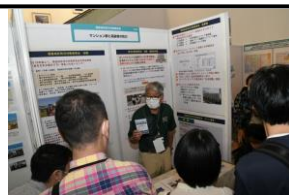


P-24

主催：港島地区防災対策委員会

マンション群と高齢者の防災

団地型マンションしかないポートアイランドでの、特異な防災の体制作りから、日常の活動と防災訓練の仕組み作り。同様の町が基本の多摩ニュータウン・千里ニュータウン・泉北ニュータウンそして東京の湾岸エリアに広がるマンション群の方々と防災についてのやり取りをネット経由で出来る場の提供を行いました。



P-25

主催：SIP国家レジリエンス（防災・減災）の強化

通信途絶下での速やかな住民避難状況・被災状況の把握技術



発災前から発災後災害のあらゆるフェーズでの研究開発全体の取組を紹介すると共に、住民向け「通信途絶時安否確認」体験及び避難所管理者/災害対応者向け「通信途絶時避難・被災情報収集」のデモ実機展示を行いました。来場者の方々には、国や自治体の災害対応に対し、情報データの流れを紹介しました。

P-26

主催：国立研究開発法人情報通信研究機構

迅速な災害対応を支える、巡回型情報伝達・共有技術



大規模災害時や障害時に、広域で公衆通信網に輻湊や途絶が発生した際に有効な「通信途絶領域解消技術」として、サーバ機能を有する複数の装置同士が接近時通信により情報同期を行い、装置が移動することで情報を伝達・共有する新たなシステムを紹介しました。

P-27

主催：国立研究開発法人防災科学技術研究所

守るために壊す - E-ディフェンスがリアルに見せる建物の破壊プロセス・E-ディフェンスが守る『モノ』（建物）と『ヒト』の行動空間（都市と室内空間） -



世界最大規模の震動台（E-ディフェンス）を活用した実験研究の紹介、小型模型による免震装置のデモンストレーション、点群カメラ映像による実験動画の紹介のほか実験で撮影された地震時の室内被害や地震時の揺れをVRシステム等を防災教育コンテンツとして体験いただき、視覚的な地震の恐怖感、普段見ることのできない試験体内部や実験棟等の施設をご覧いただきました。

P-28

主催：独立行政法人 中小企業基盤整備機構

BCPははじめの一步！ ジギョケイ（事業継続力強化計画）を作ろう！



中小機構では、中小企業経営者を対象に、身近に発生しうる大規模災害を知り、事前対策として事業継続力強化計画策定の重要性を伝える機会として、令和2年度より計5回のシンポジウムを開催。過去のイベントでは著名経営者による基調講演や事業継続力強化計画を策定した事業者によるパネルディスカッションを実施。イベント視聴者には、事前対策の重要性を認識していただき、事業継続力強化計画を策定して頂きました。

P-29

主催：独立行政法人都市再生機構

**頻発する自然災害に備えて
～東日本大震災からの復興支援や災害対応支援の取組みの紹介～**



UR都市機構は、阪神淡路大震災や東日本大震災等で復旧・復興支援を全力で推進してきました。過去の災害時における支援事例に加え、平時に行っている都市再生事業等について映像やパネル展示等を通じて幅広く紹介しました。

JICA関西 2F (体育館)

P-30

主催：防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト

防災対策に資する南海トラフ地震調査研究プロジェクト

プロジェクトの成果等をポスターや動画で紹介します。動画はHPでも公開します。プロジェクトでは史料調査や地震津波履歴調査も行っており、それらを出展の柱として“災害の経験と教訓”を理工学的に紹介します。企業、自治体、一般の皆様へ災害情報の活かし方や自ら判断することの重要性を理解していただき、災害への備えをあらたに考えていただくきっかけを提供しました。



P-31

主催：よんなな防災会

よんなな防災会を通じて全国の素敵な人と繋がりませんか？

【目的】・よんなな防災会をより多くの方に知っていただくことで、よんなな防災会のメンバーの一員となっていただき、防災に関する人と人との繋がりを創出することを目的としています。【対象】・行政職員、民間企業の方、学生をはじめどなたでも大歓迎【内容】・よんなな防災会の概要・活動内容と活動を通じて得られた成果を紹介しました。・時間帯をいくつか設定し、防災会によるぼうさいこくたいツアーを実施しました。



P-32

主催：よんなな防災会女子部

よんなな女子部員おすすめ！全国のステキな防災冊子を集めました♪

全国各地の女子部員推薦の男女共同参画の視点に配慮した啓発冊子等を展示し、様々な地域の取組に出会う機会を作る。会場では、展示冊子の作成団体から直接説明してもらうことを通じて、顔の見える関係を構築する。さらに、誰もが見られる情報発信ツール「よんなな防災会女子部～ひまわり通信～」(Facebookで公開)に、会場展示冊子データや、その他おすすめ冊子データを掲載し、来場できない皆さんにも情報を発信しました。



P-33

主催：「震災対策技術展」事務局／エグジビションテクノロジーズ(株)

最新の地震・自然災害対策の情報を発信。

「震災対策技術展」／「防災グッズEXPO」のご紹介

「震災対策技術展」の参加案内と、会場で開催する災害対策セミナーの有効活用をご案内。技術展での最新の災害対策製品の視察をはじめ、関西大学河田恵昭先生等、防災業界のトップを走る専門家や自治体等が実践する防災の取り組みを開催地にて、無料で災害対策セミナー聴講することが可能。オンラインセミナーも実施しており、リアルとオンライン双方で、同技術展が、最新の防災・減災の「今」を伝えていることを発信しました。



P-34

主催：特定非営利活動法人全国足紋普及協会

足紋採取会

地震、津波などの災害で“無縁仏”がなくなる社会を創出することが目的ですが、広く足紋の意義や有効性について知っていただくための出展です。足紋採取を希望される方に足紋採取を体験していただけます。足紋採取機材(足裏の紋様をスキャナーするもの)で足紋を採取し、その場で足紋を印刷し「足紋証明書」を作成してご本人に無償で交付しました。



JICA関西 2F (体育館)

P-35

主催：特定非営利活動法人都市環境標識協会

全国統一型避難誘導標識の普及・啓発について

全世界の中でも多様な天災が発生する我が国において、同一地域内で駅一つ違うところでも避難場所を探すことが出来ない人々が多く、まして遠方からの来訪者や異言語国の人々は皆目路頭に迷う結果になりまして、夜間の避難では、皆目探すことは不可能となります。このことは先の東北太平洋沿岸の地震での避難行動の中で明確になりました。今回のぼうさいこくたい2022では全国統一型避難誘導標識等を展示しました。



P-36

主催：一般社団法人 日本ムービングハウス協会

ムービングハウスを活用した災害対応

屋内ブースにて、日本ムービングハウス協会の活動内容、被災地での応急仮設住宅の供給、避難所補完施設、コロナ療養施設等の導入実例について紹介を行いました。その他、移動式木造住宅「ムービングハウス」の説明、災害時に備えるための、「防災・家バンク」での備蓄についての紹介も行いました。

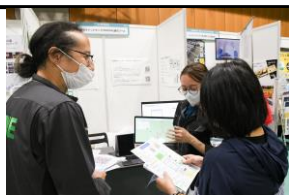


P-37

主催：AI防災協議会

防災チャットボット「SOCDA」展示ブース

先端的なデジタル防災技術の事例として防災チャットボット「SOCDA」を動態展示し、LINEを通じて市民が情報を投稿する「情報投稿機能」とその集約地図画面、「避難支援機能」をデモンストレーションしました。「SOCDA」で災害時にどのような情報収集、情報提供が可能かを示し、実際に「SOCDA」を実装したLINE公式アカウント「AI防災支援システム」と友だちになることで、今後の災害時に備えました。



P-38

主催：北淡震災記念公園

野島断層からのメッセージ

北淡震災記念公園のPRパネル展示 野島断層のパネル、語りべの紹介パネル、パソコンでの北淡震災記念公園紹介映像上映



P-39

主催：独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター

**地域とともに災害から文化財をまもる
～文化財防災センターの取り組み～**

2020年10月に国立文化財機構に設置された文化財防災センターでは、地域防災体制の構築と災害時の活動支援を中心に活動を行っている。その究極の目的は、文化財を通して、災害からの復興時に、地域社会のよりよい復興の資することである。今回は、事業の概要を通して、我々のミッションを説明するとともに、文化財の防災が地域の再生にいかに関与するのか、という、ビジョンについて伝えるものであった。



JICA関西 2F (体育館)

P-40

主催：清流の国ぎふ防災減災センター げんさい未来塾

地域防災の実戦！5つのメッセージ/げんさい楽座スピンオフIN兵庫

地域の防災活動をリードする「げんさい未来塾」の卒塾生5名からテーマ別に地域での活動紹介、清流の国ぎふ防災減災センターの紹介もしました。防災はハードルが高いものと思われがちですが、さまざまな切り口から防災につながることを実践している卒塾生から失敗も成功も聞き出してもらい、ご自身やご自身の地域に繋げていけるブースにしていきました。オンラインも活用し参加者を含め全国の皆さんにお伝えしました。



P-41

主催：YY防災ネット

地域防災・学校防災・東日本大震災

平成18年からの地域防災と学校防災の取り組みと東日本大震災中学校指定避難所責任者の経験と体験を伝えました。

P-42

主催：あいち・なごや強靱化共創センター

産官学民連携による地域減災社会の共創

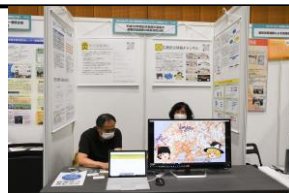
パネル展示やTVモニターによる映像を活用して、巨大地図を用いた防災ワークショップでの南海トラフ地震臨時情報に関する議論や産官連携、防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」の活動等について紹介するとともに、あいち・なごや強靱化共創センターでのさまざまな主体を対象とした講習会、防災・減災カレッジ、体系的な人材育成、産業防災研究会、及び協力団体の取り組みについて、パネル、パンフレット、配布物等で紹介した。



P-43

主催：県立広島大学 防災・減災社会システムデザイン研究センター

平成30年西日本豪雨災害後の避難意識調査の時系列的分析



P-44

主催：公立大学防災研究教育センター連携会議（兵庫県立大学）

公立大学防災研究教育センター連携会議及び加盟大学の紹介

各加盟校では、「学生が主導する避難訓練」「アウトリーチ型演習授業と地域貢献活動」「コロナ禍におけるオンライン防災まちづくり演習」「災害リスクの軽減を目的とした自主防災活動」等を行ってきた。連携事業として、「コミュニティ防災事例集の出版」「公立大学の減災復興拠点の形成」等も行った。教育・研究・社会貢献面でのユニークな取り組みについて、説明者を配置し、動画、パネル、チラシ等の媒体で広報した。

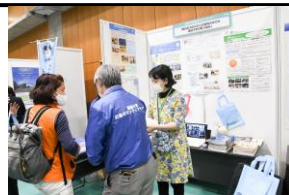


JICA関西 2F (体育館)

P-45

主催：福島大学地域未来デザインセンター

「東日本大震災からの復興の中での福島大学の取り組み」

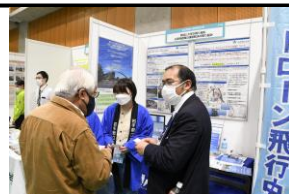


① 防災教育教材「さすけなぶる」を活用した避難所運営研修 東日本大震災での避難所運営の教訓をもとに作成した防災教育教材「さすけなぶる」による避難所運営研修及び普及啓発活動について紹介しました。② 福島大学による復興支援活動 学生団体災害ボランティアセンター及び被災地域に設置したサテライトによる復興支援活動を紹介しました。

P-46

主催：公立大学法人岩手県立大学

地域と大学が取り組む 災害時避難の課題解決の取り組み



弊学所属教員による東北地方での夜間寒冷地・津波・コロナ禍等を想定した避難訓練の運営支援活動の紹介、岩手県の各自治体との地域防災に関する協働研究プロジェクトの紹介等を行いました。また、弊学の提供する自治体・自治会・地域住民を主対象とした避難訓練、地区防災計画の策定支援の紹介等を行いました。これにより、全国の防災に取り組む住民・自治体、それを支援する他大学との情報交換・交流を図ることを目的としています。

P-47

主催：仙台市防災環境都市推進室

「防災環境都市・仙台」の実現に向けて



東日本大震災を経験した仙台市では、将来の災害や気候変動リスクなどの脅威にも備えるしなやかで強靱な「防災環境都市」を目指しています。今回の出展では、復興のあゆみのほか、防災にテクノロジーとビジネスを掛け合わせた「BOSAI-TECH」や、「仙台防災枠組」推進の振り返りなど、防災環境都市づくりについて、来場する一般の方や防災関係者の方を対象に動画の放映やパネル展示等によりご紹介しました。

P-48

主催：熊本県

熊本地震から6年、令和2年7月豪雨から2年。

創造的復興に向けて取り組んでいる熊本の経験や教訓を発信します。



熊本地震や令和2年7月豪雨の経験や教訓を広く発信し、今後起こりうる災害への備えに役立てるため、被害の実情や復旧・復興の記録をパネルや映像等を用いて来場者に説明を行ったり、熊本県の防災・減災に向けた取り組みの紹介、リーフレットの配布等を行いました。

P-49

主催：自治体研究会

つながる・人の輪・防災の輪



自治体研究会のこれまでの取組を、パネル・パンフレット・報告書・各種成果物（論文、カードゲーム等）の紹介を通じてアピールしました。「自治体職員が結束して、こんなに素敵な活動をしています」ということを皆さまにお伝えしました。アピール内容を見ていただき、幅広くいろんな立場の皆さまからご意見・ご感想・叱咤激励をいただきました。

JICA関西 2F (体育館)

P-50

主催：吹田市

民間事業者と協力した広域避難場所確保の取組

吹田市では、摂津市、ホームセンター運営会社「ピバホーム」との3者間で大規模災害時に両市の避難者をホームセンター店舗で受け入れる連携協定を結びました。吹田市と隣接する摂津市は、洪水での浸水想定区域が市域の約9割に及ぶことから、広域的な避難先を必要としており、民間事業者の協力も得て、課題解決に向けて一歩取組みを進めたものです。大会では、締結に至った経緯や実際の災害時の避難想定について発表しました。



P-51

主催：南海トラフ地震による超広域災害への備えを強かに進める10県知事会議

東日本大震災の教訓を活かし、 南海トラフ地震による超広域災害への備えを強かに進めよう

「南海トラフ地震による超広域災害への備えを強かに進める10県知事会議」の活動や、会議を構成する10県（静岡県・愛知県・三重県・和歌山県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県・大分県・宮崎県）が東日本大震災の教訓を活かして推進する南海トラフ地震対策の取組を、パネルや映像等を使用して紹介しました。



P-52

主催：浜松の企業が手をつなぐ災害支援ネットワーク はままつ na net

企業が手をつなぐことで広がる防災・災害支援を知ろう

目的：企業が「災害支援」をキーワードにつながり協働したとき、どのような成果が生まれるのかを周知することで、各地で企業同士や他のセクターとつながることを促進する。出展内容：2018年設立以降の被災地での活動や、地元浜松での防災活動の紹介。また、支援活動を通じて防災に関心をもち開発した防災用具などを紹介しました。



P-53

主催：JT × プラス・アーツ

「防災喫煙所 イツモモシモステーション」のご紹介

JTとプラス・アーツとの協働プロジェクト「防災喫煙所 イツモモシモステーション」をご紹介しました。本プロジェクトは、街かどにある喫煙所を「少しでも地域防災に役立てたい」という想いから、2021年6月に始動させたプロジェクトです。例えば喫煙所の壁を通じた防災啓発・情報発信のほか、喫煙所に備蓄倉庫やソーラーパネルを設置することで災害時に防災拠点として活用するなど、様々な事例をご紹介しました。



P-54

主催：株式会社リブライツ

若年層における地域防災力向上の取り組み

弊社は「若年層の防災」をテーマとして、2点出展します。まず1点目は、災害に強い都市の実現に向けた「公民連携型の防災プロジェクト」です。中学生の防災知識と意識を高めるための防災ガイドやマップ、アニメーション等の展示を行いました。2点目は、工作から防災の啓発をすることを目的とした「Mg電池の工作キット」の展示を行いました。子供の防災イベントの参加率を高めます。どちらの商品も防災教育にお役立ていただければ幸いです。



JICA関西 2F (体育館)

P-55

主催：NPO法人高齢者住まいの研究会
福祉施設のBCP バーチャルシミュレーションゲーム 災害想定ゲーム
【KIZUKI】・楽しんで学ぶカードゲーム【防災神経衰弱】



福祉施設のBCP策定が義務付けられましたが、なかなか策定が進んでいない現状を鑑み、福祉施設に対して、BCP策定を「ゲームを活用して学ぶ」をテーマとして開発した、災害想定ゲーム「KIZUKI」の紹介と活用事例の発表を行いました。福祉施設が防災力を高めるためには、地域や地域の防災関係者の協力と理解が重要です。このゲームは地域住民と福祉施設を結び付けるツールとして活用できることをご来場者にお伝えしました。

P-56

主催：一般社団法人 福祉防災コミュニティ協会
福祉BCPと福祉避難所



【福祉施設等の責務と災害への備えの必要性】全国各地で、様々な自然災害等が発生しています。災害時、社会福祉施設や事業者は、施設の入所者・利用者や職員の命を守ることはもちろんのこと、常日頃から行っている利用者への支援を続けるという責務を担わなければなりません。災害等に備えて、常日頃から行われている利用者への支援が途切れないよう、あらかじめ準備しておくことが重要です。

P-57

主催：NPO法人日本防災環境
「福祉防災のこれから」



高齢者や障害者を中心とする災害時要配慮者や避難行動要支援者について、その制度的、経験的歴史を概観し、福祉防災に取り組むことの重要性を訴えるブースを企画する。またそうした現状を踏まえ、当法人がこれまで介護・障害事業所を対象に取り組んできた、2024年までのBCP策定義務化を見込んだ対策支援や、自治体委託による福祉避難所運営訓練の支援、アンケート調査の結果等について、パネルや配布資料を用いて紹介しました。

P-58

主催：一般社団法人LFA Japan
LFA食物アレルギーと共に生きる会 チーム神戸
地域で考える防災～食物アレルギー～



食物アレルギーと災害をテーマに、自助・共助両方の観点から、当事者だけでなく、周囲ができる具体的な対応方法（炊き出し時の原材料表示の仕方、非常時備蓄品の紹介、被災地体験談、全国にある患者会の活動など）を展示し、内容をまとめたアレルギーっ子ママが考えた防災ハンドブック等の役立つ冊子の配布を行いました。

P-59

主催：公益社団法人 日本非常食推進機構
SDG s に寄与する防災備蓄品の有効活用



防災備蓄食品等の入替時に生じる廃棄問題と食品ロス削減、SDG s の推進を総合的に取り上げ、広域的な防災備蓄食料の活用事例をポスター、チラシ等で紹介し、防災備蓄食料の活用推進を図る。また具体的な活用事例をポスター掲示し国内ニーズも伝えました。

JICA関西 2F (体育館)

P-60

主催：教えて！「かくれ脱水」委員会

医師が解説。「災害時の熱中症・脱水症を回避するには？」

災害時の熱中症対策・脱水対策に関する医師登壇セミナー実施。登壇は委員会所属の神戸とゆかり深い富和清訓医師を想定。脱水症状の危険性、防止法（食事・水分・ミネラル補給・運動・共助・グッズ等の詳しい解説）、患者発生時の救命方法等に関する最新の知見を、医療従事者にも新しい気づきがある内容で、一般の方にもわかりやすく解説します。救命行為の実演や経口補水液についての解説、来場者への経口補水液の配布も実施しました。



P-61

主催：国際復興支援プラットフォーム（IRP）

「Build Back Better（よりよい復興）」に関する経験と教訓の発信

大規模災害からの「Build Back Better（より良い復興）」を促進するための国際的な協力の枠組として2005年5月に設立された国際的なプラットフォームです（構成機関：日本政府を含む18の政府、国連機関等）。復興支援ツールの開発、フォーラムの開催など、復興に関する知識の集積と情報発信をはじめとする取組を国際的に展開しました。



P-62

主催：一般財団法人 自治体国際化協会（クレア CLAIR）

災害時の外国人支援～多言語表示、指差しで会話ができるツール、多言語版マイ・タイムライン検討ツール、外国人支援の取組を紹介！～

多発する災害による外国人被災者を減少させるため、外国人支援に関わりうる方に災害時の外国人支援をご紹介します。①在住外国人向け防災行動計画（マイ・タイムライン）検討ツールの紹介 ②多言語表示シートの作成体験、多言語指差しボード・避難者登録カード等の配布 ③災害時多言語支援啓発動画の上映（被災時の外国人・災害時多言語支援） ④当協会の取組紹介（訓練や研修、先取組事例）など



P-63

主催：一般社団法人DRCT「災害復興協カチーム」

「災害復興協カチーム」 「生き残る為の備え」

出展目的=DRCT「ダイレクト」の防災活動報告と認知度アップ。防災活動の他団体との交流と情報交換。
出展詳細=一般社団法人DRCTのご案内書、活動報告の映像、DRCT・SP通信の紹介、(株)SPのご案内書、SP防災食の展示と映像、災害キッチンカープラモ展示と図面。



P-64

主催：全国共済農業協同組合連合会（JA共済）

ザブトン教授の防災教室

「地震ザブトン」という室内専用の地震体験装置を用いた体験型防災学習プログラム『ザブトン教授の防災教室』を実演展示し、ご来場者は地震の瞬間を体験しました。



JICA関西 2F (体育館)

P-89

主催：独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

JICAの国内外における防災・復興支援を通じた災害リスク削減の取り組み



JICAの国内外の防災・復興を通じた災害リスク削減取り組みをパネルや映像、パンフレット等を用いてブース展示を行いました。

IHDセンタービル 2F (交流ギャラリー前ロビー)

P-65

主催：公益財団法人兵庫県国際交流協会

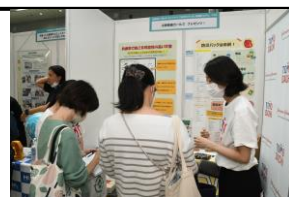
**外国人と災害時のコミュニケーション体験
～色んなツールで話してみよう！！**



災害時には、多くの外国人が言葉や文化の違いから、必要な情報を得ることが難しく、大きな不安を抱えると言われています。実際に外国人とコミュニケーション体験をして、災害時における外国人支援の困難さや必要性を実感していただいた。

P-66

**主催：公益財団法人 米日カウンスルージャパン
TOMODACHI J&J 災害看護プログラム
災害看護ガールズ プレゼンツ！**



看護学生ならではの視点で、幅広い年齢層に分かりやすく、身に着くぼうさい知識を楽しみながら学べる展示となっていますので、是非遊びに来てください！→看護学生ならではの視点で、幅広い年齢層に分かりやすく、身に着くぼうさい知識を楽しみながら学べる展示を行いました。展示ブースには沢山の方に寄って頂きました。

P-67

**主催：特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク
「防災アニメをはじめ、災救マップやたすかんねんなどITを活用した防災・減災の取り組みを紹介」**



プレゼンテーションでは、乳幼児向けの防災アニメの内容を少し紹介しながら、地震や水害、津波の時の親子の対応について説明を行いました。

また、【一般社団法人地域情報共創センター】と共同で、スマートシティ構想を視野に入れた、災害時に役立つ避難所情報を検索できる「未来共生災害救援マップ」や独立電源装置「たすかんねん」など、大阪大学をはじめ企業やNPOなどとの共同研究による地域課題の取り組みについても説明を行いました。

P-68

**主催：ひょうごボランタリープラザ (兵庫県社会福祉協議会)
「災害ボランティア活動の紹介」**



来場される方に災害ボランティアが身近に感じられるような内容（「災害ボランティアに参加するときは（イラスト）」「若者向け災害ボランティア支援事業の紹介」等）のパネル掲示と担当者からの説明を行いました。

IHDセンタービル 2F (交流ギャラリー前ロビー)

P-69

主催：いきいきネットワーク防災の会 神社で防災

古くから人びとを見守ってきた神社は洪水などの自然災害に対して安全な場所に立地していることが多い。ハザードマップに神社の場所をプロットし実際に神社をめぐることで、人びとが安全を祈願し、かつ地域のハザード情報を認識する機会を創出できます。また、子どもから高齢者まで関心をもって取り組めるよう、絵地図による「神社めぐりハザードマップ」を作成し、地域防災の拠点として神社を活用することを提案しました。



P-70

主催：明石工業高等専門学校・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 明石から発信する防災活動

D-PRO135°を中心に、明石高専および兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科が連携して取り組んできた防災活動を紹介するブースを出展しました。明石市と連携して取り組んできた防災DXの成果や、D-PRO135°が開発した防災ゲームを設置し、来場者が実際に手にとって体験できるものとなりました。



P-71

主催：神戸学院大学附属中学校 From Po-I “響け♪ エール！” プロジェクト・災害支援、熊本にエール！を

コロナ禍厳しい2020年、文化祭への取り組みもままならず苦慮する中、中学生の力で、「困難な状況に元気や笑顔を届けたい」と考え、「From Po-I “響け♪ エール！”プロジェクト」を立ち上げました。そのエールを届ける対象として、第3学年では震災に加え、豪雨被害を受けた熊本の実態を知りプレゼンテーション。また被災者に向け「しあわせ運べるように」を収録。この度は、それらの模様をご覧頂きました。



P-72

主催：神戸学院大学 防災女子 やってみたくなる防災—神戸学院大学 防災女子の活動事例紹介—

神戸学院大学 防災女子が取り組んできた活動事例の紹介や災害時の食に関するポスターの展示、ローリングストック法・ポリ袋調理を活用したレシピの配布、動画教材の投影を行いました。また、ブースにいるメンバーがそれらについて解説したり、来場者自身にアレンジレシピを考案してもらった体験も実施しました。



P-73

主催：関西国際大学防災士サークル (KUISs BOSAI) 南海トラフ時代の私たち

大学で行っている防災教育の他、学外で実施をした小学校での出前授業や地域での防災意識啓発イベントなどについて、パネルや動画を作成し、それらを使いながら説明チラシの配布と合わせて紹介をしました。



IHDセンタービル 2F (交流ギャラリー前ロビー)

P-75

主催：一般財団法人 ポケモン・ウィズ・ユー財団

未就学児向け防災教材「ポケモンぼうさいきょうしつ」



幼稚園、保育園の関係者様や地方自治体のご担当者様へ上記教材の紹介、ご案内を行いました。

P-76

主催：(一社)72時間サバイバル教育協会

子どもたちが自ら考えて行動する力を身につける体験学習



“当団体で全国展開しているサバイバルマスター®のプログラム紹介と、協力団体である教育機関や企業との連携事業の事例紹介を行いました。ポスターパネルの展示をし、パンフレットを配布し、ご来場者にご説明をしました。対象は、行政、教育機関、一般の親子、一般企業となり、目的は体験学習を通じた減災教育を全国に広げていくためです。”

P-77

主催：一般社団法人防災教育普及協会

いのちを守る防災教育の実践



●目的： 防災教育の必要性を伝えると共に、広く防災教育の普及啓発に寄与する。 ●対象：不問。教職員や学生、企業の防災・危機管理担当者、一般。 ●出展内容 (1) 事業内容A0版カラーポスターの展示 (2) 協会案内、活動紹介パンフレットの配布 (3) 各種防災ゲーム ●写真、参考資料 (webから) (1) 防災クイズ&ゲームデー、他、これまでの防災イベントのハイライト (2) 企業研修等、参考写真

P-78

主催：一般財団法人 防災教育推進協会

日本全国で、子供たちに対する防災教育プログラム(ジュニア防災検定)の実践や、高校生、大学生への防災教育。社会人への防災・危機管理研修会の開催。防災士のフォローアップ研修、少年消防クラブ・消防団研修。防災関連出版物などの企画・監修業務など。



一般財団法人防災教育推進協会の活動内容を紹介し、防災教育プログラム(ジュニア防災検定など)の活用事例や、様々な取り組みの内容を展示し、資料の配布も行いました。

P-79

主催：NPO防災自助普及委員会

防災自助は子供の頃から始まる！



子どもの頃からの防災自助が必要を主張、バーチャルアイドルそなえまいを使い、新しい啓発活動を紹介しました。そなえまいの歌・ダンスを活用し、Z世帯は実はどの世代でもある。自ら興味を持って生き残る為に備える事の大事さを発信しました。

IHDセンタービル 2F (交流ギャラリー前ロビー)

P-80

主催：防災ジオラマ推進ネットワーク

段ボールジオラマ防災授業

組立式のジオラマキットを活用したワークショップ型の防災学習プログラムのご紹介しました。自分の住んでいるエリアの地図が印刷された段ボール製のジオラマを組み立て、楽しみながらまちの地形や災害リスクが学べます。その後も地域の共有資産として活用いただけます。



P-81

主催：わのわプロジェクト

『“稲むらの火”って知ってますか？
～こんな時代だからこそ！考えよう、人といのちの大切さ～』

1854年11月5日、安政南海地震が紀州広村（現在の和歌山県広川町）を襲った。その時、押し寄せる津波から人々を救った濱口梧陵。「生ける神」とも讃えられている。彼の功績は、現代に通じる津波防災の象徴として、広く語り継がれている。『稲むらの火』を知る事で、先人が遺してくれた教訓を元に「災害について知る・考える」きっかけづくりを目指しました。

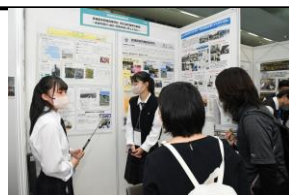


P-82

主催：宮城県多賀城高等学校

**宮城県多賀城高等学校 防災減災教育の取組
～未来の防災・減災・伝承の担い手とともに～**

○防災・減災教育のパイロット校としての取り組みを紹介しました。○3.11東日本大震災で多賀城市を襲った「都市型津波」（河川津波）についての研究成果を紹介しました。○震災後より生徒が主体となって行った津波の痕跡を示す「津波波高標示プレート」の設置活動を紹介しました。○そのプレートと史都・多賀城市の史跡を辿る「多賀城市まち歩き」ボランティアを紹介しました。○災害科学科卒業生の活躍を紹介しました。



P-83

主催：兵庫県教育委員会

震災・学校支援チーム（EARTH）の活動について

現役の学校教職員による非常災害発生時の学校支援組織である「震災・学校支援チーム（EARTH）」について、パネルと動画を用いて担当者から説明しました。



P-84

主催：兵庫県立尼崎小田高等学校看護医療・健康類型

高校生と地域コミュニティづくりを考える

地域社会での助け合いの大切さ、そのために地域コミュニティづくりの大切さ、高齢者や障がい者などの災害時要配慮者の人たちを平素からどのように支援をしていけばいいのか、6年間の私たちがやってきた取り組みの報告を行いました。



IHDセンタービル 2F (交流ギャラリー前ロビー)

P-85

主催：防災ママかきつばた

絵本×オンライン×地域×ママの防災活動紹介

親子のみなさんの備えのきっかけとこれからにつなげていくために。愛知東海エリア・オンラインを中心に、親子のみなさんに防災の大切さを伝えています「防災ママかきつばた」です。0から防災を学び、防災士など資格取得をしながら、地域と連携して、防災をみんなで考え、取り組めるよう多角的に活動をしています。オンライン・全国にも出張講座をしています。団体・教育機関・企業・行政のみなさんとのコラボ経験あり。全国放送でも取り上げていただいた親子防災絵本「ちきゅうくんのくしゃみ」は、地域の20団体以上の方と連携して作成しました。ほうさいこくたい2022では、ママたちが備えている防災グッズの展示や活動紹介のほか、防災名札の配布も行いました。



P-86

主催：ママコミュ！ドットコム×特定非営利活動法人レジリエンス教育研究所
 ×大阪府立水都国際中学・高等学校防災部

子ども・若者への防災教育 災害に強い未来を共に創ろう

オールハザードの防災リテラシーの向上に加え、災害後の社会を生き抜く共助の精神を磨き、次世代をけん引するリーダー育成を目的とした「U15のための防災カレッジ」を広く周知しました。また、カレッジをサポートくださり、理事全員が防災士の資格を有する特定非営利活動法人レジリエンス教育研究所、大阪市内初の防災系クラブである大阪府立水都国際中学校防災部と共に出展することで、様々な世代で取り組む防災を発信しました。



P-87

主催：一般社団法人 日本助産学会

赤ちゃんとお母さんをみんなで守ろう

目的：妊娠・出産・産後に、女性と家族が新生児を含めた減災行動を取れること 対象：一般向け、とくに妊娠中にご夫婦・家族で来院される方 内容：出産前にお母さんを含めたご家族で準備したいこと、災害避難中に妊娠中の女性が注意したいこと、出産施設を退院した後の生活で備えたいものの展示（紙媒体・実物）、シミュレータ（モデル人形）を使って新生児を安全に避難するためのデモンストレーションと来場者の体験コーナー。



P-88

主催：災害と子育て研究会

災害時の子育て

～平成30年7月豪雨災害と子育て研究会真備町より～

平成30年豪雨災害後、倉敷市では子どもたちやその家族はどんな影響を被ったか、それに対してどのような支援がされたのか。その体験とともに行政や民間の支援の実際について詳細に調査した結果についてまとめた内容をポスター掲示しました。実際に子育て期に被災した当事者と被災地にて子育て支援を中長期的に実践した支援者が当時の実体験をお話しました。



オンライン

Po-1

主催：WPPグループ Japan Pet Press

災害とペット ペット防災の最前線から命を紐解く —Life with PET—

1 避難所でペットはトラブルになることがありますし、避難所の受け入れ体制が整っていないこともあります。その時に、どのようにすればよいのか
 2 アニマルトラスト制度について ほうさいこくたい2019でアニマルトラスト制度の提言と提唱を行いました。残されたペットをどのように対応すればよいのか、海外の事情を含めてご紹介を行なっています
 3 ペット防災における技術革新 見失ったペットを探すために日頃からの取り組みごと
 以上3点を中心に、ペットイベント時に参加者が関心が高い項目（テーマ）を取り上げて、説明を行って行きました。



オンライン

Po-2

主催：三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

みえ防災・減災センター及びみえ防災・減災アーカイブの紹介



三重県における地域防災力向上のために当センターが実施しているさまざまな取り組みをご紹介します。昭和19年東南海地震や昭和34年伊勢湾台風など県内被災者の災害体験談、地震津波の碑及び防災紙芝居などを「みえ防災・減災アーカイブ」で紹介しています。アーカイブコンテンツを紹介することで、災害に対してどのように備え、対応するかを各自で考えていただきました。

Po-3

主催：災害時の子どもの居場所（CFS）協議会

「災害時の子どもの居場所の作り方」

～遊びと学びを通じた子どものこころのケアのために～



CFSは、内閣府が発行している避難所運営マニュアルにおいても「キッズスペース」として設置の必要性が記載されています。当協議会では、過去の事例を元に、CFSの設置運営に関して、準備段階と実施段階それぞれのポイントをまとめた紹介動画を作成しました。災害時に子ども支援に関わる行政や支援団体の方々が実際に設置する際の参考にしてもらうとともに、一般の方々に広く知ってもらうことを目的としています。

Po-4

主催：宮城県復興・危機管理部復興支援・伝承課

宮城県震災復興パネル展

「あなたの応援を力に。今までも。これからも。」

あなたの
応援を力に。
今までも。
これからも。



震災から11年が経過した宮城県内の被災地の復興状況について、被災当時と現在の写真を比較した内容のパネルにより周知する。また、被災地で復興に向けた活動を行っている人物に焦点を当てた内容のパネルも展示し、宮城県の復興の歩みを周知しました。

Po-5

主催：薄磯まちづくり検討委員会、薄磯区会

地域住民組織（区会）主導による地区防災計画立案に向けた取り組み



住民の課題・ニーズに基づく地区防災計画立案に向けた取組を紹介する。①避難訓練の企画・実施・評価（薄磯区会・鈴木、岩手県立大・杉安）②平時・有事を通じIoT機器を活用した効率的な誘導システム構築（東北学院大・高橋）③わかりやすい数学を用いた科学教育の実践（沼津高専・鈴木）④発災直後のエネルギー確保（福島高専・丹野）⑤官民「協働」の役割「分担」による有事情報収集・共有・発信体制構築（近畿大・松本）。

Po-6

主催：イオン株式会社

地域を守り、暮らしを守る



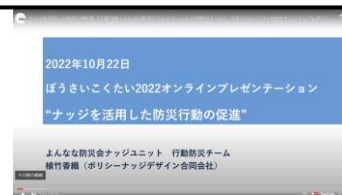
イオンは、災害や有事発生時において、グループ企業約300社が連携して被災地の早期の復旧・復興に向けた取り組みを行い、社会インフラの役割を果たすことで地域のお客さまの暮らしを守っています。令和元年房総半島台風、東日本台風での営業再開や被災地支援の取り組みを映像で紹介しました。また、グループ統一基準の「イオン新型コロナウイルス防疫プロトコル」に基づく、イオンの安全・安心の取り組みも紹介しました。

オンライン

Po-7

主催：よんなな防災会ナッジユニット 行動防災チーム

防災ナッジをつくってみよう～防災ナッジワークショップ～



目的：現実的な人間像を前提に自発的な行動変容を促す手法「ナッジ」について、意義や活用事例などを紹介するとともに、防災分野での実践を目指し、本会の紹介を行いました。

対象：防災行動の促進に関わる行政、民間、学術、及び地域の関係者

Po-8

主催：鹿児島市

**火山防災トップシティ 鹿児島市
～大規模噴火に備えた火山防災対策～**



日常的に噴火を繰り返す桜島の活動と60万人市民が桜島と共生する鹿児島市の世界トップレベルと称される火山防災対策を映像等を用いて紹介しました。詳細は「火山防災トップシティの推進」のホームページをご覧ください。

Po-9

主催：一般社団法人 ひろしま防災減災支援協会

キッズ防災士の紹介

当会が本年度より認定を行っている「キッズ防災士」の認定や活動の紹介を行いました。

Po-10

主催：ひろしま避難者の会 アスチカ

避難者の次のステップへのサポートと関わり



ひろしま避難者の会 アスチカの活動や内閣官房 国土強靱化民間事例集に掲載された「暮らしによりそう情報マップ」の紹介しました。

Po-11

主催：そらり

ママ気象キャスターが伝える、幼児からのお天気防災プログラム



「2歳からの空の教室」を行っているそらりの活動や提供している講座のコンテンツ紹介を行いました。歌や実験なども盛り込み、幼児にも楽しみながら空に親んでもらえるようなプログラムを提供しています。小さな頃から空に親しむことで、環境や災害に対して自発的な行動をとれるようになり、災害から自分で身を守ることにつながるということを訴えていきたいと考え実施しました。

オンライン

Po-12

主催：災害看護グローバルリーダー養成プログラム (DNGL)

国内外で活躍する"災害看護グローバルリーダー"の活動紹介



DNGLはこれまでに27名の災害看護グローバルリーダーを輩出してきた。修了生は国内外の大学、研究機関、行政や医療機関等で活躍している。常にグローバルな視点を持ちつつ、災害時だけでなく、平時から人々の健康生活のためにそれぞれ活動している。今回の出展では、それぞれの現場での災害看護グローバルリーダーたちの活動を映像媒体を用いて広く社会に紹介することを目的とし実施しました。

Po-13

主催：NPO法人きっかけ食堂

若者による食を通じた東北との関わり～きっかけはすぐそばに～



私たちは、毎月11日だけ開く東北酒場「きっかけ食堂」を全国で開催中。岩手/宮城/福島の事業者や生産者の食材を仕入れ、東北を応援したいという人に食事と東北、防災との繋がりを提供。同時に、東北地域の事業者や生産者には自らの食材をPRする機会や東日本大震災やそのほか災害の体験を伝える機会を提供している。今回は東北からの学びを掲載、報告しました。

Po-14

主催：U-Inspire JAPAN

情報・人・機会が集まる「防災ユースの広場」



当団体では、これまでに防災教育や防災に関心がある若者の交流の場「防災ナイト」、気象災害に関する勉強会、各地にある支部での活動など様々な活動を行ってきている。それらの活動紹介や、各国の防災活動について紹介・展示しました。

Po-15

主催：一般社団法人 日本防災プラットフォーム (JBP)

産官学の連携で防災ビジネスのイノベーションを推進！



日本の防災技術は国内のみならず、海外でもたくさん活躍しています！日本の防災技術と一口に言っても、災害種別も対策方法（インフラを強くする、早く避難する、備蓄する…etc）も様々です。JBPには「防災」に関わる多種多様な会員企業が約100社/団体 集まっています。

Po-16

主催：一般社団法人いのちを守るatプロジェクトJAPAN

**いのちを守る@防災劇場
(マジックパフォーマンスショー)**



いのちを守る防災シリーズを2012年より全国で宿泊型防災訓練「いのちの体験教室」や「いのちを守る防災CAMP」を開催してまいりました。そして、2021年コロナ対応キャンピング使用の防災ステージバスを考案。野外でも学べる新たな防災活動等行っております。バスの前にステージを作り防災劇場や防災ワークショップを開催。楽しみながら真剣に学べる新感覚防災セミナー！演者は防災講師も務めるプロパフォーマー達です。

屋外展示詳細

※出展団体に確認したものを掲載。

なぎさ公園（前道路）・JICA関西前

0-1

主催：国土交通省 近畿地方整備局
国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所
国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所
国土交通省 近畿地方整備局 近畿技術事務所
震災伝承ネットワーク協議会（国土交通省 東北地方整備局）



防災に取り組む国土交通省

- 国土交通省 近畿地方整備局
大規模な自然災害が発生した時に活躍するTEC-FORCEの取り組みをパネルで紹介しました。また、防災教育グッズを用いて子供たちに「災害」や「防災」を体験してもらいました。
- 国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所
砂防施設有・無の2種類の模型装置に雨を降らせ、砂防堰堤の土砂調節効果や斜面对策施設の効果を比較体験してもらいました。
- 国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所
災害復旧を支援する災害対策機械を展示し、TEC-FORCE活動を紹介しました。
- 国土交通省 近畿地方整備局 近畿技術事務所
ドローンを使用した被災状況調査やインフラDXの取り組みについて、パネルや映像により紹介しました。
- 震災伝承ネットワーク協議会（国土交通省東北地方整備局）
東日本大震災を忘れず伝えていくために、震災伝承施設を通して防災に関する「学び」や「備え」を発信している「3.11伝承ロード」の取り組みをパネルやパンフレットで紹介しました。

0-3

主催：全国災害ボランティア支援機構
「移動式災害ボランティアセンター号」
「福祉避難所向け 自動排泄処理装置」の展示



- 1 コロナ禍で即被災地に移動し臨時のボランティアセンターを開設するために「キャンピングカー」を改造した「全国初移動式災害ボランティアセンター号」として約200種類の災害救助用の資器材（ドローン、感染防護服、シャワー、簡易トイレなど）を備えている車の展示
- 2 避難所や在宅避難所での寝たきりの要介護者の大小便の処理に人手を取らずに自動で吸入して分解処理を行う事が出来る全国初の「自動排泄処理装置」の展示。

0-4

主催：株式会社NTTドコモ 関西支社 神戸支店
災害時にも大切な人とつながるために



ドコモでは災害対策に向け、様々な取組・準備を行っております。
 災害時の通信確保・皆さまが大切な人とつながるために実施している取組みの中から、以下について展示をさせていただきました。
 【展示内容】
 ドローン中継局、移動無線基地局車、衛星携帯電話、災害用マルチチャージャー、災害用伝言版

0-5

主催：一般社団法人 日本災害医学会
屋外展示：移動式災害医療トレーラー Medical-ConneX 展示



多様化する災害に対して、命を救うための新しいモビリティ・ソリューション「Medical-ConneX（メディカル・コネクス）」の展示を行いました。この車両は世界で初めてCT装置と生化学・免疫装置を同時搭載した高度救急・災害医療対応車両です。全国で発生した災害へ駆けつけ、屋外で病院と同じ機能設備をもって、診療にあたります。本邦初の一般公開です。Presented by 医療法人伯鳳会 東京曳舟病院

なぎさ公園（前道路）・JICA関西前

0-6

主催：トヨタ自動車株式会社

神戸学院大学総合リハビリテーション学部 川本健太郎 研究室

「やむをえない車中泊避難への備え」と 「障がい者の命をつなぐモバイルトイレ」

やむをえず車中泊避難を選ぶ方が今後も増える予想される一方で車中泊避難には命に関わるリスクを伴うため適切な対応が必要です。そのリスクと対策方法の必要性を車両展示や冊子の配布により働きかけました。また、災害時のQOLの低下は障がい者にとって命に直結する問題です。モバイルトイレは、電源車でけん引シタンクを搭載し場所を選ばず使用可能です。災害時に命を守る新しいツールの一つとして提案しました。



0-7

主催：一般社団法人 日本避難所支援機構

やるなら安全な車中泊避難を

コロナ禍で避難所の利用が危惧される現状に対し、特殊な車両や道具を用いず、一般的に普及している車両（VANと小型車予定）と家庭内にあるものを利用して、関連死を招かないための、安全な車中泊避難の実践を参加者に体験してもらったり知って頂きました。また医療面で車中泊避難において効果的な身体部位のほぐし方・運動・心がけを提唱し周知に繋げる。特に乳幼児や高齢者への配慮などを周知する機会としました。



0-9

主催：兵庫県災害医療企画実行委員会

【共同プロジェクト】

災害時の医療対応を学ぼう（発災直後から避難所まで）

- ・ 医療関係団体で協力し災害医療から避難所での健康管理までの知ってほしいポイントを伝えました。
- ・ 各団体がブースを作り災害時の医療から避難所での健康管理までの医療体制を一連の流れでわかりやすく学ぶことができるよう連携を図りました。
- ・ 災害医療関係車両の展示も行います。一部、ブースではイベント開催やグッズの配布も行いました。
- ・ 大人から子供まで参加できます。



0-10

主催：災害派遣トイレネットワーク「みんな元気になるトイレ」

兵庫県南あわじ市

災害時に深刻化するトイレ問題解決に向けて！

●災害派遣トイレネットワーク「みんな元気になるトイレ」

激甚・頻発化する災害、いち自治体では対応に限界が。

災害時に深刻化するトイレ問題を、支援し合いの仕組で解決する災害派遣トイレネットワーク・みんな元気になるトイレを紹介。全国自治体に参加を呼びかけました。

●兵庫県南あわじ市

災害時にも衛生的なトイレ環境を確保するために導入した、車いすやオストメイトの方も利用可能な「自走式水洗トイレカー」の実車展示を行いました。



なぎさ公園（前道路）・JICA関西前

O-11

主催：兵庫県立淡路景観園芸学校

北陸大学

名古屋学芸大学

兵庫県立大学学生災害復興支援団体 LAN

Seagull Rescue（シーガルレスキュー）

特定非営利活動法人ワカモノチカラプロジェクト

神戸大学学生震災救援隊

よんなな防災会学生部

TKK3大学連携プロジェクト

神戸国際大学防災救命クラブ（DPLS）

防災リテラシー研究所



学生による防災体験&展示会

●**兵庫県立淡路景観園芸学校**

園芸療法を活用した被災地支援の概要（人が自然を求める特性であるバイオフィリア、植物によるストレス軽減のしくみ、花と緑の活用プログラム紹介）と、被災地での支援活動の紹介を行いました。

●**北陸大学**

北陸大学では、医療における災害対策を軸に活動する研究者と、学生防災サークル「RISING SUN」があり、石川県の危機対策課と協力し、県内の防災イベントへの参加等防災意識を高める活動をしました。

●**名古屋学芸大学**

南相馬市の農産資源を対象に行ったブランディングプロジェクトの活動について、概要説明動画や活動報告パネル等を用いて、参加学生らが来場者へ説明・報告をしました。本活動を通じ、学生らは広く学び、専門性を深め、地域に愛着を持ちました。

●**兵庫県立大学学生災害復興支援団体 LAN**

東日本大震災から10年以上継続して相馬市と交流を行っている学生団体として、継続して活動する意義を知ってもらい支援の輪を広げました。また過去にLANが製作した防災コンテンツを体験していただきました。

●**Seagull Rescue（シーガルレスキュー）**

防災に関するパネル展示及び心臓マッサージ・AED・三角巾による応急手当・119通報・ロープワークなどの実技指導を行いました。特に身近な物を使った応急手当・防災対策について紹介しました。

●**特定非営利活動法人ワカモノチカラプロジェクト**

一人暮らしの大学生のための防災情報・パネル展示を行いました。防災知識・防災グッズだけでなくスマホアプリなど、いざというとき使いこなしたいデジタルツールなどを紹介しました。

●**神戸大学学生震災救援隊**

救援隊が地域の中でどのように災害と関わってきたのか、学生として災害・地域に関わる意味は何かを、模造紙にまとめて発表しました。また、これまでの活動をまとめた動画を作成して、流しました。

●**よんなな防災会学生部**

(1) 防災知識の習得・共有 (2) 防災関連の意見共有会 (3) 交流会などの当団体の活動紹介を動画やポスター、チラシなどを用いておこないました。また、全国の防災に関心がある学生とのネットワークを広げます。

●**TKK3大学連携プロジェクト**

TKK3 大学連携事業の取り組みや、各大学の被災地支援に関する報告、「東日本大震災から10年 未来へ想いを紡ぐ大学生プロジェクト」の参加学生による活動報告や語り部動画の上映などを行いました。

●**神戸国際大学防災救命クラブ（DPLS）**

災害時の救護に必要な心肺蘇生法について実際に蘇生法教育簡易モデルを用いて体験する。指導は神戸市消防局認定救急インストラクター資格を所持している部員が中心となって行いました。

●**防災リテラシー研究所**

災害で停電したら、お風呂をはじめ生活の様々な困りごとが生じます。それへの備えについて、ほんとうに必要なものは何なのか？ポスター展示、ワークショップ、防災落語などで参加者といっしょに考えました。

なぎさ公園（公園内）

O-12

主催：兵庫県香美町

消防団防災学習・災害活動車の紹介



当大会で、全国的に問題となっている消防団員数の減少に歯止めをかけるため、日本消防協会より香美町（香美町消防団）に対して、令和3年に交付いただいた消防団防災学習・災害活動車を含めた資機材を展示し、広く消防団の活動を紹介し、火災対応や予防消防を含めた消防団活動に関する周知を行いました。さらに、南海トラフ巨大地震が心配される中、日本海津波への注意喚起も併せて行うため、町で導入した津波フラッグの紹介も行いました。

なぎさ公園（公園内）

0-13

主催：遠く離れても一緒に活動し隊！ ～イクシーとゆかいな仲間たち～

遠距離でもこんなに繋がれる、一緒に学べる、支え合える。こんな共助の形もあっていいよね。

SNSやZoomを利用した私達の活動、気付き、遠方でもこんな風に繋がれる、こんなメリットがあるということ、パネルや現物、小さなワークを織り交ぜて紹介。車中泊訓練の様子と車内の工夫。身近な物や100均グッズを用いた「車中泊便利グッズ」。災害時ならではの困りごと（トイレ問題、皿がない、応急手当等々）に対し、牛乳パックやストッキング「身近なもの」での解決法を考える。持ち出し品について考える防災ビンゴ。



0-14

主催：一般社団法人epoおかやま笑顔プロジェクト

**逃げ遅れゼロプロジェクト!!
要配慮者の避難支援を!!!**

災害支援車両(元高規格救急車)は、災害時における要配慮者の避難支援、被災医療機関からの転院搬送、災害現場での救護所として運用(車両救護での心の安定を重視)します。当法人として災害時に一人でも多くの方を助けるための車両を展示しました。対象者については自治体職員や医療福祉関係の方、そして一般の方にも逃げ遅れゼロプロジェクトによる要配慮者の避難支援の必要性を感じていただきました。



0-15

主催：日産自動車株式会社

**神戸市危機管理室・神戸地区トヨタ販売店・AI防災協議会
兵庫三菱自動車販売株式会社**

電気自動車等を活用した停電対策～フェーズフリーな防災を考える～

●日産自動車株式会社

弊社の電気自動車を展示し、そこから電力を取り出し家電製品等に電力を供給する「給電デモンストレーション」を実施しました。（家電製品：電子レンジ、炊飯器、電気ケトル、スマートフォンなど）。また、電気自動車普及による社会課題解決を図る「ブルー・スイッチ」活動を紹介するパネル展示、冊子の配布を行い、電気自動車が「走る蓄電池」として電力を必要とする場所に駆けつけることができることなどを紹介しました。

●神戸市危機管理室・神戸地区トヨタ販売店・AI防災協議会

- ・避難所における電気自動車等の外部給電機能の活用方法を紹介しました。
- ・電気自動車等の外部給電機能を利用して、スマートフォン・タブレットなどの充電、IH調理器など活用した防災食の展示を行いました。
- ・神戸市の避難所（小中学校等）に設置を進めている「外部給電・神戸モデル※」のデモ展示を行いました。

※停電時でも外部からの給電により施設の既設照明の一部をそのまま使用することができる設備工事

●兵庫三菱自動車販売株式会社

当社で取り扱いしている電動車両（アウトランダーPHEVおよびEKクロスEV）の車両展示を実施し、同時に給電パフォーマンスを実施しました。

給電パフォーマンスの内容は、展示車両より電気を取り出し、家電製品を動かしてみようというものです。

具体的には、モニターで動画の放映や、携帯電話等の充電、場合によっては電動調理具を使った飲食の提供も可能です。



0-16

主催：兵庫県

学ぼう！六甲山の治山事業、進めよう！！住まいの耐震化

●農林水産部治山課

土石流実験模型やパネル展示により、防災・減災活動に活かせるよう体験学習や六甲山の災害の歴史を説明しました。

●まちづくり部建築指導課

阪神・淡路大震災での死者の8割強が住宅等の倒壊による圧死が原因とされています。住まいを耐震化することにより、大地震が起きた時にご家族やご自身の命を守ることができます。当大会では、パネルの展示や木造住宅倒壊模型による実演、木造住宅の加振実験映像により、住まいの耐震化の重要性についてご紹介しました。



なぎさ公園（公園内）

0-17

主催：兵庫県助産師会 災害対策委員会

**妊産婦と小さなお子さんを持つ方へ
「備えよう！我が家の防災」**

これまでの助産師という専門職の妊産婦・母子支援活動を紹介しました。来場された妊産婦、母子とその家族の備えのための防災（備蓄、物品、家庭内の対、避難行動など）についての情報をパネル展示、チラシやパンフレットなどで来場者に情報提供する。妊産婦、母子からの相談に応じました。自治体、行政関係者に、助産師の災害時の支援・活動の現状を知ってもらい、災害時支援の、共助・公助の一助になる方策を提案しました。



0-18

主催：近畿災害対策まちづくり支援機構

専門の知恵を集めて、被災のみらいを支える

被災者の生活再建に向けた相談会を仮想的に開催（模擬相談会）。被災状況に応じた関係業種の専門家のチームがワンバックとなって、地震、水害、土砂災害等の被災状況を想定し、住民の相談に対応する模擬相談会を、VTRに収録。これを現地で公開し、相談内容のマニュアル、Q&A等を紹介し、理解を深めました。会場参加者の質疑にも応じました。



0-19

主催：さんだ防災リーダーの会

地震に備える事前準備

地震による減災をするため、家具転倒防止及び通電火災防止のため、当会で作成した模型や体験装置を展示、説明し、さらに、体験をしていただきました。参加者が楽しみながら体験出来るように工夫して実施しました。



0-20

**主催：一般社団法人 日本トイレ協会 災害・仮設トイレ研究会
災害用トイレ（携帯・簡易トイレ・仮設トイレ）の実物展示
及び 過去災害時のトイレ状況案内。**

・災害時に使用されるトイレである「携帯トイレ」「簡易トイレ」「仮設トイレ」の3種類の実物展示、紹介。・災害時に使用出来るトイレが不足する為、「携帯トイレ」「簡易トイレ」の備蓄推奨 及び 現物説明、配布。簡易トイレ組立実演 及び 携帯トイレ吸水実演。



0-21

主催：神戸心絆

忘れない これからも 1.17 3.11

令和5年1月17日阪神淡路大震災・3月11日東日本大震災の追悼式で使用する竹灯籠を参加者で作成・メッセージの書き込みをしました。



なぎさ公園 (公園内)

0-22

主催：まちキャラパーク実行委員会

「まちキャラパーク In ぼうさいこくたい KOBE 2022」

・なぎさ公園を中心にした 展示 (2×3K) 1張 内容/防災グッズ (ワークショップ) ・キャラクターたちによる防災ステージ (90分)
 ※なぎさ公園 野外ステージor人と防災未来センター東館1階ホール・全会場を回遊型クイズラリーなど (雨天時は屋内で実施希望) (地震、水害、津波、救命などを出題 ※回答数回遊ポイント数により決定)



0-23

主催：(認定) 特定非営利活動法人 日本レスキュー協会

「被災地で活動する災害救助犬//ペットの災害対策」

①災害救助犬の活動紹介 (パネルや写真を用いて、被災地での活動を紹介) ②災害救助犬とのふれあい ③ペットの防災対策グッズ紹介 (防災セットの展示やパンフレットの配布を通して、備えについて啓発) ④物販販売 防災グッズなどのオリジナル商品を販売します。⑤紙芝居の実施 (作者 中小路絵美 防災士) 1歳で癌が見つかり、病氣と闘いながら懸命に生き抜いた1頭の犬生の物語。命の尊さを伝えました。



0-24

主催：アトリエ太陽の子 ボランティア部

1.17を忘れない。命の一本桜プロジェクト

●阪神淡路大震災、東日本大震災を始め、各地で起こる自然災害に思いを馳せ、神戸の子どもが描いた木の幹、未来に向かって伸びる枝、災害に負けない様、大地を掴んだ根を描いた巨大絵画をブース奥壁面に展示し、来場の方々と「命の大切さ」に感謝し、桜色の絵具を手塗り、手形を押し当て、満開の桜を制作していきました。 ●神戸市内の子ども達が描いた『震災の絵』と、絵画を通じた東北・熊本支援活動のパネル展示を側面に実施しました。



0-25

主催：西日本電信電話株式会社 兵庫支店

NTT西日本の災害に対する取組み
 (災害用伝言ダイヤル171の体験)

テントブースでは災害時に安否確認・連絡を行うための災害用伝言ダイヤル171の紹介を行いました。
 例) 災害用伝言ダイヤル171のデモ機を使った体験



0-26

主催：株式会社フジタ

“ぼうさいのフジタ”

～総合建設会社によるハード/ソフトぼうさいへの取り組み

実物展示：【ロボQs】汎用重機に搭載可能な無人化施工ユニット。人が立ち入ることのできない危険箇所での重機施工を可能にします。
 【FTマッドキラー】災害で堆積したヘドロ状の土に混ぜるだけで瞬時にサラサラの土に改質する特殊改質材。【災害用簡易ベッド】テントが一体となった備蓄用組立式ベッド。飛沫拡散防止とプライバシー確保。パネル・映像展示：【防災への貢献】【ドローン技術】【ダム改修技術】など



なぎさ公園（公園内）

0-27

主催：防災企業連合 関西そなえ隊

「防災・減災に関わる企業・団体の課題解決策や研修会・勉強会の事例紹介について」

そなえ隊員企業が提案する、備えに関する用品（具等製品）類の展示およびデモンストレーションを行いました。またこれまでにそなえ隊の活動の実績や、活動から生まれた企業間コラボレーションによる成果等をパネル展示で紹介しました。民間企業間の連携によって進める防災・減災（備え方）について、企業や自治体、一般に発信しました。



0-28

主催：一般社団法人 兵庫県損害保険代理業協会

小学生による「ぼうさい探検隊」マップ作成

ぼうさい探検隊の取組み実績と参加方法などを展示しました。過去に小学生たちが作成した地域の防災マップを展示し、また実際に取組むにあたっての募集要項やパンフレットなども持ち帰れるように展示しました。今は手書きでの作成だけでなくI-PATを使ってゲーム感覚で作成出来るようになっていきますのでその点も展示しました。



0-29

主催：防災専門図書館（公益社団法人 全国市有物件災害共済会）

ディープな防災・災害情報を求めるなら、防災専門図書館へ！

阪神大水害の被災状況を描いた大絵巻や、その被災状況の写真、解説文等を併せて展示して、昭和13年に神戸市で土砂災害の大きな被害があったことを紹介しました。さらに、子ども向けには防災専門図書館オリジナルコンテンツ「防災いろはかるた」を利用したクイズを実施して、楽しく防災を学んでいただきました。また、「防災いろはかるた」や図書館案内を配布しました。



0-30

主催：関西学院大学インテリジェントブロックチェーン

+イノベーションリサーチセンター

特定非営利活動法人兵庫県防災士会

一般社団法人地域再生・防災ドローン利活用推進協会（RUSEA）兵庫三田支部

先進IoT技術を用いた災害対応

災害対応をより効率的かつ安全にするための、モノのインターネット（IoT）技術の研究成果を紹介しました。特に、（1）ジェスチャーによるドローン操作の映像紹介と実機の展示、（2）拡張現実（AR）グラスを用いた災害シミュレーション、（3）災害対応スマートフォンアプリ、そして（4）分散型台帳技術を用いた画像ぼかし技術を紹介しました。



なぎさ公園（公園内）

0-31

主催：一般財団法人日本気象協会

3分間の豪雨・暴風疑似体験学習アトラクション「HERASEON-R」



豪雨、暴風時にニュースで良く使われる「時間雨量80mmを超える猛烈な雨」「風速25m/sの非常に強い風」をAR（拡張現実）を使って濡れずに安全に疑似体験できる「HERASEON-R」を出展し来場者に体験して頂きました。更に、学校の教材として使えるDVD「わかりやすい気象現象と災害」と低年齢層向けの防災教育絵本「ぼうさいスイッチ」を主に教育関係者、自治体防災関係者などへ無料配布しました。

0-32

主催：東日本大震災・原子力災害伝承館

日本ジオパークネットワーク

国立歴史民俗博物館

大槌町震災伝承プラットフォーム

一般社団法人おらが大槌夢広場

災害語り部ネットワーク

公益社団法人3.11メモリアルネットワーク



地域と時間の両軸から震災と向き合い、教訓を伝える。

●**東日本大震災・原子力災害伝承館**

展示の他、被災を経験された方から話を聞く「語り部講話」、近隣地域を実際に見てまわり復興状況を体感する「フィールドワーク」等の研修プログラムを行っており、そうした取組みをパンフレットや動画で紹介しました。

●**日本ジオパークネットワーク**

ユネスコのプログラムであるジオパークは、自らは語らない大地の物語を、その恵みとともに、起こりうる災害についても、体験談や災害遺構により伝えている。災害の軽減に対するそのような取組みを紹介しました。

●**国立歴史民俗博物館**

地域のアイデンティティの基礎であり、多くの研究の出発点ともなる地域伝来の資料にかかわる、災害時の資料レスキュー（検索・修復）や、持続可能な保存方法の開発等の取組みを紹介しました。

●**大槌町震災伝承プラットフォーム**

震災伝承を文化とすべく官民協働の土台として立ち上げた「大槌町震災伝承プラットフォーム」上で、住民参加のもと展開している「語り部育成プログラム」「震災教育コンテンツ開発」などの取組みを紹介しました。

●**一般社団法人おらが大槌夢広場**

大槌町の東日本大震災で経験や、直面した課題、それを通した学びを自分自身で考え、アウトプットすることで様々な場面で自分事として活かせる「決断のワークショップ」と「震災疑似体験プログラム」を紹介しました。

●**災害語り部ネットワーク**

人々の心に届く災害体験を語り継ぐ取組は重要性を増しています。阪神・淡路大震災被災地でネットワークづくりと活動を継続する仕組みを考えるため、語り部や復興音楽活動など複数の団体と共同で出展し、災害体験の無い被災地外の方々にも伝えました。

●**公益社団法人3.11メモリアルネットワーク**

2011年の東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島県の3県における震災伝承活動の現状（2021年調査結果）と課題、ネットワークを通じた連携・企画・人材育成の取組みを紹介しました。

0-33

主催：NPO法人ペット防災サポート協会

環境省自然環境局総務課動物愛護管理室

認定特定非営利活動法人人と動物の共生センター

人もペットも災害対応

（ペットと一緒に避難 準備は大丈夫？）



東日本大震災での経験から、ペットの飼い主に強く推奨してきたペットとの同行避難を啓発し、リーフレットやチラシなどを配布して、ペットの飼い主さんの災害への備えや避難所におけるペットの受け入れを推進しました。

ポスターセッション詳細

※出展団体に確認したものを掲載。

人と防災未来センター

PS-1

主催：縁活

縁活「ひまわり架け橋プロジェクト」

2016年にスタートした『ひまわり架け橋プロジェクト』は、東日本大震災で被害のあった福島ひまわりの種をあべのハルカス近鉄本店の屋上で育て、メッセージと共に種を被災地に送る活動からスタートしました。笑顔をイメージするひまわりを通じて災害のあった被災地を繋ぎ、「災害を風化しない」「災害から学ぶことを後世に伝えていく」という思いやメッセージを届ける活動を知ってもらう為に出展しました。

PS-2

主催：一般社団法人 危機管理・労働災害防止機構

まさか 被災するなんて ー自分は大丈夫なのかー

新潟県の高田平野における大規模地震として考えられる高田平野東縁断層帯の実情及び海底断層が動いたときの沿岸部への津波の状況についてポスター掲示を行い地域で活動している内容のうち、共助・自助努力の重要性を説明しました。また、高田平野に興味を持っていただけるように抽選会を実施しました。

PS-3

主催：僕らのヒトシズク

明日への支度プロジェクトー写真とコトバの減災復興展

この出展は、学生が実施した水害被災地における聞き取り調査によって、得られた被災者の「生のコトバ」をパネル展示しました。「川は家族みたいなもの。ある時は荒れ狂っても、普段は静かに癒してくれる存在です」という自然との共生や、「災害がきっかけで長男が帰ってきたんです」という家族の絆など、被災者だからこそ語れる「生のコトバ」を、当時の現場を想起するための「写真」とともに展示しました。

PS-4

主催：名古屋市

「伊勢湾台風カルタ」で“未来につなぐ災害の経験と教訓”

名古屋市を中心に甚大な被害をもたらした、1959年に発生した伊勢湾台風・・・被害が拡大した要因は何だったのか？そこで暮らす人々はこういった状況だったのか？伊勢湾台風の経験や教訓を次世代に伝える取組みとして、伊勢湾台風に関する体験談、被災状況や復興の様子を間近で捉えた写真などを元に制作された、「伊勢湾台風カルタ」の読み札・絵札などの展示を行いました。

PS-5

主催：一般社団法人アスミー

被災地の公務員が全力でまちのために働けるように、 公務員の家と家族を支える互助の仕組み

アスミーは、大規模な災害が起これば、被災地の公務員の多くが被災した状況を想定して作られた仕組みです。自らもそして家や家族も被災した状況であっても、公務員はまちのために災害現場の最前線に出ます。アスミーは全国の公務員をメンバーにし、被災した公務員の家と家族を、被災していない公務員がサポートする仕組みです。公務員のメンバーを増やすことでその実行力を増し、それがまちのレジリエンスや復興の速度につなげます。

人と防災未来センター

PS-6

主催：一般財団法人 世界防災フォーラム**World BOSAI Forum2023 のご紹介**

私たちは防災のネガティブなイメージを取り払い、専門家だけでなく世界中の市民の方にも防災に興味を持ってもらいたいと考え、市民参加型の国際会議「世界防災フォーラム」を開催します。さまざまな活動を通して、仙台、東北から「BOSAI」を世界に広げるための活動を進めています。

PS-7

主催：内閣府・防災推進協議会**第37回防災ポスターコンクール入賞作品**

「自助・共助」の取組を推進し、国民の防災意識の向上を図るために、昭和60年から防災ポスターコンクールを実施しております。今回は、令和3年度に実施した「第37回防災ポスターコンクール」の作品を展示いたしました。

PS-8

主催：神戸復興塾3.11支援集会**被災地から被災地へ復興経験をつなげる
－神戸復興塾3.11支援集会の活動－**

神戸復興塾3.11支援集会は東日本大震災の発災直後、阪神・淡路大震災の被災地・神戸に生まれました。これまで12年間継続して全国の被災地の復興に取組み、阪神・淡路大震災支援へのご恩返しが少しできたと感じます。東北の復興が進むに伴い開催規模を縮小してきていますが、向後の災害に備え、このような被災地の外から被災地を応援する取組みが全国各地で生まれることを願い、これまで99回開催してきた開催概要を写真を含めて紹介しました。

PS-9

主催：兵庫県震災復興研究センター**災害復興と復興災害**

阪神・淡路大震災27年と復興の現状・課題の検証作業をまとめ、チラシ、ポスター、ポツプ、出版物を通してわかりやすく伝えていきました。具体的には、兵庫県震災復興研究センターが「復興災害」(災害復興の過程で人為的・社会的につくられた災害)と指摘した ①新長田南再開発の現状・課題、②復興公営住宅の20年期限退去問題が提起した問題点を伝えていきました。

PS-10

主催：神戸大学地域連携推進本部ボランティア支援部門**災害・復興ボランティアと大学の未来
－全国で神戸大学生が共に築いてきたもの**

災害が頻発し、学生の災害ボランティア活動への期待が高まっています。本セッションでは阪神・淡路大震災被災地の大学として学生ボランティア団体がこれまで兵庫県(阪神・淡路大震災)や全国の被災地(東日本大震災、熊本地震、令和元年台風19号など)で取り組んできた活動を4つの団体が紹介するとともに、この機会を通じて災害・復興ボランティア活動の大切さ、その展開と課題を大学、地域社会の視点で考えました。

人と防災未来センター

PS-11

主催：兵庫県立佐用高等学校 家政科

地域と共に学ぶ～

「佐用合同防災訓練～KIZUNA大作戦～」を企画運営して～

災害が頻発し、学生の災害ボランティア活動への期待が高まっています。

本セッションでは阪神・淡路大震災被災地の大学として学生ボランティア団体がこれまで兵庫県（阪神・淡路大震災、丹波水害など）や全国の被災地（東日本大震災、熊本地震、令和元年台風19号など）で取り組んできた活動を団体ごとに紹介しました。それを通じて災害・復興ボランティア活動の大切さ、その展開と課題を大学、地域社会の視点で考えました。

JICA関西

PS-12

主催：5 x 5 MetaNurse Kobe

5 x 5 メタナースプロジェクト

これまでUrban Innovation Kobeで神戸市総合防災センターと協力して開発されたXRを用いた防災を中心に、オンライン上でムービーサイトでのダイジェスト、レクチャーサイトで今までの取り組みが閲覧、メタバースでのSTYLY擬似空間をVRゴーグルやスマートフォンで体験いただきました。

PS-13

主催：日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

【災害救護の展望と災害救護研究所への期待】

セッション名：「日赤災害救護の展望と災害救護研究所の役割」

ポスターセッション形式：DMRI活動内容を紹介しました。

例：DMRI紹介パンフレット拡大版掲示、パンフレットや関連資料を置く等。

PS-14

主催：神戸大学大学院海事科学研究科 津波マリンハザード研究講座

神戸大学大学院海事科学研究科におけるマリンハザード研究

南海トラフ巨大地震に伴い大阪湾に襲来する津波と、これが引き起こす二次的な現象に関して、海底堆積物の巻き上げとその輸送、これによる海水中重金属濃度の上昇、津波渦の出現分布と強度などの数値計算結果を紹介しました。また2018年9月に発生した大阪湾の高潮の発生前～収束後を、神戸大学深江キャンパス内の港で捉えたりアル動画もご覧いただきました。

PS-15

主催：兵庫県眼科医会

眼科災害医療 ～ これまで・これから～

災害時に眼科医会がどのような活動を行っているか、眼科災害医療活動の実際を理解してもらい、発災亜急性期の眼科災害医療の重要性を認識してもらいました。

ビジョンバスを派遣した、東日本大震災、2013年11月のフィリピンの台風災害、昨年7月の西日本豪雨災害での眼科災害医療活動とパラオ共和国での眼科海外開眼手術医療活動紹介しました。（パネル等の展示と解説⇒A0タペストリー10枚）

JICA関西

PS-16

主催：一般社団法人 防災住宅研究所

「阪神・淡路大震災の教訓を今に一災害から命を守れる家づくりとは」

「災害から命を守れる家づくり」を考える90分講演内容)

- ・27年間の被災家屋調査結果（防災住宅研究所 児玉猛治所長）
- ・日本の家と災害（仮）（東京理科大学名誉教授 工学博士 松崎育弘氏）
- ・南海トラフ巨大地震へ具体的な対策を！津波シェルターのある家づくりとは（百年住宅 中嶋雄社長）
- ・気候変動に具体的な対策を！地球温暖化時代の家づくり（ヒノキヤレスコ 上村耕一社長）
- ・ディスカッション+質疑応答

PS-17

主催：全国被災地語り部シンポジウム実行委員会

全国被災地語り部シンポジウムと語り部の取組み

「全国被災地語り部シンポジウム」は全国の被災地の経験を防災・減災につなげることを目指して、「誰もが語り部」と考え、2016年に東日本大震災被災地・宮城県南三陸町で開催し、その後阪神・淡路大震災被災地の兵庫県淡路市、神戸市、熊本地震被災地の熊本県熊本市・益城町・御船町など、全国で7回開催してきました。本セッションではシンポジウムの内容とプログラムをA2パネルで紹介し活動の展開につなげています。3月18日には第8回を稲むらの火の館のある和歌山県広川町で開催しました。

PS-18

主催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

日本地球惑星科学連合の防災に関わる活動

日本地球惑星科学連合（通称：連合、JpGU）は、地球惑星科学に関係する50学協会の連合体です。連合では環境災害対応委員会が主催して、毎年5月に幕張メッセ開催される日本地球惑星科学連合大会で、ユニオンセッション・パブリックを企画しています。本発表では、近年の自然災害と防災に関わるセッションの紹介と、連合に加盟している学協会が取り組んでいる防災に関するさまざまな活動を紹介しました。

PS-19

主催：大阪公立大学 都市科学・防災研究センター

コミュニティ防災人材育成システム—MUSUBOU—

コミュニティ防災人材の育成プログラムを紹介しました。プログラムは、eラーニングやアプリケーション、レクチャーやワークショップから構成され、オープンソースの学習管理システムを活用したプラットフォーム上で展開しています。このプラットフォームの愛称は「MUSUBOU（むすぼう）」で、防災教育や防災人材育成のコンテンツを必要とするコミュニティに広く開放されています。出展でMUSUBOUを広く周知しました。

PS-20

主催：株式会社明電舎、株式会社レジリエンスラボ

レジリエンスの高い持続力のある社会を目指して

明電舎の防災・BCPの取り組みと、明電舎発の防災・BCP対策を専門とするスタートアップであるレジリエンスラボの取り組みをご紹介します。レジリエンスラボは、明電舎における防災・BCPの取り組み・ノウハウを活かし、各社にとって最適な防災・BCP対策をご支援しています。また、災害時の長期停電対策として、企業・組織の自助・共助の力を高める仕組みである備蓄シェアリング「BCPチャージ」をご紹介します。

JICA関西

PS-21

主催：株式会社国際電気通信基礎技術研究所(ATR)

大規模災害化の通信途絶発生時のローカル通信技術

インターネットや電話が使えない環境でも利用可能な可搬型のローカル通信システムLACS (Locally Accessible Cloud System) を紹介しました。LACSは、大規模災害時に発生しうる通信途絶環境において、災害対策本部や避難所などで急増するローカルな通信需要に即応します。展示では、LACSを用いて実現した災害情報共有システム：ポータブルSIP4Dのご紹介等を行いました。

PS-22

主催：NPO法人 日本防災用品技術研究協会

老いも若きも みんないっしょに避難。介助運搬車（手押し車）

屋外展示のテント内では、介助運搬車の展示を行いパネル・モニターにて活動の様子・商品の説明動画等を流しました。テント前で介助運搬車の試乗会を開催しました。利用者の立場で安心・安全に乗車できるか、搬送者の立場で楽に搬送出来るかを体験していただきました。この商品は世の中で始めて開発され商品（特許取得）なので、「論より証拠」体験していただく事が一番と考えました。そして、椅子を取り外す事により普段使いが出来る事を見てもらうことが出来ました。

PS-23

主催：高知県

「メイド・イン高知」の防災関連登録製品のご紹介

高知県防災関連登録製品を掲載した「防災カタログ」(約160製品掲載)を配布し、来場者の防災ニーズに合わせて防災・減災に役立つ製品や技術を紹介しました。また、実際に備蓄関連の製品等を展示し、実際に手を取ってもらいながら、防災関連登録製品を見ていただきました。

PS-24

主催：ニッショウ機器株式会社

地震火災の脅威に備える

火災から命や財産を守るための、「モノ」に関する情報を中心に提供しました。

「阪神淡路大震災の火災被害状況」、「首都圏直下型地震の被害想定」をパネルで紹介し、自治会や家庭・個人を対象として、火災予防に関連する機器をチラシ等で紹介、説明しました。

火災を未然に防ぐ「感震ブレーカー」、新しい消火技術として「投げる消火弾」、「消火液剤バック」、「消火器用延長アダプター」などのサンプル展示も行いました。

PS-25

主催：パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社

イーブロックを軸とした

「循環型で持続可能な電源インフラ」構築のご提案

私たちは、必要なときにいつでもどこでも電源がある「安心な暮らし」の実現を目指しています。電気を持ち運びシェアすることができる次世代型バッテリー「e-block（イーブロック）」を用いた、避難場所や在宅での避難時に一人一人が快適で持続可能な電源の使い方を実演と導入事例を交えてご紹介しました。更に、イーブロックの構造、リサイクルスキームをご紹介し、安全性や環境への配慮についてのこだわりをご紹介しました。

JICA関西

PS-26

主催：KGホールディングス株式会社

身近にある水から飲料水を確保し、命を守る

実演での製品紹介を行いました。用意した泥水に「アクアリピュア」投入・浄水後、その水が飲料レベルに達成していることを試薬等の数値結果からご理解いただきました。また来場者・参加者自ら浄水操作を体験していただきました。さらに来場者・参加者ご自宅付近で、災害時に水を確保できる場所を検討いただきながら、地域防災の大切さに気づき、「自助」だけでなく「公助」に目を向けるキッカケにもなったと考えられます。

PS-27

主催：株式会社矢野商店

ドローンマッピングの災害時利活用について

自助・公助・共助それぞれの立場における無人航空機ドローンを活用した災害時の利活用をご紹介させて頂き、活用方法の分からない方や組織団体に対して目的別に低コストで高効率な技術をご紹介させて頂きました。

PS-28

主催：ビット・パーク株式会社

**これからの避難所に是非用意して頂きたい
"ココBOXⅡ" & "福祉バイオトイレカー"**

避難所支援システム"ココBOXⅡ"、及び屋外展示として"福祉バイオトイレカー"実物展示。"ココBOXⅡ"は発災時に避難所や津波タワーを遠隔解錠。動作確認やセンサ活用による、現場情報収集機能を紹介しました。"バイオトイレカー"は水を使わないエコでクリーンな移動トイレ。水なしトイレで大変な御経験をされた、神戸市民の皆さんに、実際にご覧頂き、有効性や必要性をPRしました。

PS-29

主催：株式会社 C-SOS

自助期間を生き残るための簡易トイレセット「BENKING/便王」 高密度発泡スチロール製組立式簡易トイレ

- ①生き残るための簡易トイレセットBENKINGの展示、着座体験、組立体験
- ②BENKINGの災害支援や簡易トイレ備蓄普及活動の画像展示
- ③災害時のトイレの必要性やトイレ備蓄の有効性のレクチャー等
- ④動画の放映（簡易トイレの選び方、組み立て方、子供向けアニメーション（組立教示）など
- ⑤災害支援車両（BENKING CAR）の展示
- ⑥ウクライナ避難民へのBENKING人道支援の画像展示など

PS-30

主催：エピスタ コーポレーション/株式会社プリート
**ノンアルコール・アトピー肌用化粧品から生まれた
ウエットティッシュ（化粧品類）！**

「エピスタプロブルやさしいウエットティッシュ」は各種のデータを保有した感染対策のできる敏感肌用化粧品のウエットティッシュです。乳幼児や口腔ケアと全身拭き、油污れやニオイまで対応し、衛生管理が行え、ノンアルコールで敏感肌の方も安心してお使い頂ける、使う方を選ばない多機能多目的型商品。

誰でもどこでも簡単に安心トイレが作れる新発想の「エピスタレスキュー自立型携帯トイレ」。トイレ不足時のトイレ問題に対応。

JICA関西

PS-31

主催：株式会社 フジヤマ

航空レーザ計測の可視化技術を活用した土砂災害や落石に関する調査・設計

- ・小型ドローンを展示し、計測風景、取得画像、取得点群データ活用事例を紹介
- ・災害要因の解析・・・航空レーザ計測データの可視化技術を落石・斜面崩壊調査において効果的に活用した事例を紹介
- ・津波シミュレーション、災害ハザードマップ、防災管理GISシステムを紹介

IHDセンタービル

PS-32

主催：株式会社Laspy

日本初の防災備蓄提供サービス「あんしんストック」のご紹介

展示ブースやオンラインでのプロダクトご案内、防災に関心のある関係者様へのプロダクトのご説明を行いました。

PS-33

主催：Pix4D株式会社

フォトグラメトリによる災害の見える化

災害・事故などの緊急時において、ドローンで撮影した画像から現場のマップを高速で生成するソフトウェアソリューションをご紹介します。最先端のドローン・写真測量技術で、現状の把握と早急な対応をサポートします。

PS-34

主催：一般社団法人 防災備蓄収納プランナー協会

家庭も事業所も『防災備蓄が当たり前の日本』を目指して
各種講座のご紹介

「何を？」「それくらい？」「どう維持管理？」自宅や事業所における『防災備蓄の導入から収納と管理まで』の3大疑問を解決する各講座をご紹介します。

「災害時にすぐに活かせる安全な防災備蓄を実現化し、その後も生き延びる」ことを重点に置き、実行するためのポイントをわかりやすく凝縮し、1日で具体的な仕組みが習得できるプログラムです。

安心安全な家庭備蓄、職場備蓄の一歩になりますよう、ご相談も承りました。

PS-35

主催：FDK株式会社

いざという時にそなえて 電池の上手な備蓄

懐中電灯やランタン、ラジオなど、災害時に電池を使用して活躍するアイテムはたくさんあります。

災害に備えてローリングストックなど防災備蓄の方法や、いざという時に電池がしっかり役立つ為にさまざまな情報を紹介しました。

10年保存可能で防災備蓄に適したFUJITSUアルカリ乾電池、また、乾電池式スマホ充電器、LEDラジオ付ラジオ、アルカリ乾電池などがセットになった『非常時サポートセット』を紹介しました。

IHDセンタービル

PS-36

主催：神戸クロスロード研究会

防災ゲーム「クロスロード」を体験しよう！

防災ゲーム「クロスロード」を使った防災ワークショップを展開し、クロスロード未経験の方や、自分の防災活動で使って行きたいと考えている方に体験していただきました。

PS-37

主催：なるとにし てととて

おとなも子どもも なかよくなると→ぼうさい

当団体が継続している、多世代の地域住民を緩くつなぐ「子どもふれあいひろば」や、親子の学びのきっかけの場「防災ワークショップ」の様子をポスターやチラシで報告します。ワークショップで子どもたちの反応の良かった防災絵本の紹介や、SDGs達成のための食品ロス対策と災害への備蓄を解決するローリングストックについての考察をシェアし、全国の地域や教育の現場で防災に携わる方々と交流を持ち情報交換をしたいです。

PS-38

主催：一般社団法人社会応援ネットワーク

わくわく防災のススメ

教職員や保護者が子どもたちと一緒にできる、防災教育と心のケアの実践的なワークショップを行いました。「自分ができることから始めよう」をコンセプトに、日常において意識すべきこと、日用品で作る防災グッズの作り方、そして被災時に知っている心強い、心のケアの具体的方法（呼吸法などのリラクゼーション）をお伝えしました。

PS-39

主催：神戸市教育委員会

神戸市における防災教育の紹介

阪神・淡路大震災以降、神戸市は防災教育の先進地として、各学校園において「『生きる力』を育む防災教育」を進めてきた。そして、それぞれの地域の実態に応じた防災教育について研究を取り組んできた。平成25年度からは、文部科学省と委託契約を結び、防災教育の実践研究推進校園を指定して研究を進めてきた。推進校園に指定した学校園において取り組んだ実践事例をもとに神戸市の学校園の防災教育を紹介した。

PS-40

主催：パナソニック ライティングデバイス株式会社

防災対策用 タングステン耐切創手袋

災害時に役立つ「耐切創手袋」のご紹介しました。避難時や災害後の片付け作業時など、ガラスやがれきが飛散した危険な状況下でしっかりと手を保護します。

「タングステン」という高強度金属を、毛髪の約1/4の極細ワイヤーに加工し、糸にして編み上げることで、しなやかでも丈夫な手袋になります。この手袋は、白熱電球の発光部(フィラメント)のタングステン加工技術を活かして、パナソニックが開発、販売しています。

IHDセンタービル

PS-41

主催：株式会社ブルーウッド

「感震ブレーカー "光る" おもり君」 実用新案登録第3234813号

・地震の二次災害である漏電火災を防ぐために、感震ブレーカーの設置の必要性を自治体等へ訴えました。また、従来の簡易式の感震ブレーカーでは、電気が遮断され暗闇になることで避難が困難になる状況を解決するために開発をした、実用新案登録第3234813号 感震ブレーカー “光る” おもり君のご紹介をしました。

PS-42

主催：有限会社西谷

いつもの野菜不足は、もしもの時はもっと足らなくなるがテーマ。野菜の非常食だけ「いつもともしも やさいぼうさい」

日本人は常に野菜不足。SNSを通して「災害時×野菜」のエピソードを集め、いつもの野菜不足は、もしもの時はもっと足らなくなることが分かった。そこで野菜の旨みと栄養、水分を同時に摂取できる、調理不要のおいしい野菜の非常食を選び、1箱で日本人の野菜類平均摂取量の約2日分が摂れる、野菜に特化した「やさいぼうさい」を開発。東北学院大学の震災と復興プロジェクトと共同で、非常食のアレンジレシピブックも製作した。

PS-43

主催：ホリカフーズ株式会社

災害食を通じて人々を支える

防衛省に60年以上の納入実績があり、無菌包装米飯、レトルトパウチ食品、缶詰をはじめ、治療・介護食や業務用製品など様々な食品を手掛けている当社の災害食は、安心・安全の品質で災害時に本当に必要とされる災害食として全国各地の被災地でご活用いただいております。また、企業備蓄、個人備蓄をはじめ、自助、公助、共助のどれにおいても災害食を通じて人々を支え、お役に立てることをご紹介いたしました。

PS-44

主催：竹内工業株式会社

身近にある救助用品

災害時の三種の神器、車用のジャッキ、STOレスキュージャッキ等の救助用品の展示及び実際に触って頂きました。数十kgの重りを用意し、人の手だけで持ち上げた時と道具を使って持ち上げた時と比較体験出来るようにします。また、子供たちにより身近に感じてもらうためにジャッキの部品を使ったワークショップを実施しました。

PS-45

主催：大丸鐵興株式会社

飲み水だけでは不十分、生活用水も確保しませんか？

みずがめ君と小型非常用貯水槽協会の製品紹介（ポスター・設置事例写真を使用）、みずがめ君は今春より発売開始した遮熱保温カバーを装着して展示しました。水の備えはペットボトルで飲用水を確保していれば充分と思われる方がまだまだ多いですが、実は生活用水の確保も同じくらい大事で、その重要性和世帯数に応じた必要な確保量を中心にわかり易くご覧いただける展示を行いました。

PS-46

主催：関西大学社会安全研究科

関西大学社会安全研究科の国際・社会人コースの先進性

関西大学社会安全研究科では、国際的な防災研究・教育の取組を強化し、博士後期課程英語コース Program of Disaster Managementを開始しました。また、リカレント教育として、防災・安全分野の官民の社会人を数多く受け入れてきました。これらの成果について展示し、安全な社会構築への貢献を訴えました。対象は高等教育のさらなる習熟を考えている海外の学生や社会人、一般の方などとししました。

イグナイトステージ詳細

※出展団体に確認したものを掲載。

JICA関西

IG-1 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 12:30~12:45

主催：国立国会図書館

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」の取組みについて

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）について紹介しました。
「ひなぎく」は、東日本大震災に関するあらゆる記録を一元的に検索できるポータルサイトです。
震災の記録と教訓を次の世代へ伝え、今後の防災教育・減災対策への活用に資することを目指しています。
図書や雑誌に加え音声・動画、写真、ウェブ情報等約460万件以上の震災記録が検索可能です。
これからも、様々な機関と連携・協力して、震災の記録と教訓を伝え続けます。

IG-2 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 12:55~13:10

主催：ハウス食品グループ本社（株）

災害時でも、みんなが「ホッと」出来る食事をご提案！

災害発生時から避難生活に至る各フェーズに対応した、グループ各社の防災関連商品を紹介させていただきました。
平時から災害に備えたローリングストックの考え方に適したレトルト食品や長引く避難生活のなかで発生する栄養不足不足問題を解決する「栄養強化米」など、あれば本当に役立つ製品を中心に提案しました。

IG-3 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 13:20~13:35

主催：株式会社MT-NET

災害多発・多様化時代を迎え撃つ、 個人・団体・そして自治体の新しい「備え」の体験

在宅避難、避難所への避難、さらには広域避難。それぞれの避難スタイルに合わせた災害への備えを、多彩なグッズを取り扱う「防災専門店」の強みを生かして、防災グッズの実物を見て触れてご来場者それぞれに適した備えの内容をご来場者ご自身で検討できるワークショップを随時開催するほか、自治体や企業で限られたスペースを効果的に活用できるような備蓄の方法、新しい製品（自社開発・当社取扱）もご提案しました。

IG-4 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 13:45~14:00

主催：KOBEB防災コミュニケーションズ 縄文式健康法チーム

初出展！みんなで実践！！ こころといのちを守る縄文式健康法！！（手話付き）

「体験したからこそ伝えたい！こころといのちを守る10のヒント」から、心と命を守る備えとして、いつでもどこでも避難所でも簡単にできる縄文式健康法を、聞こえ方に関係なく一般の方に向けて紹介しました。リーフレットを用いて、1回20~30分程度の講座を1日数回開催。縄文式健康法は、脳内を活性化させ、ストレスや鬱症状の軽減、免疫力アップや安眠が期待できる健康法である。

IG-5 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 14:10~14:25

主催：クラーク株式会社

ペットも家族！ペットと一緒に避難できるちびねこテント、 安全に猫を保護できる猫保護器

飼われているペットの数が15歳未満の人口を超えるようになった現在において、災害時にペットと一緒に過ごすことのできるテントと、発災時逃げ出したペットの猫を傷つけることなく安全に保護できる保護器を展示し、自治体の皆様から一般の皆様まで広くPRいたしました。テントは内部に入ってもらうことで、ペットが脱走しない構造や風が抜けることで衛生管理がしやすい点を理解してもらいました。

JICA関西

IG-6 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 14:35~14:50

主催：神戸学院大学 クローズアップ社会研究会

防災大学生が選挙を斬る！

「社会×防災」をテーマに出展を行いました。具体的には、2022年7月に行われる参議院議員選挙による、候補者の公約と防災の関係を調査、研究し、それについての発表を行う。この発表をもとに、我々市民の抱く防災への思いを政治に反映させられるような提言を行いました。

IG-7 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 15:00~15:15

主催：名古屋大学 減災連携研究センター

みんなのまわりはだいじょうぶ？～子どもから大人へ広げる防災～

子育て世代への防災浸透のアプローチとして、子どもたちに防災を学ばせることで、親世代に浸透させ、ひいては子どもたちが親世代になったときに防災についてしっかりした知識を持った大人に成長させるという循環型の防災教育を考えています。そこで、子どもたちが楽しく防災について学べるように開発した啓発ツールを紹介しました。

IG-8 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 15:25~15:40

主催：エリーパワー株式会社

BCP対策について

展示会場では実際に蓄電池、発電機、太陽光パネルを設置し手軽に簡単にBCP対策ができる点を強調した内容を行いました。自治体様が管理される、小中学校の避難所や企業様、個人宅で多くの採用実績が御座いますので来場された方々に対して工事を必要としない可搬型蓄電池の御紹介をおこないました。

IG-9 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 15:50~16:05

主催：RainTech株式会社

「私の地域の雨量計」による自助防災支援サービス開発の取り組み紹介 ～地域の正しい降雨量把握による一人ひとりの危険度見える化で避難行動支援～

今年度、豊田市と共同で実施する、土砂災害警戒区域の特徴的な地形で発生する局地的大雨（ゲリラ豪雨）の観測精度向上および観測データを住民が分かりやすい危険度として届けることでの確かな避難行動を促す取り組みの経過報告を出展しました。我々は、テクノロジーを活用した自助防災の強化を目指しているため、当大会では行政防災担当者・地域の防災リーダー・に取り組み内容を聞いて頂き、議論・ご意見頂きました。

IG-10 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 16:15~16:30

主催：ヴィガラクス株式会社

災害時の孤立化に挑み続ける自主防災組織の取り組み、 民間企業と模索したかつてないチャレンジ

弊社と生きがいのある須金をつくる会で取り組んだクラウドファンディングを活用した過疎地域の災害対策活動の事例（プロジェクト立ち上げから設置、現在の活用状況）、並びに背景にある災害時に被災し孤立化しがちな過疎化する山間地域の現状と課題、そして対策を模索し長年自主防災組織で取り組んできた住民主導かつ地域独自の防災への取り組みと成果をパネル展示とムービーで紹介しました。

JICA関西
IG-11 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 16:40~16:55
主催：株式会社パソナ
人と人とを結ぶ防災ヘルプサービス～災害時における共助避難の新たな可能性～

パソナが構築した「防災ヘルプサービス」をご紹介します。災害時に、避難行動要支援者と地域の人を結びつけて避難を促す、避難共助マッチングシステムです。既に、自治体と市民の皆さまには実証実験にて本アプリケーションを体感いただいておりますので、アプリケーションの機能だけでなく、実証実験の様子や参加されたみなさまの声や災害時におけるデジタルの活用を知っていただきました。

IG-12 JICA関西2F体育館 10/22 (土) 17:05~17:20
主催：株式会社防災ログ
防災ビジネス創造と育成の研究会（RC77）、World BOSAI Forumのご紹介

弊社サービス「防災オンラインセミナー開催支援」のPR冊子の配布、弊社が発行している防災NEWS冊子の配布を通して認知度向上を目指しました。

IG-13 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 10:30~10:45
主催：株式会社KEiKAコーポレーション
**靴メーカーが考えた約1分で組み立てられる段ボールベッド
【ひらいてポン】2人部屋**

現物の展示と組み立て実演と、晴れてたら歩道に、何個かをベンチ代わりに置いて実際に座ってもらいました。

IG-14 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 10:55~11:10
主催：エアーストレッチャー株式会社
「エアーストレッチャー～様々な災害に対応した自吸式万能担架～のご紹介」

弊社が取り扱いをしております、複合災害対策医療シェルターの設営（災害救護テント ゲートキーパー20シェルター若しくは1935シェルターの展張を考慮しております）組立に道具を必要としない居住性に優れたフレーム型テント内に各種防災資器材の展示。また地上を滑らせながら安全な所へ搬送する救助担架であるエアーストレッチャーをご来場の皆様に実際に搬送体験をしていただく企画も実施しました。

IG-15 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 11:20~11:35
主催：シンロイヒ株式会社
自身の安否や、支援物資の要望を「見せる」「伝える」防災グッズ

蛍光塗料を生かした様々な表示に関する視認性の向上と分かり易さ。日頃の誘導サインにおける記憶の刷り込み、避難誘導などの視認性向上、災害時救助側または救助される側の視認性向上を目的とした使用例。

JICA関西

IG-16 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 11:45~12:00

主催：株式会社PKウエーブ

災害ファーストエイド ～災害時の怪我に備える救急包帯の使い方～

災害がおきると、怪我をしたり、体調が悪くなることは想定しなければなりません。ファーストエイドの中でも、時間との戦いとなるのが出血への対応です。

各国プロに採用されているエマージェンシーバンデージ（救急包帯）は、さまざまな出血に対応でき、骨折時の副木などさまざまなケースにも応用できるのが特徴です。止血に対する基礎知識とバンデージの使い方を学ぶことで、災害時の応急手当に役立ちます。

IG-17 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 12:10~12:25

主催：株式会社スギタ

防災避難着 早期発見全身反射ポンチョ

線状降水帯などゲリラ豪雨などによる洪水などの避難時に、着用して頂ければ、万が一遭難した際、暗闇でサーチライトなどに反射し、早期発見が可能になります。早期発見が可能になれば、要救護者の生存率が上がるだけでなく、捜索隊の危険度も格段に下がります。遮熱効果の高い生地を使い、遭難時、夜間の体温低下を防ぎ、低体温への対策も可能です。昨今の高齢者の健康ブームによる登山時の対遭難グッズとしても有効と考えます。

IG-18 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 12:40~12:55

主催：株式会社ワン・ステップ

「使用しないときはコンパクトに収納でき、 使うときは空気を入れるだけですぐに使える。」 特性を活かしたエアー式の防災商品

実際に空気の注入だけで簡単に設置出来る弊社商品を展示し、ご来場者の方々へ見てもらって、触ってもらって、「こんな商品（エアー式）もあるんだな」と、体感して頂けるような展示を行いました。

また、ご来場者さまの課題・お悩み事も、エアー式の開発力で1つでも多く解決できるように、様々な分野の商品を展示し、機会を作れるように取り組みました。

IG-19 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 13:05~13:20

主催：東西商事株式会社

停電時の自家発電自動切換えシステム(ATS)とLPガス発電機と IoT端末・クラウド連携による遠隔監視システムのご紹介

1. 停電時に設備しているLPガス式発電機が自動的に起動し、自家発電を始めるATS(Automatic Transfer Switch) システムのご提案しました。

2. LPガス発電機がIoT端末によりクラウド連携し、起動用バッテリーの電圧低下や起動時の状態（運転中/故障）が遠隔で監視できるシステムのご提案しました。

IG-20 JICA関西2F体育館 10/23 (日) 13:30~13:45

主催：防波システム研究所

津波防災を効果的に多重化する複数の対策

東日本大震災の後、東北の被災地では巨大防潮堤の建設が進みましたが、それらの防潮堤は百数十年に一度の頻度の高い津波に対応するもので、最大クラスの津波に対しては、ハード対策のみならず、ソフト対策も含めた多重化が要望されています。防波システム研究所は、それらの多重化に寄与する技術を研究開発していますので紹介しました。又、共に共同で開発して下さる企業や地方自治体を探しました。